

日南町告示第28号

令和6年第5回日南町議会定例会を次のとおり招集する。

令和6年8月27日

日南町長 中 村 英 明

記

招集年月日 令和6年9月3日

招 集 場 所 日南町役場庁舎 議場

○開会日に応招した議員

高 橋 洋 志君
荒 金 敏 江君
岩 崎 昭 男君
櫃 田 洋 一君
山 本 芳 昭君

荒 木 博君
岡 本 健 三君
大 西 保君
近 藤 仁 志君

○応招しなかった議員

な し

令和6年 第5回（定例）日 南 町 議 会 会 議 録（第1日）

令和6年9月3日（火曜日）

議事日程（第1号）

令和6年9月3日 午前9時10分開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

出席議員（9名）

2番 高 橋 洋 志君	3番 荒 木 博君
4番 荒 金 敏 江君	5番 岡 本 健 三君
6番 岩 崎 昭 男君	7番 大 西 保君
8番 櫃 田 洋 一君	9番 近 藤 仁 志君
10番 山 本 芳 昭君	

欠席議員（なし）

欠 員（1名）

事務局出席職員職氏名

局長 長 崎 み よ君 書記 倉 光 祐 希君

説明のため出席した者の職氏名

町長	中 村 英 明君	副町長	角 井 学君
教育長	青 戸 晶 彦君	総務課長	實 延 太 郎君
まち未来創造課長	島 山 圭 介君	地域づくり推進課長	浅 田 雅 史君
住民課長	島 山 亮 子君	環境エネルギー課長	宇 田 聖 子君
福祉保健課長	出 口 真 理君	こども若者未来課長	段 塚 直 哉君
農林課長	坂 本 文 彦君	建設課長	渡 邊 輝 紀君

教育次長 三 上 浩 樹君 会計管理者 高 柴 博 昭君
農業委員会事務局長 高 橋 裕 次君 病院事業管理者 福 家 寿 樹君

議長挨拶

○議長（山本 芳昭君） おはようございます。

令和6年第5回定例会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

開会に先立ち、一言御挨拶申し上げます。

先月末、九州に上陸した台風10号は、日南町内では大きな被害はなかったものの、移動速度が遅く、大雨による被害が発生して、昨日までに全国では6名の死亡、127名がけが、1人の行方不明者の被害が発生したと報道されています。被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

また、今年の夏は大変な猛暑でしたが、ところどころで稲刈りも始まり、秋の気配も感じられるようになりました。朝夕は涼しくなったとはいえ、日中は暑い日が続いています。熱中症対策など、体調管理には十分気をつけていただきたいと存じます。

さて、今期定例会は、補正予算をはじめ、条例の一部改正、令和5年度決算認定などの議案が付議されています。議員各位におかれましては、非常に長い期間の議会となりますが、活発な議論と慎重な御審議をお願い申し上げます。

執行部各位におかれましても、議会運営に当たり、格段の御協力をいただきますようお願いを申し上げます。冒頭の御挨拶といたします。

午前9時10分開会

○議長（山本 芳昭君） ただいまの出席は9名です。定足数に達していますので、令和6年第5回日南町議会定例会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、タブレット日程ファイルのとおりです。

タブレットの令和6年第5回定例会フォルダーの報告書フォルダーから説明員の報告ファイルをお開きください。地方自治法第121条の規定により、本定例会に出席を求めた者は、報告書のとおりです。

次に、例月出納検査ファイルをお開きください。本町の監査委員から、令和6年6月19日、令和6年7月19日及び令和6年8月20日付をもって、地方自治法第125条の2の規定による例月出納検査の結果については、報告書のとおりです。

次に、議員派遣の報告ファイルをお開きください。本日までに議長において決定した議員派遣の件については、報告書のとおりです。

次に、産業振興センター経営状況ファイルをお開きください。町長から、令和5年度一般財団法人日南町産業振興センターの経営状況について、地方自治法第243条の3

第2項の規定により報告がありました。

次に、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価ファイルをお開きください。
本町の教育長から、令和5年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により報告がありました。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（山本 芳昭君） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員は、日南町議会会議規則第125条の規定により、議長において、3番、荒木博議員、4番、荒金敏江議員の2名を指名します。

日程第2 会期の決定

○議長（山本 芳昭君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

今期定例会の会期は、さきに議会運営委員会に諮問し、答申を得ていますが、その会期は、本日9月3日から9月26日までの24日間です。

お諮りします。今期定例会の会期は、議会運営委員会の答申のとおり、本日9月3日から9月26日までの24日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本 芳昭君） 異議なしと認めます。よって、会期は、本日から9月26日までの24日間に決定しました。

つきましては、今期定例会の運営について格別の御協力をお願いします。

○議長（山本 芳昭君） ここで、執行部から発言が求められていますので、これを許します。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 令和6年9月定例議会の開会に当たりまして、一言御挨拶をさせていただきますというふうに思っております。

最近の話題として、4点ほど概要の報告をさせていただきたいと思います。

最初に、台風10号につきましてですが、先ほど山本議長さんからも御挨拶の中でありましたけれども、今回、本当に大型の台風ということでありました。本町におきましては、風のほうも影響がほとんどないというような状況でありましたけど、雨量のほうですが、福栄から石見の東のほう、こういった方面のほうで多く雨量がっております。累積ではありますが、180ミリぐらいの総雨量であったというふうに記録しております。人的な被害もなく、安堵してるところでございますが、一方では、全国的には多くの方が亡くなられたり、被害があったりということでもありますので、お悔やみとお見舞いを申し上げたいというふうに思っております。

町内の動きとすれば、被害はありませんでしたが、ただ、地域におきましては、自主避難所を開設していただいた地域もあるということでもありますので、お礼を申し上げたいというふうに思っております。今回の台風は予想し難い台風だったというふうに思っておりますので、そういったときも含めて住民の皆さんの安心に寄与できたものというふうに思っておるところでございます。

2つ目でございますが、米の概算金、野菜等の高値、子牛の価格の低下というテーマでお話をさせていただきたいというふうに思っております。

先日の8月29日でございますが、鳥取西部農協のほうであります今年の米の概算金のほうが公表されました。農家の皆さんの生産コストの増大する中ということと、品薄で需要高を背景に、コシヒカリでございますが、1等米価格のほうが37%増の8,800円、日野郡産につきましてはプラス100円の8,900円でございます。ヒメノモチのほうですが、9,000円という力強い価格に感謝申し上げたいというふうに思っております。ここ20年間の中で最も高い値段でありまして、全国的な動きとなっております。来年度に向けての意欲につながるものというふうに思っております。

先日、役員の方に会う機会があり、お礼を申し上げますとともに、さらなる御尽力をお願いしたところであります。あわせて、野菜類のほうも高値で推移してるというふうに聞いております。ただ、暑いというところがありますので、品質でありますとか収量確保のほうに向けて引き続き努力をしていただければというふうに思っております。

一方で、11年ぶりに50万円というところの子牛の値段でございますが、それを下回りまして、全国平均も下回る状況での鳥取県の和牛の単価でございます。町内の和牛農家は10戸ありますけれども、先日ですが、7戸の方の皆さんとの意見交換を行ったところであります。日頃からの姿をお聞きするとともに、生産基盤強化に向けての話し合いをするとともに、農家間の情報交換の場を関係者の皆さんと共に設けていきたいと思いますというふうなお話をさせていただいたところであります。

3つ目ですが、日章旗の返還でございます。8月25日でございますが、下石見のお亡くなりになられた火山行一さんの寄せ書きの日章旗のほうが見つかりまして、遺族への返還式を役場で行ったところであります。81年ぶりの返還ということで、息子さんのほうは大変喜んでおられました。連合軍の兵士が持ち帰った日本兵の遺留品返還活動を行っておりますOBONSOCIETY、オレゴン州にありますが、その団体に遺族の搜索依頼をされ、関係機関の協力で遺族が判明した経緯でありまして、まだ2,700点あるというふうにお聞きしております。鳥取県内では初めてのことでありますし、今後の遺族や遺族会と相談しながら、平和をテーマとした活用を考えていきたいというふうに思っております。

最後の4点目でございますが、今年1月の臨時議会冒頭の挨拶の中で、今年はたつ年ではあります、きのえたつという年でありまして、縁起のよい年というところでもあります。一方で、政治で大きな変化が起きることが多い年と言われてるというふうに紹介

をさせていただきました。御案内のように、立憲民主党の代表選、あるいは自由民主党の総裁選のほうこれから告示、投票となります。また、その後の動きも予想のほう報じられておりますが、日本を引っ張っていく、ふさわしい方になっていただくことを期待したいというふうに思っております。

最後になりますが、本定例会のほうに、条例の一部改正が2件、補正予算5件、決算認定が10件、報告が1件ということで上程をさせていただいております。長期間にわたる本定例会でありますけれども、御承認を賜りますようお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

日程第3 一般質問

○議長（山本 芳昭君） タブレットの一般質問フォルダーをお開きください。

日程第3、一般質問を行います。

一般質問は、通告順にこれを許します。

8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 様々なところで人材不足が叫ばれてる今日、日本国内に限らず、全世界が外国人材を求めています。インターナショナルで魅力のある日南町になってほしいと思います。

9月定例会では、3つの質問をさせていただきます。

まず最初に、JETプログラムについて。

1、新規配属されたCIRの活用、取組を伺います。

2、JETプログラム、ALT、CIR、SEAのさらなる活用及び展開を伺います。

3、日南町では、近年、英語力に力を入れているが、目指す方向性と町内外へのPRも重要と考えますが、見解を伺います。

そして、外国人と共に歩むまちを、多文化共生について伺います。

1、モンゴル交流の今後の展開を伺います。

2、外国人材育成就労プロジェクトの現在の状況及び今後の見通しを伺います。

3、外国人の受入れ推進とともに、住まい等、環境整備も必要と考えますが、見解を伺います。

最後に、2030年問題もクローズアップされるようになりました。エネルギー政策について伺います。

1、石見東太陽光発電の稼働状況、また、太陽光パネルの償却時期も近いうちに到来すると考えられるが、どのように取り組まれるのか、伺います。

2、SDGs環境のまちを標榜しているまちとして、公共施設への再生可能エネルギーも導入するべきと考えますが、見解を伺います。

以上、よろしくお願い致します。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 櫃田洋一議員の御質問にお答えしますが、1点目のJETプログラムについてのうちの①、②につきましては教育長のほうから答弁をいたします。

まず、1つ目のJETプログラムの3点目、英語に力を入れているが、目指す方向性と町内外へのPRも重要と考えるが、見解を伺うという御質問でございます。

社会のグローバル化が進む中、国際社会で能力を発揮するためには、国籍や国境を越えて様々な人々と協働、共創するためのコミュニケーション能力を養うことが不可欠であります。そのような中、本町では、幼少期から異文化に触れながらコミュニケーション能力を高めるために、これまでシアトルへの児童生徒派遣、そういった費用助成をはじめ、モンゴルの日本語教室との交流、実用英語技能検定の全額補助、あるいはAIのアプリを活用したスピーキング練習など、英語教育を進めてまいりました。引き続き小・中学校への外国語指導助手ALTを配置し、児童生徒が外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさであったり、大切さを実感できる授業の充実を図ってまいりたいというふうに思っております。

また、今年度から、新たに国際交流員CIRを配置しました。これにより、認定こども園の園児から一般町民まで広く英語や異文化への関心と理解を高められるよう、多彩な国際交流、多文化共生事業を展開し、グローバル化する国際社会において活躍できる人材育成や国際化に対応できるまちづくりを推進してまいりたいというふうに思っております。これら一連の取組は、今年度から本町が独自の子育て支援策として打ち出した子ども子育てど真ん中戦略パッケージの一角でもあり、令和の7年度からの第3期日南町総合戦略においても重要な位置づけになるものと考えとります。子育ての世代や若者人口の増加に向け、町のホームページをはじめ、各種SNSを用いた情報発信、戦略パッケージチラシの配布など、引き続き町内外へ積極的なPRに努めてまいりたいというふうに思っております。

続きまして、2つ目の多文化共生について、モンゴル交流の今後の展開を伺うという御質問でございます。

これまでゾーンモド市との交流により養ってきた信頼関係を基に、引き続き交流活動を続けていきたいというふうに考えております。今後の展開として、従来の相互交流に加え、文化、イベント、ビジネスの商談会、災害の支援などが考えられますけれども、具体的な内容につきましては、お互いの情報交換や意向を確認しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

次に、外国人材の育成就労プロジェクトの現在の状況及び今後の見通しを伺うという御質問でございます。

介護人材育成コースでは、日南病院と日南福祉会が鳥取城北日本語学校を通じて採用に向けた取組を行っております。本年度は、全ての学生が介護専門学校への進学を希望し、日本語学校卒業後は2年間介護の専門知識を学び、令和9年4月から仕事に就くこ

とになります。現在、日南病院が2名に内定通知のほうを出してるところでございますが、日南福祉会には第1希望で就職を希望する学生がおらず、本年度の鳥取城北日本語学校からの採用は見送る状況となっております。人材の確保が急務である日南病院は、特定技能外国人材も並行して検討していますし、日南福祉会も同様の状況にあるため、職業紹介事業所からの採用も含めて検討を進めておるところではございます。

また、株式会社オロチのほうですが、在留資格の技術・人文知識・国際業務、いわゆる技人国の人材の採用を目指していましたが、本年度、鳥取城北日本語学校に入校する人材が極めて少なく、就労に向けた採用は厳しい結果となりました。現在オロチは、外国人の技能実習生または特定技能外国人の受入れを目指して職業の紹介事業者と調整を続けておりますが、互いに情報共有を密にし、議会への報告を適宜行いながら人材の確保に努めてまいりたいというふうに思っております。

次に、③の外国人の受入れ推進とともに、住まいなどの環境整備も必要と考えるが、見解を伺うという御質問でございます。

外国人の就労の受入れにおいて、住宅の確保は必要となります。本年の8月の鳥取城北日本語学校の学生の面接におきましても、学生側からの住まいの環境についての質問が多く、就労先を決める上で大きなポイントであると認識しております。特に外国からの就労者は、自動車を持たないため、通勤や生活に利便性の高い場所での住宅確保は人材確保の面でも大きなアドバンテージになると考えております。職員の住宅は、基本的には採用する事業所が主体となって確保すべきではありますけれども、町としては、職員住宅の整備に係る支援は必要だというふうに考えております。

続きまして、エネルギー政策についてということで、石見東太陽光発電の稼働状況、また、太陽光パネルの償却時期も近いうちに到来すると考えられるが、どのように取り組むのかという御質問でございます。

平成の24年度の発電の開始から11年経過した石見東太陽光発電所は、現在、大きな修繕もなく、順調に稼働しています。また、売電の収入につきましては、目標の年間1,300万円に対して令和5年度は1,087万2,000円と、約84%の達成状況となっております。これにつきましては、令和4年度の制度の創設によります太陽光発電設備の廃棄等費用積立制度、解体等積立金と代理制御調整金が月々の販売額から変動的に控除されることになっており、その控除額が高額だったということ、また、設備関係におきましては、落雷が原因であったと思いますけれども、発電停止となり、復旧までに半月程度かかったこと、あるいはパワーコンディショナーの1台が故障したことなどが主な要因と考えております。本年度におきましては、現在のところ、故障もなく発電を行っております。引き続き目標額に達するよう維持管理をしていきたいと思っております。

また、太陽光のパネルについてでございますが、法定の耐用年数が17年であります。パネルの寿命は25年から30年程度と言われております。これは資源エネルギー庁の参考にした数値でございます。必要に応じてメンテナンスを行いながら、できるだけ長

く効率的な発電のほうをしていきたいというふうに考えております。発電設備の撤去、処分が必要な段階に来た際には、太陽光発電所として更新し、あるいは直営の運用を続けるのか、また、何らかの民間企業を誘致するのか、町有地として別の活用を行っていくのかなど、選択肢が考えられます。最も町益にかなう選択ができるよう、将来を見据えて今後早めに検討を始めたいと考えますが、当面は効率的な発電の長期継続を目指していきたいと考えております。

次に、公共施設への再生可能エネルギー導入をすべきと考えるが、見解をお伺いするという御質問でございます。

御案内のとおり、本町は、2021年に、令和3年でございますが、2050年までにCO₂排出実質ゼロを目指すカーボンシティ宣言ということを行うとともに、令和6年3月に定めましたグリーンドリーム計画におきまして、町内の化石燃料消費をゼロにし、電力も化石燃料由来のものはゼロにし、エネルギー全体を再生可能エネルギー排出ゼロに変えていくことを施策の方針に掲げております。

しかし、現状では、省エネの機器や断熱の建築、省エネ車の普及は限定的である上、日南町内の再生可能エネルギーの割合も電力で申し上げますと、39.4%、いわゆる環境省の2022年度の調べでございます。こういった状況にありますので、熱利用や運輸の燃料における再生可能エネルギー割合はもっと小さくなっております。目標実現のためには、公共施設への再生可能エネルギーの導入についても必要であると考えておりますし、まずは役場庁舎と隣接する文化センターでの導入可能性について検討を行っているところでございます。

今後、公共施設の新築や改修の際には、太陽光発電を含めた再生可能エネルギーの導入について検討してみたいと思いますけれども、まずは既存施設の修繕や改修の時期に合わせて、省エネ設備機器、例えばLED灯でございますが、そういったものの導入や高断熱建築を選択するなど、脱炭素を意識した取組を進めてまいりたいと思います。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、1つ目のJETプログラムについてのうちの①、②につきましては教育長のほうから答弁をいたします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 櫃田洋一議員の御質問にお答えいたします。

1、JETプログラムについて、①新規配属されたCIRの活用、取組を伺うとの御質問ですが、まず、ALTは小中高での語学指導を担当いたします。CIRは、翻訳や通訳、国際交流や異文化理解のための事業の企画、助言、補助などを担います。したがって、CIRの活用として現在考えておりますのは、こども園での交流活動、町民向けの語学教室や異文化理解のための講座の開設、町報等での情報発信、役場業務における外国人対応への協力等を計画しております。

また、小・中学校におきましては、外国の文化等についての事業や交流活動など、語学指導以外の部分で活用を図りたいと考えております。さらに、役場や学校以外でも、

例えばまちづくり協議会、あるいはむらづくり協議会等で国際交流に関する事業を計画された場合には協力することも可能でございます。必要な場合には、教育委員会に御相談いただければと思います。

次に、②JETプログラムのさらなる活用及び展開を伺うとの御質問ですが、JETプログラムは、外国青年を招致して地方自治体で任用するもので、その職種には、さきに答弁しましたとおり、外国語指導助手ALT、国際交流員CIR、そしてスポーツ交流員SEAの3つがあります。本町においては、これまでもALTやCIRを招致していますが、今回ALTとCIRを同時に招致したことを生かし、町長の答弁にもありましたが、園児から一般町民まで広く英語や異文化への関心と理解を高めていきたいと思っています。

シンク・グローバリー、アクト・ローカリーという言葉があります。地球規模で物事を考え、足元から行動せよと訳されとりますが、英語教育を通して広く社会や世界に目を向けるとともに、身近な地域の魅力を生かし、郷土への誇りや愛着を持つ人材の育成を図ってまいりたいと思います。スポーツ国際交流員の役割は、スポーツを通じた国際交流及び競技力の向上のサポートであり、今のところ、スポーツの専門家であるSEAを招致する計画はありません。スポーツ分野での国際交流も意義があるものというふうに思っておりますので、必要があればCIRの活用によって対応していきたいと考えております。

以上、櫃田洋一議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） まず、新しく配属されたCIR、エラさんですけども、来月号の町報で紹介するというふうに記述がありました。ただ、10月号の町報では遅いので、今回9月っていうか、8月25日に発行された町報でやはり紹介されるべきじゃないかなと思うんですよ。例えば町なかで見かけたときに、あの人は誰ってというような分からないブランクがありますよね。これはちょっとどう思われますか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 議員おっしゃられるとおりの部分があるんですが、残念ながら8月に入ってから来たというところもあって、なかなかそういう町報には間に合わなかったというところがあります。そういう部分を補うということで、今月には講座を持って、エラがいろいろな、ここに来た訳であるとか、あるいは自己紹介であるとか、イギリスから来てますので、イギリスの紹介をするというような講座を今度持つようにしております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） このCIR、エラさんの紹介というか、少し簡単に説明いただけますか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 女性ではあるんですが、私もどういふふうにお答えすればいいかという部分もあるんですが、名前は、先ほどおっしゃられたように、エラというふうには、23歳ではなかったかなというふうに思うんですが、非常に優秀なCIRです。イギリスのロンドンからちょっと南のほうに行ったちょっとした田舎町というところに住んでたというところでありますが、家族はみんな音楽好きでというふうなことで、本人もギターを弾いたりとかいろいろなことをやってる、そういう音楽的なことを家族でやってるというふうなことも聞いています。また、バドミントンもやってたというふうなことから、町内のバドミントンの同好会さんにも紹介をして、そこで今実際にそこに入って練習もしているというふうなところでもあります。非常に日本語も上手ですし、気やすく話もしてくれますし、とっても優しい、女の子というふうに言ってもいいのか、女性であるというふうなことは言えるというふうに思います。

あと、詳しいことっていうのは、なかなかそれ以上のことっていうのは、資料を用意してませんので申し訳ありませんけど、私の感じた部分ではそういうところでもあります。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） ロンドンの少し南ということは、イギリスっていうか、英国は大きく分けて4つありますよね。イングランド、ウェールズ、スコットランド、ノーザンアイルランド。そうすると、イングランドということによろしいんですか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） イングランドだったような気がします。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） これからいろいろな講座がされるというふうに言われました。私たち町民は、一番はやっぱり英会話教室なんですね。だからALTのときもそうでしたけども、ALTは、なかなか就業時間があって英会話教室にはちょっと難しいというのがありました。今回は本当にCIR、国際交流員ですので、もう町民の皆さんとどんどん交流して英国の文化をやっぱり広めてほしいと思います。英会話教室の開催は決定してるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 今まだ相談中ですが、10月ぐらいからでもできたらやりたいなというふうなことは考えております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 9月の24日にイベントがあるというふうにお聞きしましたけども、それはどんなイベントなのか説明いただきたいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） イベントというふうに言われましたが、町民大学で、先ほど私、話をしました自己紹介であるとか、住んでいたイギリスの話を町民の皆さんに向け

てお話をするというふうな機会を持つということでございます。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 役場業務でも外国人対応というふうにおっしゃってたんですが、それは例えば外国人ですから町内にいる外国人、ベトナム人、中国人、フィリピン人等々の対応をしていただけるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） そういった部分で困り事であるとか、あるいは先ほど言われたような方々も含めて、例えば日南町に観光でやってこられたとか、あるいはこちらに住んでみたいなというふうなもし要望であったりとかそういったときには、彼女が対応して英語でも折衝するというふうなことっていうのは考えております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） C I R、エラさんの身の回りの、お世話というのはちょっと言葉が適切ではないんですが、やはり初めて来た日南町、右も左も分からないような状況がありますので、担当者はついているんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） ちゃんとしております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） それは、どこまでを担当され、どこまでをフォローされるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 身の回りの生活には一般には、何か困ったことがありましたら、すぐにその担当者に話をして行うとか、ほかには出張であるとか、あるいは業務用の中の中身であるとか、簡単に最近でいえば、出勤、退勤、そういったもののコンピューターの管理だとか、そういったふうなものっていうのもきちんとした形で教えていく担当者がいるというふうなことで、ほぼ身の回りのことっていうのは、その担当者が担っているというふうに思ってもらっても構わないんじゃないかなというふうには思います。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） A L T ですが、A L T も新しくなりましたので、恐らくワシントン州出身だとは思いますが、簡単でいいので、ちょっと説明いただけますか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） A L T ですが、アナスタシア・レースフェーリーという女性でございます。アメリカのワシントン州シアトルからやってきてくれました。とっても明るい女性であります。年齢は 30 歳というふうなことであります。彼女も来たとき、我々も一緒になって歓迎会をしたんですけれども、日本語は、堪能というよりは、ちょ

っとまだ難しい部分もあるんですけれども、非常に人懐っこいといいますか、そういう部分があって、今、中学校、小学校にも出ている部分もあるんですけれども、非常に評判がいいのではないかなというふうに思っておるところであります。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） A L T は学校に配属されてますから、私たちはなかなかちょっと交流しにくいんですけども、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） ずっと学校にいますので、一般住民の方と接するってことはなかなか難しいかなというふうなことはと思いますが、先ほども議員おっしゃったように、パセオで買物をしていると、そういった部分で見かけられることっていうのは多いというふうに思いますので、そういう部分では、早く日南町にも慣れてもらうためにも、住民さんとの交流というんでしょうか、そういったものっていうのもしていかなきゃいけないし、こちらからいろいろな場面場面で情報提供しなきゃいけないかなというふうなことは考えております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 教育長は、以前から発音、A L T には発音を求める、発音がすごくっていうふうにおっしゃってましたけども、A L T はアメリカ人ですからアメリカンイングリッシュで、C I R はイギリス人ですからブリティッシュイングリッシュ、あるいはクイーンズイングリッシュっていうんですか、この辺りの見解はどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） その辺の私も違いみたいなものっていうのはちょっと分かりませんが、いろいろな場面、場面でそういう、いろんな英語と言えればおかしいですけど、そういう英語に慣れていくっていうことっていうのは、これからの国際人を育てるにはそういったことは大事かなというふうに思います。

また、先ほど町長の答弁にもありましたが、今、本町は、中学校に A I でのスピーチをするものを入れています。それによって子供たちは、生で聞くのもそうですけれども、自分の本当に発音がどうなのかなということっていうのは、その A I でもって訂正をしてくれる、あるいは聞いてもらっていいよというふうなことが言える、そういう部分では、子供たちは、いつでも使えるっていう部分では、そういう A I を使ったものっていうのは非常に効果を上げているなというふうに思いますし、学校の先生も、そういうふうなことっていうのは非常にありがたいというふうなことを言っています。その部分に、今この C I R にしても A L T にしても生の英語が聞けるっていうことっていうのは、非常に子供たちにとってはいいことだなといいますか、すばらしいことだなというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） 先日、数日前ですか、埼玉が英語教育ですごく全国１位という教育のプログラムを、ちょっと変えたプログラムをテレビで紹介されましたけども、英語教育の充実というのはどのようにこれから取り組んでいかれるのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 先日といいますか、８月に、この近辺で、岡山の備前市というところも非常にこども園から中学生まで非常に英語に力を入れているところでありまして、そこに視察に行く予定でしたが、台風のためにちょっと行けなかったというところがあるんですが、特に岡山県にはそういう学校がたくさんあります。そういったところの視察を兼ねて行って、我々も勉強したいなというふうに思っています。

ですから、まず１つは、こども園から中学校までの一貫した英語教育のプログラム、そういったものを作成したいなというふうなことが１つ、それからあと、先ほど話をしましたけれども、国際交流員のエラをうまく活用をしたいというふうなこともありますので、先ほどあった一般住民もですけども、こども園で指導する、あるいは小学校、中学校でも国際交流という形で英会話を取り入れた交流を行う、あるいは、まだ教育委員会のほうではまとめてはいないんですけども、デーキャンプをして英語漬けにしてしまう、あるいは以前あったような英語だけが話せる教室をつくるとか、そういったことっていうので英語に親しみを持ってもらうような取組ってというのは大事なかなというふうに思ってますし、今までやっていただいた英検の補助っていうのも非常に効果を上げているというふうに私は思っています。非常にこの級を取ることによって、次、またその次というふうな形で子供たちも挑戦してくれています。ですから小学校の３年生でも４級を取ってる子供もいます。

それだけ自分で一生懸命勉強してという部分っていうのはありがたいことですし、そういう環境にすれば、子供たちも、英検を取ることによって、級を取ることによって英語に親しみをもち、英語の力をつけていき、そして一番最終的な私、目標は、グローバルっていうふうによく言われるんですけども、グローバルな人材もですけども、ローカル、自分の住んでるところのことっていうのも考えて、英語でもって、やっぱり国際的な中で自分の足元、日南町のことも考えてもらえるような人材を育てたいなというふうなことを思っておるところであります。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） 教育長は、先ほどシンク・グローバリー何とかってもう１個言われたんですけど、私、ちょっと肝に銘じたいので、もう一度ちょっとおっしゃっていただけますか。記憶します。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） シンク・グローバリー、アクト・ローカリーというふうな言葉があるということでございます。よろしいでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） ＳＥＡなんですけども、招致しないというふうにおっしゃいました。私は、ＡＬＴ、ＣＩＲと来たら、もうぜひやはりＳＥＡ、スポーツ国際交流員は招致してほしいんですね。やっぱりＳＥＡは、スポーツの重要性や体を使って運動することの楽しさ、児童生徒の英語力の向上のみならず、国際感覚の醸成でも貢献されるとＳＥＡを採用されてる自治体の方がおっしゃっていました。これについていかがお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 正直言いまして、今そこまで回らないというのが私の率直なところであります。議員言われたような部分というもののよさといいますか、そういう交流員を招致するっていうことっていうものの意義は私も感じてる部分はありますけれども、今年こうやって２名配置していただいた部分からいえば、来年、ほんじゃあ、３人目というふうなことっていうのはまだ考えていないというところでありまして、将来的にどういう形で持っていくかというところっていうのは、これから考えていきたいというふうなことは思っておるところです。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） もう一つ強くやっぱり思うのは、ＳＥＡになる人材というのは、すごくやっぱり優秀なんですね。指導者として認められて、母国のオリンピック委員会や政府機関から推薦を受けた方なんです。ナショナルチームのメンバーやコーチ、やっぱりこういう方と接することっていうのは非常に大切です、日南といえば、ノルディックのスキーあるいはテニスというのはちょっと有名ではありました。ただ、アルペンも、もうやっぱり環境が違うので、北海道や長野に太刀打ちできません。でもノルディックっていうのは、やっぱりある程度芽が出そうな優秀な生徒もいますよね。ですから、やっぱりこのノルディックのコーチ、あるいはテニスでもそうですけど、こういった方のＳＥＡを招致して、もう少し本当にレベルが高いところ、全国で、入賞っていうのはちょっとあれかもしれませんが、戦える選手を育ててもいいんじゃないでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 理想は、そうですというふうに思います、確かに。今、子供がこれだけ少なくなって、また、スポーツも多様化してて、なかなかこの人材を集めるっていうことっていうのも一つは難しい部分はあるんですけども、ぜひそういうふうなことも、考えの中の一つとして考えさせていただければというふうなところは思うところであります。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） 分かりました。

モンゴル交流ですけども、以前から何度か質問させていただいてますが、日南町は、モンゴル・ゾーンモド市とやっぱり友好交流の覚書に調印してるということを町内でま

だまだ認知度が低いんですよね。ノミンさんいらっしゃいますからある程度はそうなんですけども、もう少し表示物、庁舎入ったときもそうかもしれませんが、しっかりやっぱり発信していくべきではないかと思うんですけども、それはいかがお思いでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 認知度って話もありましたけれども、地域づくりの前のカウンターの横に、そういった向こうでの生活実態が分かるようなものを展示させていただいたりしておるところではあります。認知度っていうのは、これからも当然継続した事業としていきたいというふうに考えとりますので、徐々にはそういった活動内容のPRだとか、ノミンのほうもSNSのほうで発信したりとか、そういった工夫はしていただいているというふうに認識をしておるところであります。

いずれにしても、ちょっとコロナの関係があって少し交流が途絶えたというところがありますけど、今できる日本語学校の子供さんへの取組だとかさせていただいておりますので、そういったところも継続しながら、そしてもう少しやっぱり具体的なところの深みの事業に展開すべきかなというふうには考えとりますけれども、そこが何なのかっていうところはお互いの交流の中で深めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 今年、ゾーンモド市の市長が来町されるという話がありました。現在のその進捗状況あるいは今後の展開はいかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その動きについて紹介をさせていただきとりまして、それこそなかなか次の動きの内訳が分からないということで、こちらから何回もその辺の9月の来町予定の在り方についてメールあたりで照会しておったところですが、なかなか返ってこないというのが現実で、昨今8月に改めて再確認させてもらったところが、9月の予定は、報告が遅くなりましたけれども、来町しないということに決定したそうです。ゾーンモド市の市長選挙がどうも10月にあるということもあったりして、そういうスケジュール感の中でということだというふうに思っております。新しい市長さんがどなたになるかも分かりませんが、そういった段階で改めて交流、交歓をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） そうしますと、現在の市長がなられるのか、新しい方がなられるのかによって多少微妙なニュアンスはありますが、新しく替わられれば来年は訪問される計画はあるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺のことも含めて、これからの話合いかなというふうに思っております。私たちが友好交流の覚書したのが2018年でありますので、それから少し期間もたってるということもありますけれども、やはりゾーンモド市を含めて、モ

ンゴル国の社会的な動きも含めて少しずつ変わってきてるというふうに思っておりますので、そういった背景をしっかりと情報収集しながら、これからの在り方、あるいは交流の在り方を模索していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 日本語学校へ送った第一弾、ランドセル、第二弾、漫画と絵本で、第三弾の計画はあるのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） まだそこら辺の確立をしてるわけではありませんが、1 つは、できるのは、やっぱりランドセルを送ったのが 2 年前ということですので、多少は、その取組の復活じゃないですけども、第二弾ができるんじゃないのかなというふうに個人的には思っておるところであります。というのも、町内での 6 年生の卒業生もおられますので、そういった方がどういう形になってるかは分かりませんが、そういったことは可能ではないのかなというふうには思っています。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 私は、以前から 2 つ提案をさせていただいてるんですが、1 つは馬頭琴ですね。現在、庁舎内で B G M がちょっと流れてます、ホールで。そうすると、やはり馬頭琴の音にしてもいいんじゃないかなと思ったり、あるいは月に 1 回、モンゴルデーでもいいかもしれません。

そしてもう一つ、やっぱりモンゴルタウンですよ。これはずっと言い続けてますけども、介護分野だけではなくて、農業や建設業といった分野にこそ、やっぱり体格がいい、力のあるモンゴル人が最適だと考えるんですよ。鳥取市では 5 名くらいが建設会社に勤めておられます。さらに、交流支援員ノミンさん、ノミンさんの弟さんが青森県で建設会社に勤めておられます。本人には直接私、聞いてませんから分かりませんが、何となくは日南町に来たいようなことはおっしゃってるんじゃないかなと思うんですけども、そうすると、この 2 人を元にモンゴルの人がどんどん増えていく。農業、建設業、やはりモンゴルタウン、タウンって言って、地域でもいいですよ、ある程度、出雲市のブラジル村ぐらいまではならないかもしれませんが、やはりどんどん人材不足が叫ばれる中ですから、ちょっとお考えいただいてよろしいんじゃないかと思うんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 2 点ほど御提案等をいただいたというふうに思っておりますが、1 点目は、B G M の中についていうところがありますので、可能だろうというふうに思っておりますので、その辺は現場の皆さんと相談をさせていただきたいと思います。

2 点目の人材っていう話であります。御案内のとおり、技能実習生制度も国内での改正もあってるっていうこともあったりするので、国内全体で外国人材の活用というのは、これからますます増えてくるんだろうというふうには思っています。そういった意味で、ゾーンモド市と交流を重ねてきておりますので、そういった人材の在り方っていうところ

ろは、大きな私もテーマとしてこれからの交流の一端を担っていただく考え方を持っておりますので、こういった効果が一番あるかというところは、これからのさらなる、モンゴルの皆さんとのやっぱり考え方もありますので、そういったところはつくっていければ幸いかなというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 鳥取県モンゴル中央県親善協会の主催で、モンゴルの中高生 10 名が東部、中部、西部にホームステイしました。日南町でも 2 人の子供がホームステイをしました。日南邑では、施設名を言っているのかどうか分かりませんが、町内の宿泊施設でもちょっと受け入れていただいて、補助をいただきまして親善協会の方も大変喜んでおられましたけども、私の夢という日本語弁論大会で、ほとんどの子供たちは日本に留学したい、日本に来たい、日本で働きたいというようなことを発表しました。

その中の、やはり町内でホームステイした男の子は日野高校に通ってたんですけども、日野高校は国内留学も何か少し盛んであるということで、外国からはまだ受け入れていないということですが、日野高校に留学したいという夢というか、希望をホームステイのホストファミリーの方に話されて帰られたそうです。鳥取城北日本語学校もありますけども、かなり年配というか、年を取られた方も多し、やはり若いうちから日南町で過ごしていただいて、日南町のよさを認めてもらって町内に住んで就職されるというような道づくりもつくられてはどうでしょうか。ちょっとお考えいただきたいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） そのルートにつきましては、今、正式な形ではないですが、できないかというところの検討っていいでしょうか、そこをつくるにしても、いろんな分野の皆さんの御協力をいただくことが必要で完成しますので、そういった意味で、御紹介されました流れっていうのは考えてみたいということで、今、正式な形ではないにしても内々の形の中で今検討してる最中でありまして、ぜひそういった形が取れば幸いかなというふうには思っておりますので、来ていただく人もそうですし、教える側の人材っていうところだとか、様々な環境づくりが必要だろうというふうに思いますので、そういったことができないかというところの中で、今、内々の話ですが、考えてる最中でありまして。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 介護人材育成就労プロジェクトですけども、日南福祉会とオロチが採用を見送ったと。これは、事業所ですからいろいろ理由はあると思うんですが、もし理由をお聞きになってたらちょっと教えていただけますか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、学校に来られた外国の皆さんのそれぞれの皆さんの希望する、まず職種っていうことになろうかなと思います。その中で、その人たちが、

企業がそれぞれ手を挙げとりますので、第1希望とか第2希望とかっていう形の中で人選的には進められる仕組みとなっておりますので、その中で、オロチだとか日南福祉会の方の第1位の優先順位が今回の場合はなかったということでもありますので、急がれる企業は、そこの城北の日本語学校は今年の場合は諦めて、次の紹介の事業体でありますとか、そういったところのほうで人材の確保に向けられてるというふうに思っておりますので、ですから来年度以降もないかということでないというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 日南病院へ内定した2人なんですけども、これから専門学校へ行って資格を取られてというスケジュールになると思うんですが、その辺の詳しいスケジュール的なものは決まっているんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、スケジュールっていいでしょうか、1年間城北高校で日本語の学びをしていただきながら、それを卒業して介護の専門学校に行かれるその期間が2年間っていうことであります。そこで資格を取って、その後に現場であります日南病院のほうに採用、就職っていうか、そういう流れであります。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） この外国人材育成雇用プロジェクトは、町内の事業者が活動して、それに対して補助するというシステムですね。それで、モンゴルという国は、交流支援員のノミンさんがいるからモンゴルにある程度はスポットライトが当たってるというふうに思うんですけども、私は、モンゴルよりもフィリピンもいいんじゃないかなと思います。

それは、先日、外国人の採用と雇用戦略セミナーというのがあって、ちょっと参加させていただきました。その中で講師の先生が、フィリピンは介護というシステムがあって、日本の優れた介護を学んでいると。いずれは母国へ帰られてそこで働かれるんだと思いますけども、やっぱりこういうことがあるので、モンゴルでは、少しやっぱり町長も感じられたかもしれませんが、介護という土壤があまりないんじゃないかなというような気がするんですけども。ですからちょっとフィリピンも考えては、フィリピンに限らずベトナムもそうかもしれませんが、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今回、日南病院のほうに病院として採用する予定の国がミャンマーというところであります。御指摘のように、国籍を特定してるっていうわけではないというふうな考え方を持ってます。先ほどモンゴルのお話もありましたが、御紹介のとおりだと思いますけど、寿命のほうも決して長いほうではないというふうに理解しておりますが、一方で、社会がどんどん医療技術も発展しますし、考え方も変わってきておりますので、長期的な視点からいくと、やっぱりこれからは介護というのにも必要な状況になるんじゃないのかなというふうには勝手には思ってるところであります。

ですから、その辺のしっかりと情報を把握しながら、そういった分野に場合によってはモンゴルの皆さんが来ていただいて、日本での介護というものをやっぱり学んで帰っていただくという考え方も成立するのではないのかなというふうに思っております。現時点では、その必要性だとか、あるいは介護もそうですが、介護材料っていいでしょうか、そういったところも含めて交流ができればなというふうな思いも持ってるところであります。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） もう 1 点、韓国の江原道特別自治道というのがありまして、鳥取県も交流してます。2018 年には平昌オリンピックが開かれた、あるいは、もっと有名なのは、ドラマの「冬のソナタ」のロケが行われたところで、そこで農業してるちょっと知り合いがいまして、ベトナム人 3 人を実習生として採用してます。以前はパプリカを作っていましたけども、米子のスーパーでもパプリカ売ってました。今はキュウリを大規模なハウスで栽培してるんですけども、そのベトナムの 3 人はやっぱりすごくよく働くそうです。

8 か月間働いて、4 月から 11 月まで働いて一度本国に帰る、次の年また来る。それは、よく働くのは、雇用主が認めれば何度でも来れる、来て働ける、だから彼らは一生懸命働いてまた来たいと思いますし、やはり賃金もベトナムの 10 倍ぐらいあるんですね。韓国は非常に高いところでもありますし、外国人として差別をしてない。韓国人と同じぐらいの給料も払われてたりするし、システムが違うので、日本で、日南町ですぐに導入というのは難しいかもしれませんが、ただ、農業、建設業、それから介護分野も含めてどんどんやっぱり外国人を取り入れていくべきではないかなと思うんですけど。されてるのかもしれませんが、ちょっともう少し積極的に他の分野も雇用を推進していただいたほうがよろしいんじゃないかと思いますが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 既に御案内のように、例えば建設業でも外国人の方が入っておりますし、オロチだとかというのは実態がそうでありますので、将来的には、やっぱり人材不足、人手不足っていうところが国内全域でありますので、当然国籍っていうところは多少考える企業の皆さんもおありかもしれませんが、総体的には、そういったところは、何人かは入ってくる仕組みっていうのをさらに構築していくということではないのかなというふうに思っております。

ですから、第一歩として、今、城北の学校の日本語学校を経由した形での取組をスタートした段階でありますので、それだけに固執するわけではないですけど、いずれにしても、町内としても、町内の中で、おっしゃられるように、農業だとか建設業、介護分野もそうですし、多様な分野の中での手挙げ方式なりを確認させていただきながら、お互いが情報共有していくことがこれからベストな形ではないのかなというふうに思っておりますので、ぜひ町内の企業の皆さんとも交流を深めて情報の交流を深め

ていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 支援制度ですけども、鳥取県も、人材不足対策として、鳥取県外国人雇用サポートデスクの設置や、それから各種補助金制度、さらに、鳥取県多文化共生支援ネットワーク会議、そしてまた、外国人材と介護施設のマッチング支援事業などをちょっと幅広くされてるので、鳥取城北日本語学校の連携と同じように、さらにやはり連携を強化して取り組み、町内へ一人でも多くの外国人材が来ることを希望しますけども、見解を伺います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 鳥取県も、先ほど御紹介いただきましたけど、そういったところの事業内容も含めて外国人材の採用っていうところにはこれから進めていきたいというふうに思っておりますので、多様な情報を共有しながら進めさせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 住宅環境なんですけども、やっぱり住まいは外国人に限らず移住者にとっても重要ではありますけども、それで、いろいろななかなか古民家、空き家等々難しい部分もあったりしますし、町内で空いてる施設もあたりしますが、かすみ荘やおおくさ荘、この辺りはどうなのでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 冒頭にも、やはり住まいっていうところは、外国の皆さんの目線から見ても重要なポイントだというふうなこちらのほうの認識もしております。ですから、今御案内のように、中心地域整備構想の中でいろいろ併せて議論をしてるところでありますので、その必要性はあるという考え方の中で整備を進めていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 8番、櫃田洋一議員。

○議員（8番 櫃田 洋一君） 太陽光パネルですけども、以前から町のホームページに稼働状況を掲示したら、ある、ないってというような議論がされてましたけども、これについての見解はいかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、以前は、そういう稼働状況だとか、CO₂がこれによってどれくらい減ってますというようなPRもさせていただいておるところですが、結構経費もかかったりとかもしますし、現場の皆さんと言やおかしいですけど、担当課のほうも現場のほうの確認は逐次してるっていうふうに思っておりますので、その辺のちょっと費用的なところと併せて考えていきたいなというふうには思っております。現状では、先ほど申し上げましたように、神戸上にあります太陽光につきましては、昨年は少しトラブルもあったですけど、本年度は順調に推移してるっていうふうに思っ

ますので、そういったところも含めて、安堵するわけではありませんけど、適切な点検等も進めていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 以前、日南町産業振興センターの農業指導員が太陽光パネルの下でちょっと栽培をしておったんですけども、今は何かされてるのか、利用される予定があるのか、これから何か検討されるのか、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今は、そういう活動はやっておりません。一般的にですけど、よくおっしゃられるように、太陽光の下の中で野菜を栽培するとかって話は取組の事例とすればあったというふうに思ってますし、これからできないっていうわけではないにしても、取りあえず研修生制度につきましては、主たる目的であります形を進めていきたいというふうに思っておりますが、あの太陽光自体の在り方、経営的な数字も含めてですが、再考する余地はあるのかなというふうには思っておりますし、また、太陽光自体も可動式だとか、いろんなパターンも出てきてるっていうのが現状にあります。ですけど、数値的なところに最終的にシミュレーションしたときにどうなのかっていうところは、まだまだ私どもとしての勉強の余地があるなというふうには思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 太陽光パネルの償却時期はまだ少し先ではありますけども、先ほどのちょっと確認なんですけど、金額が1,300万から1,087万2,000に減ったというのは、資源エネルギー庁新エネルギー課の2022年7月から廃棄等費用の積立制度を開始した、これによる影響なんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） そのこともありますが、代理制御調整金というのもあるというふうに思っておりますので、そういった新たな、取引と言やおかしいですが、支出のほうが増らんでというのが現状にあるということでもあります。一応2031年までがFIT期間でありますので現在、税抜きではありますが、1キロワット当たり40円ということで売買をさせていただいております。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） そうすると、もう一度確認なんですけど、この積立制度はやってるということでよろしいのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、自動的控除されるっていう仕組みであります。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 先ほどおっしゃった省エネ設備機器というのは、どういったものなのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 機器的なということになりますと、主体的には例えばＬＥＤっていうところであります。本町にも、役場の中でも一部以前そういったことをした経過もありますし、建築年度に応じてではありますけど、まだＬＥＤ化してないところは、そういったところが１つはできるのかなというふうに思ってますし、あるいは断熱建築っていうふうに言わせてもらいましたけれども、昨今のこの暑さの中で断熱を最近は入ってるのかもしれませんが、そうでないときには、なかなか下に暖かい空気が下りてくるみたいな形になってますので、これからの建築の在り方の一つとして、断熱ってというのは、これから、それは公共施設だけではないですが、個人の皆さんもそうですけれども、そういったやり方がこれからあるのではないのかなというふうには思ってますし、あるいはほかの企業の皆さんも、そういう感覚で多分建築をしたり、あるいは森林組合も太陽光を設置していただいておりますので、そういった機運は行政側からでも率先してやっていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） ＬＥＤというふうにおっしゃいましたけども、小・中学校の照明は教室内等々ＬＥＤになっておるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 全てＬＥＤにはなってはおりません。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） それは費用対効果を見てＬＥＤにしてないのか、更新期間が来たらＬＥＤにされるのか、その辺りの見解はいかがなんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） まず、耐用年数という部分もあるというふうには思っておりますけれども、徐々に替えていくというふうなことっていうのと、それから中学校については、これから建て替えもしてもらわなきゃいけないなというふうに教育委員会は思ってるんですけれども、そういう部分では、そこまではもたせたいなという部分もありますし、一部しているところもあります、中学校でも。そういうふうなことも考えてはおるところではあります。

○議長（山本 芳昭君） ８番、櫃田洋一議員。

○議員（８番 櫃田 洋一君） この役場庁舎の電気代ってというのは、１年間幾らぐらい分かるものでしょうか、もし分かれば。分からなければ結構です。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 金額ベースで申し上げますと、令和４年度でございますが、約１，０００万であります。ちなみにですが、平成３０年とかの前後でいきますと、おおむね７００万っていうところであります。昨今のやっぱり単価値上がりというところであろうかなというふうに思っておりますが、むしろいいましょか、使用量、キロワットアワーですけれども、約３５万前後ってというのが平均的な数字かなというふうには思って

るところであります。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） そうしますと、この1,000万前後の電気代を何か再生可能エネルギーで賄うことができるのか、石見東だけであればそうですけど、そういうわけにはいかない部分がありますので、賄うことを、それはSDGsをやはりうたってますのでその辺を今後考えられるのか、それとも特には取組は考えないのか、突然ですみませんが、ちょっとお聞きしたいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 太陽光につきましては、以前から、ちょっとやっぱり庁舎だとか隣の文化センターだとかってところのテーマの中でできないかというところを模索してきた経過がありますけれども、構造的なところとか、例えば役場の横の車庫棟がありますけど、そういったところでできないかという検証をした経過がありまして、なかなか車庫棟のほうは、体積荷重あたりのほうがってところで疑問点がついているというふうに思っております。ただ、それ以外の公共施設のほうでもできないかっていうところは、やっぱり随時検証していくことは大事なというふうには考えとります。

○議長（山本 芳昭君） 8 番、櫃田洋一議員。

○議員（8 番 櫃田 洋一君） 住みやすい日南町になるように願って、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本 芳昭君） 以上で櫃田洋一議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩をいたします。再開を10時45分からといたします。

午前10時37分休憩

午前10時45分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を続けます。

7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） このたびは3点について質問いたします。1点目は外国人材育成雇用プロジェクトについて、2点目は高付加価値木材等の今後について、3点目はグリーンドリーム計画について行います。

では、1点目の外国人材育成雇用プロジェクトの現況と今後の取組及び課題について伺います。

まず、将来の就労を予定していた日南福社会、オロチ、日南病院の3事業所ごとの状況と今後の取組はどうするのか、来年度の取組等、進捗状況はどうなっているのか。

次に、高付加価値木材等の今後についてであります。

昨年12月議会でも一般質問いたしました、日南大建株式会社の経営状況について

どのような認識をされているのかお伺いします。防腐・防蟻処理された高付加価値木材とDWファイバーの令和5年度の生産量、販売量、収支の実績数字は把握されているのか、また、今後の販売及び生産増加に向けた具体的な取組を把握されているのかお伺いします。

最後に、グリーンドリーム計画についてであります。

日南町環境基本計画の取組状況を伺います。

計画では、6月予定の環境基本計画推進会議と8月予定の環境審議会は開催されたのか、開催されたのであれば、2つの会議の主な議題と今後の取組及び対策内容はどのような内容だったか伺います。

次に、今後の取組の目玉として「可燃ごみ減量大作戦！」を取組中ですが、上半期の目標数値1人1日516グラムですが、9月末での達成見込みはどうなんでしょうか。

また、下半期の目標数値は何グラムなのかをお伺いします。以上であります。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 大西保議員の御質問にお答えします。

最初に、外国人材の育成雇用プロジェクトにつきまして、就労を予定していた3つの事業所ごとの状況と今後の取組についてという御質問でございます。

日南病院につきましては、鳥取城北日本語学校から専門学校進学による外国人材確保のルートは、介護福祉士の資格を取得でき、在留資格を介護に切り替えることにより将来にわたって勤務することが可能となりますが、一方、令和9年4月までは就労ができません。このため日南病院では、これに加えて、議員の御提案されております、現場で働きながら資格の取得を目指す方法での人材の確保も並行して進めることとされました。よって、令和7年の夏頃に2名、同年冬頃に2名の特定技能実習生を受け入れ、令和9年には2名の採用を目指すものでございます。

日南福祉会と株式会社オロチにつきましては、鳥取城北日本語学校ルートでの採用が難しいことから、他の職業紹介事業者からの採用を模索しております。外国人材自身の意向や職業紹介事業所のあっせん状況など、不確定かつ流動的な部分が多分にあることは否めませんが、早期に外国人材を確保し、町内事業者の今後の安定的な運営に資するよう官民一丸となって努力をしてまいりたいと思います。

次に、来年度の取組計画と進捗状況についてとの御質問でございます。

今年度の各事業所の状況や意向にもよりますけれども、現時点では、鳥取城北日本語学校を通じて採用に向けた取組も継続する予定としております。株式会社オロチにつきましては、鳥取城北日本語学校経由の人材の確保も希望されてはいますが、対象となる入学生の数などは未定であるため、他の職業紹介事業所による人材確保も並行して検討を進めてまいりたいと思います。

続きまして、高付加価値の木材等の今後、日南大建株式会社の経営状況についてとい

うことであります。

防腐・防蟻処理された高付加価値木材とDWファイバーの令和5年度の生産量、販売量、収支の実績数値は把握してるのかという御質問です。

まず、防腐・防蟻処理されました高付加価値の木材につきましては、生産量、販売量とも把握しておりますが、公表は控えさせていただきます。なお、令和5年度は対前年で増加してる状況であります。また、収支につきましては、決算の報告を確認すると、引き続き厳しい状況が続いてるというふうに認識をしております。

次に、DWファイバーの木質ファイバー事業についてですが、大建工業の事業ということもあり、生産量や販売量、そして収支につきましても、事業全体の決算報告は確認してるものの、DWファイバーの事業のみについては把握をしてないところでございます。

次に、今後の販売及び生産増加に向けた具体的な取組を把握してるのかという御質問です。

防腐・防蟻事業は、各種資材コストの増加に伴いまして、住宅販売価格が増加し、新築住宅着工数が減少している状況下、今後もコストアップが想定される中で、価格競争力の向上と相反する状況であるため、抜本的な解決策について検討する必要性がありまして、現在その取組をされております。DWファイバーにつきましては、これまでは公共事業や主に非住宅分野市場での販売活動を行ってございましたけれども、現在は住宅市場のマルチング材として、いわゆる雑草生育抑制材料という内容だそうですが、その販売活動を実施しており、新たな活用方法により生産増、販売増につなげていくことに取り組んでおられます。

続きまして、3つ目のグリーンドリーム計画についてということで、6月予定の環境基本計画推進会議と8月予定の環境審議会が開催したのか、したのであれば、主な議題と今後の取組及び対策はどのような内容かという御質問でございます。

6月予定の環境基本計画の推進連絡会議につきましては7月の29日に、また、8月予定の環境審議会につきましては8月21日に開催をしております。それぞれの開催内容についてでございますが、各所属長で構成される環境基本計画連絡会議につきましては、令和5年度のグリーンドリーム計画の数値目標の達成状況でありますとか、各課の取組状況などを議題として協議を行いまして、数値目標の達成状況から、とりわけごみの減量化への取組強化の必要性を再確認するとともに、次年度の当初予算編成に向けて重点的な検討をしていくこととなりました。

また、環境審議会につきましては、環境立地推進協議会の令和6年度の事業計画や連絡会議での協議内容、あるいは数値目標の達成状況について報告を行い、それらを踏まえまして、今年度も引き続きごみの減量と小型家電の分別回収についての啓発を重点的に行い、推進していくこととなりました。

次に、「可燃ごみ減量大作戦！」の上半期の目標数値、1人1日516グラムである

が、9月末の達成見込みはということと、下半期の目標数値は何グラムなのかという御質問でございます。

「可燃ごみ減量大作戦！」につきましては、ごみ減量化に対する町民の皆さんの意識を高めるため、本年度初めて取り組んでいるものでございます。そしてその目標数値であります516グラムにつきましては、前年度の実績が517グラムを1グラム下回る設定としておりまして、その状況についてでございますが、6月末の時点では、1人1日当たりが518グラム、町民の皆さんの御協力によりまして目標の達成まで、あと2グラムのところまで来ましたが、7月末の時点では526グラムと増加に転じており、9月末の目標達成にはもう一頑張りが必要であるというふうに考えております。

また、下半期の目標の数値でございますが、1日1人当たり可燃ごみが500グラム以下であります。現在、地域振興センターにポスターを貼ったりとか毎月の町報で達成状況を掲載するなど、可燃ごみの減量に向けて啓発をしていますけれども、さらなる周知に取り組むとともに、可燃ごみの内容分析を行い、効果的な減量対策について環境基本計画推進連絡会議のほうで検証するよう指示をしてるところでございます。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 今年度から外国人の雇用というプロジェクトがスタートして、私も3月、6月議会に、あくまで順調に目的どおり雇用されるのか、このプロジェクトが成功するように願っておって質問したんですが、8月の総務教育常任委員会または全員協議会で大きな変化点が出たということで、まずお聞きしたいのは、3事業所の中で、町長のほうから、オロチさんは、なぜ、いつ頃断念したのか、それをお伺いしたいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 城北高校の関係で、来られた皆さんの数と、それから目的というところが、オロチが製造業というところの会社でありますので、その目的がマッチングできてなかった、できなかったというのが原因であります。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 私が3月のときに確認したのは、介護関係は52名、そしてそれ以外の技人国、この方が5名だったんですよ。そのマッチングが実際できなかったというのは、3月、4月、5月、6月時点では把握できなかったのか、要するにオロチさんが断念して、自分とこでやるよと言ったのはいつなのかということを再度確認したいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 担当課長のほうから答弁をさせます。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 8月に面接をしておりましたが、その前に会社PRを7月に行いましたけれども、そのときに、5名しかいなくて、その方々は行き先といいますか、就職先が決まっるということで、その方々は採用ができないということがその時点で判明しましたので、ですので、7月にはオロチのほうで就職できないということが判明いたしました。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 7月に分かったということですけども、実際にオロチさんは求人票というのを出されたはずなんですね、昨年。要するに12月に計画されたわけです、町としては支援をしよう。ということは、10月頃とか9月ぐらいに求人票を出されて、やはり受入れがスカイバードさんですか、そこでいろんな事業所から要望があるから、そこでマッチングとかやってるはずなんですね。そこで、もう5名の方が確定された、これ一番大事なところなんですよ。

日南町はそれを分らず、城北さんとは初めての付き合いだと思うんですけども、鳥取市のいろんな事業所が一つの団体つくって、来た人材をそこでアルバイトさせたり、あと就労させたりとか、そういう流れになっとるわけ。そこに日南町が横から入ってきたわけ。極端なことを言いますよ。なのに、オロチさんに対して、オロチさんも期待しとったわけですよ、実際に。ところが、あとは、それでは駄目だということで、自分のところで手配するわと、大きな変換点なんですね。でも7月になったのは分かりましたよ。

それでは、私が思うのは、鳥取城北のスカイバードさんとかいう会社ですけども、そこの日南町の連携はどうなんだ。事業所にお任せじゃないです、はっきり言って。土台とか計画つくったんは町なんで、それに対して、事業所に紹介し、事業所、どうでしょうか、やりましょうということになったのに、7月の時点でということで大変危惧したわけですけども、なぜそれが3月、4月で分からなかったのか。今後のこともあるわけですよ。将来も鳥取城北を来年度も使ってくると明言されましたんで、やはりミスマッチというんですか、ただ単にハローワークに求人票出して来なかったわけじゃないわけですよ。特に外国人の場合は物すごい難しいわけですよ。その辺の認識はどうなんでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、私どもが入ったのが今回初めてだということで、学校側からの情報は、仕組み的には把握してるつもりでありますし、これからも変わらないというふうに思っております。ただ、御指摘のとおり、鳥取市さんとか周辺の皆さんは実績があるというところの中で今回があったかなというふうに思っておりますので、いずれにしても、そういった学校とも含めてですが、さらなる連携を取りながらというのがこれからの課題だというふうに思ってますし、そういうことの方角で進めていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） それ以外の介護について、2 つ、病院とあかねなんですが、あかねはいつ断念したんですか。あかねの事業所は、このプロジェクトが無理だということで断念したのはいつなんですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、留学生の皆さんの希望しておられる方が介護分野はたくさんおられましたということの中で、面接をした中で、病院のほうはお二人が第 1 希望を手挙げをされた、福祉会については第 1 希望はなくて第 2 希望だったということで、そういう順序であったという結果になりましたので、第 1 が行けなくて第 2 に来るというケースもあるのかもしれませんが、基本的には難しいんだろということでありますので、福祉会としても、面接の結果後というのが新たな分野への挑戦という話になる時期だというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 介護関係では、病院とあかねということで、同じような仕事と言えば失礼ですけど、介護関係ということなんですが、実際に介護の関係で鳥取城北については 5 7 名中、技人国が 5 名で 5 2 名、途中でやめたか分かりません、四十何名か分かりませんが、そこのミスマッチというんですか。私、思うのは、7 月、8 月、それまでに、日南町のあかねであるとか病院であるとか、プレゼンテーションというんですか、何もなしにもう面談始まるわけないと思うんですが、どのようなプレゼンテーションで、要するにいろんな競争相手おるわけですね、うちに来てくれ、うちに来てくれということで、それは実際何月にどのようなことをされたのか。私はそれが大変重要だと思うんです。どのような形、簡単で結構です、長く言わなくて。こういうアピールとこういうプレゼンテーションなり、紙なのか、ビデオをしたのか、どのようなことをやって、ほかの事業所もいろんなサブ宣伝ってやってきくと思うんですね、やっぱりそこに勝たないとこちらに来ないと思うんです。その辺の把握はされておられるんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっとその辺の具体的なところは、担当課長のほうから述べさせます。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） まず、プレゼンテーションですけれども、6 月の 1 8、6 月 1 9 日、この両日に行いました。1 8 日には日南病院、1 9 日は日南福祉会が会社のプレゼンテーションを行いました。その際、各法人のプレゼンテーションとともに、学生に対して、5 名ずつの 5 グループのいわゆる質疑応答といいますか、そういったことも行いました。その際、日本語の能力はどのぐらいあるのかということも会社、事業所等は把握されまして、これならコミュニケーションが取れて仕事にも就ける

だろうという判断をしまして、8月になりまして、そのプレゼンテーションとか、それからグループ討議を経ました学生の希望される方が手挙げをされまして、そこで第1希望、第2希望を募りまして、その際、8月1日に日南病院、8月2日に日南福祉会の第2希望者だけでしたけども、面接をさせてもらって、その判断をもって可否を決定したというような流れに今年はなっております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そのようなプレゼンテーションをされたということで、何か私自身は薄ぺったいなと。もっといろんなアピールとかされたらどうか。

1つはもう結果がそういう形になったんですが、残念だなと思ったのは、五十数名の中にモンゴルの方が8名おられるんですね。やはり日南町も一番最初、いろんなところもモンゴルから行こうということで、当時の町長、また、県議のほうから6年前に訪問し、ターゲットをモンゴルに絞ってやったわけですよ。なのに、今回8名のモンゴルの方がおられる、そして日南町には交流員というのがおられます。実際、向こうに行って訪問はできないかも分かりませんが、プレゼンテーションの中で日南町の例えば介護や病院であるとかあかねをモンゴルの交流員さんが説明すれば、日南町にはモンゴルの方がいるんだなと、安心だなということを思われるんですが、そういうようなことはそのプレゼンテーションには一言も入ってなかったのか、入ってたのかをお伺いいたします。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） モンゴルのうちに交流員がおるということは、そのプレゼンテーションのときには学生に対してグループ対話のときに説明はさせていただきました。ただ、それが最初でございましたんで、来られる方に対してのアピールといえますか、そういったことはできなかったということでございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 残念なのは、せっかく日南町は、モンゴル、昨年も町長も2度目のモンゴルへ行かれました。それで、議員の皆さんも3名の方が行かれました。私、大きな方向転換かなと思ったのは、モンゴルを中心じゃなしに、今はそれ以外のところをターゲットにされたような2つの柱、2つの道を進まれたような気がいたします。でもやはりモンゴルとのつながりとか、今ずっとゾーンモド市の市長なり、今回は来れないということですけど、実は私が最初に訪問させていただいたときに、モンゴル視察報告というのを議会だよりに1ページにわたってしたわけです。

ちょっと読ませていただきますけど、そこには、行った内容、要するにフムーン総合学校日本語学校、それから技能実習送り出し機関、ベウラ有限会社、そして意見交換会で、その送り出し機関は8月には介護実習の3名が決定しとると。そこは10年で300人の留学生を日本、具体的に言うと山梨の航空高校とかそれ以外の高校にも行かせて、たまたまその3名が決まったそうです。そこで、私の考察で書いているのは、課題

として、日本側の受入れ機関の選定が急務であると。それと、町内事業所のニーズの把握と今後の事業推進計画の作成が必要であると。実際にそのようにされたんです。我々、これは7月に行って、9月、10月ぐらいに、町長も副町長時代だったと思うんですが、防災会議室にモンゴルの日本の受入れ機関、名古屋におられた方が来て、事業所を全部集めて何名ぐらいだというニーズを把握されて、もうその年末には逆にモンゴルから来るような話がどんどんどんどん進んでいったわけですよ。

そこで、お聞きしたいのは、町長ももう2回行かれましたけど、それからまた、来られたときに、あかねもそうだし、いろんなどこへ訪問団に対して紹介されてます。前回行かれました、去年。やっぱり、日本語学校は行かれたと思うんですけど、実際そういった機関との打合せとか、具体的に前に進むような話はされたんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 昨年のお話でございますけれども、基本的には、向こう側の100周年というところの記念事業というところで招待を受けたという内容でありまして、御案内のように、町内の企業であります3社のほうも同行していただきながら、人材を求めていますというプレゼンをさせていただいたというところでありまして、市長自体は、なかなかその期間が大変忙しいスケジュール感で、具体的に、じゃあ、その次のみたいなおところまでは現実的にはお話をさせていただく時間がなかったかなというふうに反省はしてるところでありまして、ですから、今後やはりそういった具現的なところの話を詰めていくということはこれから大事なかなというふうに認識しておりますので、そういったルートも含めてこれからのモンゴルとは交流をしていきたいというふうに思っていますし、町としても、モンゴルも含めてですが、外国人材の確保には注力をしていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 今回、面接があったわけですけど、私も、鳥取城北の過去の、今5期目か、6期目になると思うんですけども、ちょっと調べてみました。実際に介護福祉の関係で倉吉に1名は来てるけども、西部はゼロなんですね。逆に大阪方面に流れてると。今回50名ぐらいなんで、全て鳥取県に残るわけじゃないと思う。何でかという、調べてみたら、鳥取、倉吉、岡山、津山といったところの福祉会に2年目に結構行っとなるわけですよ。そこそこちらが勝負せないかんわけです。勝負という言葉はいけませんけども、来ていただくためにやはりその辺の把握はされておられましたか。というのは、本当に昨年度の今年の4月の卒業生も、どういう道へどう行ったかということも知っとかないと、来年度もどうなるか、同じことが繰り返されると思うんですが、その辺はどうでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 日本語学校と当初お話をさせていただく中の情報として、県内だけではなくってという、御指摘のとおり、関西方面だとか、そういったところの企業の

皆さんとのつながりもありますというところは承知しておりますので、あとは人数と、いかにうちのほうに来てもらうかっていうところの、材料言やおかしいですが、PR材料、そういったところが基軸になるなというふうな認識は持っておりましたので、今回こうして1回目の面接をさせてもらったりする中で、やっぱり得た情報というのはあるうかというふうに思っておりますので、そういったところも含めて、日南町を選択してもらうためにはどうしたらいいかということの課題を共有しながら2年目に向かっていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 日南町として、やっぱりモンゴルをどうするのか、モンゴルとは別の外国の方、2本柱でいかれるのか、それをまず聞きたい。やはり力の入れ方、当初は文化交流をやろうと、要するに目的と手段なんですよ。目的は、外国人で福祉関係に来てほしいというのが目的であって、その手段として、まずは文化交流が先だったんです。もうそんな段階は、はっきり言ったら実際にやらないかんわけですけど、どの程度本当にモンゴルの方を介護関係にしようと思われてるのか、来年度、鳥取城北を通じてされるのか、送り出し機関、受入れ機関を独自でされるのか、その辺をお伺いしたいんですが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 現時点ではありますが、基本的に医療・介護分野に特化してお話しすると、基軸になるのは、私は日本語能力っていうところをやっぱりできるだけ高めていくっていうところが必要だろうというふうに認識しております。それは、現場でのさらなる安全性を確保するためには、一定の語学といえましょうか、そういうところがやっぱり基軸に考えるべきだというふうに思っておりましたので、今のモンゴルの皆さん方の日本語学校の語学が低いとかっていうことではなくて、日本語の学力をベースに考えていくべきだというふうに認識しております。あとは、じゃあ、ほかの企業がそうでなくていいかっていうことではないですけども、それぞれの企業の皆さんのやっぱり要望というところも踏まえながら考えていくべきかなというふうに思っております。そういった意味で、城北高校の卒業の皆さんはN3からN2に近い学力をつけて卒業させますっていう情報をいただいているので、まずはそこを基軸に今は考えてきたという、あるいは経過としてもそういう考え方の中で今回進めてきたというところであります。

それ以外で、御承知のとおり、今、国のほうも法的な解釈が改正をされるなり、いろんな制度改正がされてくるんだろうというふうに思っておりますので、より厳しいというところはあるかなというふうには思ってますが、そういったところも踏まえて効果的な現実的な結果が求められるものについては考えていく必要性はあるというふうに思っておりますので、現実には、モンゴルも含めてですが、より強固な道ができるならそれにこしたことはないというふうには考えておるところでありますので、具体的にこのルートとこのルートだけとかっていうことではなくて、現時点では今、町内としては模索してる最

中でありますので、そういった有効な手段方法があれば、それに切り替えるということはあるかなというふうには思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） そういったいろんな道を考えるということですが、私自身は、やっぱりモンゴルのことを中心にということで、6 年前に行かせていただいたんで、最新の情報というか、あれですけども、前から高知県南国市のことを言っていました。具体的に、去年、南国市から米子の福祉会のあるところに入ってます。南国市の人材支援協同組合も調べました。ここはモンゴルを中心にやっています。そこはモンゴルで語学研修を行い、介護のある程度のレベルまでしてから来ておるわけですが、実際、具体的事例は。

そして、次に山形県。これは2 年前ですけども、実際4 人の方、男1 人、女性3 名、これ山形のNHKが放送を約4 5 分間してます。モンゴル人が、その方はモンゴルで語学をし、そして介護のある程度のレベルまでしてから来ておるわけですよ。要するにそこなんですよ。私、毎回言うように、なぜ3 年先の4 年目から日南町に来るのかということの遠回りばかりですけども、その辺は前から言ってます。最初から南国市の話をしてますが、町としてやっぱりいろんな角度で調べないと、今回、本当に3 月に提案された。じゃあもう半分たったら4 人中2 人しか、病院さんですけど、なってしまったということで、やはり計画の甘さというのがあると思うんですよ。やはり計画というのは、私自身、毎回言うように、7 割ぐらいの力をかけてやらないと、同じような力であつたらこれ駄目なんですね。やはりいろんな角度、いろんなことを想定してやるのが計画なので、その辺はどうでしょう。やっぱりモンゴルを中心にやるか、もう中途半端なら、そうやったら初めからもうやめてしまつて東南地区のところを中心にやる。その辺はどうなんでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今、どういいますか、こういった外国人材も含めて、介護部門の人材確保についての在り方については、いろんな勉強をさせていただいておりますので、一つは、おっしゃられるように、高知県の南国市でしたでしょうか、そういったところの動向あたりだとか、お話をさせてもらったりとか、あるいは外国人材ではないけれども、国内でも介護分野の専門学校に動向確認をすとか、様々なことを内部的にはさせていただいております。これからも、当然現場の皆さんの、福祉会の皆さんの情報もされておりますので、そういったところも情報共有しながらというところかなというふうに思っております。

ですから、モンゴルだけってということではなくて、モンゴルの動きというところも当然必要だろうというふうには思ってますので、できればそういう方が来られれば、町としてもそれこそ交流員も配置しておりますので、有効な手段であるということは間違いないというふうには思ってますので、そういったPRも含めて、あるいは冒頭申し上げま

したように、人材確保にはやっぱり住まいというところの視点も、向こう側の学生の皆さんからの御意見もいただいております。ということは確認できておりますので、そういった体制づくりも含めてやっていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） では、今、病院のほうで2名内定したと、そしてミャンマーの方が、事業管理者は同じ国の方がいいということで、ミャンマー2名だと思うんですけども、そこで、前回の全協で聞いたんですけど、今年と来年、再来年、日南町へ来るまでの事業支援の支援金額総額、事業所も町も出す総額は幾らなんでしょう。1名当たり。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっとすみません。その内容につきましては、担当のほうから、課長から説明をさせます。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） 日南病院が実際に負担する金額の概算は1名当たり150万程度というふうに見積もっております。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 1名当たり150万ということは、3年間で450万ということですね。確認です。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） これから学校に行きますところが2年間ですので、1人当たり約300万というふうに今のところ想定しておるところです。今年度の日本語学校の分につきましては、一応紹介料と申しましょうか、日南病院の負担の分については特段今のところ計上はしておりません。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 私、こういう地域づくり推進課が出された12月の資料を見ておるんですけども、間違っておれば教えてください。介護人材の場合、3年間で総額1人560万なんです。450万といたら110万、何かの差があると思うんですけど、言いたいのは、そのような金額をかけて、そのとおりに来てくれたらいいですよ。日本人でも1年、2年先は分らんわけですよ。そのようなときに、いろんな支援しましたと。どのような協定というのか、これは法律で守られるんか。当然就労される方のほうを守ると思うんですけど、そういうことですね。過去にそのようなこともトラブルあったのかどうか。もう鳥取城北は5年やっとなるわけですよ。こういう支援はあくまで介護関係だけだと思うんですけども、介護の関係もあるわけですよ。こういうことも調べておられますか。もしトラブルが起きたときどうするか。お金が返ってこない。当然返せないと思いますよ。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 一応全てが助成というわけではございませんので、貸付けという部分もあります。補助金という形で地域づくりから出しますけれども、部分的には、1年で仕事を辞められたとかというような場合には、返還規定を設けておりますので、そういった場合には、そういったことで引き続きこの病院で勤めていただくような方策のほうは考えております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） まだ先のことは分からないですけど、今回、2名、内定をされるということですが、その方はどこの介護施設で研修される、施設じゃなくて、介護専門学校ですか、は決まっておるのか、まだ決まってないよというんか、ちょっと教えてください。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） その件につきましては、城北日本語学校と、それから一応第1希望とされる島根総合福祉専門学校、安来市にございます。何分に一番近かったY M C Aが次年度、学生の募集が停止されておりますもんで、一番近いところが島根県安来市にあります専門学校ということで、そちらの受入れのほうは、外国人も、いわゆる留学生も実質行っておるというところで、近いうちに入学に対する選考もされるということまでは聞いております。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そういった場合に、留学生の側に立ちますと、やっぱりアルバイトというのは物すごい重要なんですね。その辺は安来であるとか、安来がメインになったら安来なんですけど、その辺の把握はされてます……。まだ先の話はできませんけど。ちょっと置いときます。

実は何が言いたいかというと、実際に8月のとき1か月間休みだったんですね。7月のいつからか分かりません。私、ふと思ったときに、中海テレビ、鳥取城北の日本語学校の方が米子のイタリアンレストランでアルバイトしとるんですよ。それが流れました、20分ぐらい。それは鳥取城北の方です。ということは、夏休み、長期間あるので、鳥取だけじゃなしに米子まで来てアルバイト。当然宿舍もあったわけです。言いたいのは、例えば安来のほうに来られた場合に、安来の周辺でやっぱりアルバイトがメインなんですよ。何ぼ研修いうても2時か3時で終わってしまうわけですね。それから土日とかいうことがあるので。その辺は確認していただきたいと思います。それ以上は、先のことなので、そういった情報だけちょっとお伝えしておきます。やはり結構米子のほうまでわざわざ来るということがあります。

それと、病院関係というんですが、福祉の関係で、日野郡内で介護関係で外国人が来てるところを調べたことがございますか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっと私の中の情報では、どういんでしょうか、確認はもち

ろんしておりませんし、そういう外国人の方が就労されてるっていう話は、具体的な数字、聞いてるわけではないですが、ただ、江府町にしろ、日野町にしろ、施設がありますので、そういった動きはされてるんじゃないのかなという、あくまでも想像で申し訳ありませんけど、そういう段階であります。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） それで、町長、調べてみました。事業所の名前言うたらいけないと思うので、隣の町です。同じ郡内の隣の町です。ミャンマーから4名就労されてます。そして来年度も4名、トータル8名の方が、日野町ですよ、ミャンマーです。日南町にもミャンマー2名が3年先に来られますけど、その情報を言っときます。その場合、3年間すればまた継続2年でやっていくよとか、そして町も寮についての支援をしているそうです。ちょっと情報だけしておきます。

それから、ミャンマーは、なぜそうなったかという中では、仏教の国なので問題ないやろうと。いろんな国があり、特にインドネシアなんかでいろいろあるわけですけども、そういった面でされてますので、できる限り情報を取っていただきたいのと、先ほど広瀬の話も、私も3月か6月かしました。町長も知ってるよと言われたので、今、あかねのほうで頑張っておられます。やはりそのルートです。逆に言うたらそこから直接日南町に来てくれとか、そういうのができるかどうか。鳥取城北のほうに1年語学やって、2年間資格取るためにやる。4年目に来ると。あかねの方の1名おられますけど、その方の採用までの経緯は何か調査されましたでしょうか。経過。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的に広瀬にある専門学校は、日南福祉会のほうは、もう当初時点からいわゆる交流はあっておりますので、例えばお互いの職員の派遣の実習だとかも含めてですが、そういう交流があっておりますので、ですから今回の採用に至ったというのもその背景があるというふうには認識しておりますし、これからもお互いの同じ施設として交流は続けていくことになるっていうふうに思ってます。その中でやはり、外国人材も含めてですが、そういったつながりというのはより強固にしていくべきというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） それで、今後、あかねだろうとかいうところでも受入れ機関、来年来ていただくために病院は、受入れ機関ですが、これは病院が受入れ機関を探すのか、町が一緒になって探すのか、病院にお任せなのか、その辺はどうなんでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 最終トータル的には一緒になってという話だろうというふうには思っておりますが、ただ、業種によって、あるいは企業の現場の皆さんの考え方というところもちろんありますし、おっしゃられるように、やっぱり外国人でも様々な背景がありますので、そういったところは企業の皆さんの考え方を重視すべきかなという

ふうには思っておりますが、トータル的に外国人材というところのテーマでいきますと、一緒になってすべきというふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 私なりに、調査するなり、何とか効果が出るような形でしていただきたいと思います。やはり議会もそういった面で、予算認定もしておりますし、変化点あればすぐ連絡してもらったら、我々も答えは出ませんが、一緒になっていろんなアイデアを出しながらやるべきだと思います。ぜひとも外国人材雇用プロジェクト、1 年目ですので、やはり少しもうちょっと調べていただいて、実のある形になれるように、1 つだけお聞きします。もう 1 点。今、あかねの郷についての職員の総数は何名でしょうか。なぜそれ聞くかいうたら、何名不足を考えておられるのか、あかねについては。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） すみません。数値的には把握しておりませんが、職員数からいきますと、ちょっと前の話ですけど、130 人前後だろうというふうには記憶しておりますが、ただ、ピーク時にはもうちょっと、160 人ぐらいおられたというのは承知しております。ですからトータル的にもし、トータル的言やあ失礼ですけど、やっぱり不足するのはかなりの、10 人前後は要るんだろうという、特に在宅分野におけます職員数というのはさらなる充実のためには必要ではないかなというふうに私どもは認識しております。

また、先ほどちょっと申し遅れましたけれども、人材の確保の中で、現場の皆さんとすれば、来ていただいて、教養を高めるような仕組みというところも検討をされているというふうに思っていますので、そういった体制づくりと併せて住まいづくりのほうも支援していけばというふうに今現時点ですけど考えております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） なぜそれを聞いたかといいますと、病院のほうでは 4 名は足りないとか、年度計画を出していただいたので、あえてあかねのほうも何名足らんかなと。そのために必死の気持ちですね。早く外国人材を入れたいんだという気持ちですね。先ほど言いました。ピーク時は 160 名ぐらいだと言われました。そのとおりです。159 名だそうで、5 年度末の数字、今回、決算のほうで数字が出ておるのをちょっと調べてみたら 159 名だった。町長が言われるそのとおりです。その中でやはり介護人材ということで、今後、推進していただきたいと思いますが、次に、大建工業のことを聞きます。ただ、残念なのが、防腐、防蟻の令和 5 年度の実績の生産量、販売量、公表できないということを言われたんですが、実はこれは総合計画の中には年度ごとの数字が出とるわけですよ。

まずお聞きします。総合計画の最終年度というか、最終目標が 2 万 7,000 立米となっておりますが、これはこの 5 年間で足した合計なのか、年度ごとの合計なのか、ま

ずそれを先にお聞きします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） すみません。担当課の課長のほうから説明をさせます。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 総合戦略の数字につきましては、累計で2万7,000立米というふうに考えております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） ですから5年度の実績は、数字は出とるんじゃないですか。最初の答弁では、これは公表できないということを言われたので、総合計画では数字はちゃんと出とるのに、なぜ公表されないんですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 第2期のKPIのほうでの実績は載ってるっていうふうに思っておりますので、令和5年度につきましては、396ということでありまして。ですから、全体を通して、防腐、防蟻の関係で申し上げますと、会社としての計画の目標値についてはそのように2万7,000であります。実態を、数字を見ていただくと、計画どおりっていうか、厳しい状況にあるというふうには認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） ですから最初の答弁は、非公表というのは逆におかしい。ちゃんと数字が出とるわけです。それをあえて聞いたわけですけど。となると、今までの進捗率でいくと、2万7,000いったら1.4%なんですよ。ということは、2%も達成してない。そして、昨年度聞いたのは、コスト抑制をしていくんだと。どのようにコスト抑制されたんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺の具体的な内容につきましては、ちょっと確認取れてないというところがありますけれども、春過ぎだったでしょうか、社長さんもお越しいただいて、経過説明をいただいたところでありまして、防腐、防蟻につきましては、なかなか推進ができてないというのが、様々な努力の中ではありますけれども、結果論とすればそういうふうに社長も思っておられるということでありまして、今後の在り方についても含めて社内のほうの方針というのを固めていくっていうことを聞いておりますので、そういったところが決まり次第、また報告はあるというふうに思ってますし、町としても、建屋もできておる中でありますので、今後の在り方も含めて、その際には協議をしていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） これは鳴り物入りでされて、知事も来られたということですが、造成と建屋トータルで幾らの投資金額だったんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 造成工事につきましては、4億円を超える金額がかかったというふうに思っております。建物につきましては、補助事業の事業費としまして2億2,000万程度かかったというふうな認識をしております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そうですね。2億、4億、そしてたしか軟弱地盤ということで、それ入れて4億かも分かりません。やはり大変注目しておりましたし、この計画、事業の名目もあると思うんですが、カスケード計画とか、どうのこうのあったと思うんですが、これは、補助をこんだけいただいたわけですが、国、県に対して何か報告する義務はないのか、経営実態はこうですよということに対してはどうなんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 補助事業を活用している事業になりますので、当然報告義務がございまして、工場が建ちまして、年次の報告を毎年されているという状況でございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 毎年報告されてるということですが、現在、最新版の経営数字というんですか、決算が出ておりますが、令和5年度の決算内容は確認されておられるでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 令和5年度の決算内容についても確認はしております。引き続き厳しい状況が続いているというところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） 具体的に幾らだったのか教えてください。

○議長（山本 芳昭君） 坂本農林課長。

○農林課長（坂本 文彦君） 決算のほうにつきましては、ホームページ等でも公告されておりますので、そちらのほうの数字を見ますと、純利益のところマイナス1億3,200万というような結果になっているというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 7番、大西保議員。

○議員（7番 大西 保君） そうですね。昨年第4期は1億946万円、累計すると約3億ということですが、やはりこれも同じ関係というか、木材関係でいくとオロチさんが大変頑張っておられて、経営努力されて、オロチさんが1年間頑張って頑張って収益されたぐらいの金額が赤字になっとるわけですね。当然、大建工業自身はもう伊藤忠に吸収合併されましたけど、企業としてどうなんでしょう。日南町もオロチさんと森林組合でたしか24%の株式を取得しとるはずなんですけど、その辺について、オロチの決算書見ても何にも書いてないわけですが、確かに別だという、生産の流れの中で大建工業さんもDWファイバーとかいろいろあって、やっぱり重要な内容だと思うん

ですが、その辺はやはりもっと中身見ないと、この辺は毎年数字を改善しない限りいけないと思うんですが、一つ聞きたいのは、販売価格は幾らで、原価は幾ら、要するに利益率ですよ。マイナス何十%なのか、その数字をつかんでなかったら何ら改善できないわけです。先ほどコスト抑制と言われたけども、コストは何なのかと。一番大きいのは。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御指摘の内容につきましては、ちょっと私どもも把握しておりませんし、ただ、重要な部分というふうには認識しております。ですから、森林組合だとか、そういった関係者の、出資も含めてですが、そういった企業の皆さんの中で具体的に協議をされているものと思っておりますので、私どもとすれば、そういう具体的な数字というのは把握してないというのが現状であります。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 私は単純に聞けると思うんですよ。例えば今の L V L を 1 万円としましょう。高付加価値という付加価値分ですね。じゃあそれを販売価格 1 万 2,000 円で売ってるのか、1 万 5,000 円で売ってるのか、2 万円で売ってるのか、この付加価値分なんですね。要するにそこはニーズが当然必要です。その辺はある程度分析しないと、コスト抑制、コスト抑制、人件費じゃないと思います。やはり生産の販売量がなかったら、コストなんて関係ないんですよ。いわゆる販売量がなかったら。ただし、単価です。限界利益率であるとか損益分岐点も聞いておられませんか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺は聞いておりませんし、どういんでしょうか、企業の皆さん方ですので、その辺はしっかり捉えながら対策というのもやっていたい。ただし、結果が伴ってないという話でありますので、今後の在り方につきましては、町というところでもなくて、むしろ企業である、あるいは関係者の強いところの皆さん方がその辺の内容については協議をされているものと思っております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 私は、やはりその辺を明確にしないと、方向性ができないわけですね。ちょっと私の個人見解でいくと、やっぱり企業というのは適切な利益を上げないと、ずっと赤字の垂れ流しではいけないと。当然、国の補助が入ってるから勝手にはできませんけども、これは大きなたて事業停止するなりぐらいやらないと、来年度も再来年度も見通しなかったら赤字ばかりなるんですが、この赤字の処理はどのように聞いておられますか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 現時点ではその方向性は聞いておりませんが、いずれにしても、その辺の方向性は出されるものというふうには認識しておりますので、その段階で詳細にお聞きしながら在り方を検討していきたいというふうに思ってますし、最初というか、基軸になるのは会社自体がどう方向性を持っていくかというところでありまして、そ

ういった情報を得ながら、対応ができるかどうかも含めて、今後の課題というふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） ちょっと違うかも分かりません。今、台湾のほうに L V L を出荷されとるんですかね。そして台湾のほうにいろんな日本の木材を持っていくわけです。この高付加価値は台湾ではどうなんでしょう。それは違うよと、台湾に持っていくのはどうも内装材環境のためにというふうに聞いておるんですけども、防腐、防蟻になればシロアリ当然ですけども、その辺は話はされてるのか、聞いているのか、どうなんでしょう。台湾に向け。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺まではまだ情報としては持っておりませんが、ただ、オロチさんの L V L ににつきましての材料につきましては、向こう側の台湾のほうでは高評価をいただいているってところまではお聞きしております。ですから、今年度、春に 1 回出しましたけれども、計画とすれば 1 2 月までも 3 回は出すというような、現時点ではありますけど、計画があるという話はお聞きしておりますので、そういった意味で、台湾の国内の中での在り方、位置づけというのは少しずつ構築されていくんだらうというふうに思ってますし、町としても期待はしていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） また事業も日南大建さんももう半年ぐらい過ぎとるわけで、現状の、やはり同じであればまた来年も 1 億強の赤字ということになります。本当にこのまま続けてどうなのか。せっかく国の事業を、そして日南町、木材の関係をやっておるということで、もう少しそれを見ていただきたいと思います。

じゃあ、次に、ごみの減量、今年が目玉というんですか、町民運動として、私、大変いいと思うんですね。中身というんか、取組として、皆さんで減量しましょうと、具体的に何グラムということですが、今、答弁されると、上期は 5 1 6 グラム、下期は 5 0 0 グラムということで、1, 0 1 6 グラム、これは令和 5 年度の実績数字ですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） そのとおりでありますので、そこの実績を踏まえながら、継続するっていうか、そういうことも踏まえて、それとあわせて、目的はやっぱり町民全員の参加型というところが目標でありますので、しっかり目標を皆さん方が周知していただきながら、個々にできる努力というのを重ねていきたいという目的であります。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） というふうに町民全体の運動ということで、大変僕はいいと思うんですが、ここでちょっとお聞きしたいんですけど、令和 3 年度の実績数字、令和 4 年度の実績数字を教えてくださいなんですが。令和 5 年度は分かりました。1, 0 1 6 グラムなので。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） すみません。ちょっと私のほうでは分かりませんので、担当のほうですけれども、ちょっと今、手持ち資料にはないようでありますので、お断りしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 私、ドリーム計画を出されたときに、令和 3 年度実績は 8 9 1 グラムとなっておると思うんですが、計画ですよ。実績。令和 3 年度。そして令和 5 年度は今言うた 1, 0 1 6 です。真ん中の令和 4 年度はどうだったのか。というのは、令和 3 年から令和 5 年実績まで 1 2 0 グラムぐらいアップしとるわけですよ。ですからその中間はどうだったのかという質問なんです。やはりその辺、数字のマジックじゃなしに、右肩上がりになったのか、下がって上がったのか、そしてこれから何とか昨年度並みに持っていこうと、それをちょっと確認したいわけです。

出ませんか。質問通告してないから諦めようか。

○議長（山本 芳昭君） 宇田環境エネルギー課長。

○環境エネルギー課長（宇田 聖子） 環境基本計画の結果として上げております数字は、事業所ごみと家庭系ごみと両方合わせましたトータルのものを 1 日当たりのごみの排出量ということで、令和 3 年度につきましては 1 人 8 9 1 グラム、令和 4 年度につきましては 9 1 0 グラムということで上げております。令和 5 年度につきましては、現在集計中ということで、公表を待っているような状況であります。

このたびごみの減量化作戦ということでの目標として上げております数字の捉え方は、清掃センターに集まってきたごみの可燃ごみのうち家庭ごみに限定しておりますので、過去の数字については、お時間を頂戴いたしましたらさっと計算することができます。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） それと、町民の皆さんに町報に掲載をされてます。最終ページの前ぐらいにこのように。何グラムですよ、あと何グラムという形で数字を具体的に書かれています。これは半年間の累計で昨年の平均、月 5 1 6 グラム、達成すれば 1 0 0 ポイントなのか、1 回でも月で達成すればそうなのか。要するに、言葉によっては、目標まであと 1 9 グラム減量ですよって書いてあるけど、それは月の減量だけであって、半年間のトータルでいくとプラス、プラス、プラスで、今 6 0 グラムぐらいプラスになっとるわけですよ。だからそれであと残された 3 か月、8 月、9 月、2 か月ですか、達成できるのかという見通しを聞きたいわけです。

○議長（山本 芳昭君） 宇田環境エネルギー課長。

○環境エネルギー課長（宇田 聖子） 結果として上げています数字は、各月までの累計といえますか、例えば 5 月末でしたら、4 月、5 月のごみを合計しまして、4 月と 5 月は合計で 6 1 日ですので、6 1 で割って、4 月末と 5 月末の人口を平均したもので割っているというような考え方で……。ごめんなさい。人口を合計したもので割っているよ

うな考え方でやっていますので、本当に半年の平均値ということになります。各月の単純平均ではなくって、加重平均といいますか、そういう考え方でやっています。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） 今の説明で分かりました。ということは、累計されてると、2 か月、だからあと 2 グラム、それやったらもう少し頑張りましょうと。そうやったら分かりました。僕、5 1 6 グラムに対して、それ平均と思ってなかったの。その月のあれかなと思っと思ったんで。分かりました。

そうすれば、このままでいくと、昨年実績がどれぐらいの月ごとに取られてるか分かりませんが、まず見込みはどうなんでしょう。要するに、ちょうど今、町民に対してアピールの場でもありますので、頑張ってくださいとか言えると思うんですが、あと 2 グラムですか。どうなんですか。

○議長（山本 芳昭君） 宇田環境エネルギー課長。

○環境エネルギー課長（宇田 聖子） 具体的な結果の状況ですけれども、目標の 5 1 6 グラムに対しまして、4 月末が 5 3 8 グラム、5 月末が 5 3 5 グラム、6 月末が 5 1 8 グラムまでいったのですが、7 月末になりまして、また 5 2 6 グラムということになっております。9 月末の目標が 5 1 6 グラム以下ですので、2 0 グラム落としていただくのはかなり頑張っていたかなくてはいけないと思っておりますけれども、今、広報のほうを頑張っておりまして、各ごみボックスに、それぞれ 3 0 0 か所以上あるんですけども、そこに周知のポスターを貼ったりをするようなこともやっているところで、今後も啓発に努めていきたいと考えています。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） ということで、本当に町民一人一人、家庭で努力しないと減らないよということで、町長、御家庭ではどのような取組をされてますか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 個人的なところではありますけれども、基本的にはやっぱり減量化っていうところは、特に、どういんでしょうか、野菜の端切れだとか、いろんなものが出てくるのが、どの家庭も一緒だと思いますが、そういったところの取扱いを少なめていくとかいうことはやっていかないといけないというふうに思ってますし、家庭ごみでも、リサイクルにつなげるような、紙類の在り方についてもそちらのほうに、資源ごみのほうに回すとか、そういったちっちゃなことですけど、努力はしているつもりであります。

○議長（山本 芳昭君） 7 番、大西保議員。

○議員（7 番 大西 保君） このように、いろんな具体的な、要するに水切りをもっとしてくださいよとか、コンポストを使ってくださいよとか、いろんな具体事例もございますので、やはり町民が一人一人目標達成して、全員が 1 0 0 ポイントいただけて、また次の 5 0 0 グラム、あと半年、年度内でやると、やっぱり右肩下がりで活動もでき

ると。やっぱり町民全体運動が大変いいと思いますので、これを進めていただきたいと思います。

以上をもちまして私の一般質問を終わります。答弁は要りませんので。以上でございます。

○議長（山本 芳昭君） 以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩といたします。再開を午後 1 時からといたします。

午後 0 時 0 1 分休憩

午後 1 時 0 0 分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を続けます。

2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 9 月定例会の質問をさせていただきます。

1 番目に、移動販売について。

①として、5 月以降の月ごとの利用実績について伺います。

②、5 月以降の業者に対する助成額について伺います。

③、業者のたったもカードチャージ額の取扱実績について伺います。

2 番目として、総合グラウンド照明設備について伺います。①、設備全体の改修とは別に本部席側に簡易照明設備を完備するべきと考えますが、いかがでしょうか。

3 番目に、J R 伯備線沿線の倒木対策について伺います。沿線自治体として J R とどのような協力体制を取っていくか伺います。

4 番目に、日南病院について。

①、今年度の外来患者数 1 日平均の数について伺います。

②、新規患者獲得の方針及び取組について伺います。

5 番目として、再生エネルギーについて。今期の町営発電所の稼働状況、売電収入について伺います。

6 番目に、森林譲与税について伺います。例えば千葉県松戸市と倉吉市のような大都市から本町のような森林面積の多いところに向けて植林という形で譲与税を田舎のほうに持ってきていただいている前例もございますが、本町はいかなるものか伺います。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 高橋洋志議員の御質問にお答えしますが、2 点目の総合グラウンド照明設備については教育長のほうから、4 点目の日南病院の件につきましては、病院事業管理者のほうからそれぞれ答弁をいたします。

最初に、移動販売についてということで、5月以降の月ごとの利用実績ということでございますが、移動販売の利用実績についてですが、事業を開始しました5月は利用者が延べ431人、販売額のほうですが、約89万8,000円となっております。6月につきましては、利用者数が354人、販売額のほうが約79万1,000円、7月の利用者のほうが424人、販売額が約95万2,000円、8月につきましては、28日までという集計内容でございますが、利用者のほうが334人、販売額が約70万5,000円となっております。稼働1回当たり平均で20人から24人の方に御利用いただいております、買物に不便を感じておられる方々のニーズに対して一定の役割を果たしているものと考えております。

次に、5月以降の業者に対する助成額について伺うという御質問でございます。

移動販売事業者に対する助成額につきましては、実績に応じまして、年度末に一括で支払いを行うという仕組みとしております。稼働1日当たりの助成額を3万8,900円と定めておりますが、当該事業者につきましては、1回当たり稼働時間が半日であるため、1稼働につき1万9,450円の助成額となります。

補助要綱の要件を満たした5月10日を初日としまして、5月の助成の額ですが、25万2,850円、6月ですが、29万1,750円、7月ですが、35万100円、8月も同じく35万100円となり、8月末までの助成額のほうですが、合計で約124万円となる見込みでございます。

続きまして、業者のたったもカードチャージのほうです。カードチャージの取扱実績ということでの御質問でございます。

移動販売でのカードチャージ額につきましては、5月が1万3,000円、6月が5万1,000円、7月が8万1,000円、8月は28日まででございますけれども、7万5,000円となっております。移動販売を利用される方につきましては、ある程度一定の方に固定化されることが想像されますので、チャージ実績がどんどん増えるというよりは、ある程度横ばいで推移するのではないかというふうに想定をしておるところでございます。

続きまして、3つ目のJR伯備線沿線の倒木対策というテーマでございます。沿線自治体として、JRとどのような協力体制を取っていくのかという御質問でございます。

倒木の予防も含めまして、線路の管理者でありますJRが主体的な対策を実施すべきものと考えております。JRのほうから町に対して協力要請があれば、その際には個別に検討をしていきたいというふうに思っております。

続きまして、5つ目の再生エネルギーについてということで、今期の町営発電所の稼働状況、売電収入についてという御質問の内容でございます。

本年度、石見東太陽光発電所は修繕もなく、順調に稼働しております。4月から7月までの販売額ですが、473万1,000円で、年間売電の目標であります1,300万に向けて順調に発電をしている状況であります。

また、石見の新石見小水力発電所のほうですが、4月から7月末までの売電額は52万3,000円で、順調に発電しておりましたが、漏水が確認されたため、8月の5日から緊急に発電を停止しております。現在、早期復旧に向けて事業者には修繕を依頼をしているところでございます。また、当初予算で水路の復旧工事を計上しておまして、その間、3か月程度の発電停止が見込まれます。そのため、例年1,200万円を目標としている売電額を本年度は、現時点ではありますが、900万円と想定をしておるところでございます。

続きまして、6つ目の森林環境譲与税について、例えば千葉県松戸市と倉吉市のような取組が本町でもできないかという御質問でございます。

まず、議員の御例示の松戸市と倉吉市の取組についてでありますけれども、本年8月、二十世紀梨や大相撲で交流のある千葉県松戸市と鳥取県倉吉市は森林環境譲与税を活用した森林整備事業で協定を結ばれました。この協定であります、令和6年度に新設されましたとっとり協働の森づくりCO₂吸収量の認定制度に基づくものでありまして、その内容は、倉吉市が松戸市へ交付される森林環境譲与税の一部を活用しまして倉吉市内の森林整備を実施するというものであり、その森林整備によって得られた二酸化炭素吸収量を鳥取県が認証して、松戸市が排出するCO₂を相殺、オフセットするというものでございます。

このような事例は県内では昨年12月の智頭町と東京都の千代田区でも取り組まれているところでありまして、また、鳥取県のほうは、保有するJークレジット60トンで武蔵野市に販売し、得た財源を基に森林整備を行い、武蔵野市は業務から発生するCO₂をオフセットする取組も行っております。

森林環境譲与税の配分見直しがされたといえ、森林面積の少ない自治体では有効な活用方法を見いだせてないところもあります。

本町としても、機会を捉えながら、他の市町村と連携した取組を進めていければというふうに考えておるところであります。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、2点目の総合グラウンド照明設備につきましては教育長から、4点目の日南病院につきましては病院事業管理者のほうからそれぞれ答弁をいたします。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 高橋洋志議員の御質問にお答えいたします。

2、総合グラウンド照明設備について。①設備全体の改修とは別に本部席側に簡易照明設備を完備すべきと考えるがいかがかとの御質問です。

総合運動場の改修については、日南町公共施設等総合管理計画及び日南町公共施設個別施設計画に基づき、時期は未定ですが、今後実施していく予定であります。

本部席側の簡易照明設備につきましては、利用者から具体的な要望は教育委員会には届いておりません。また、日南町公共施設等総合管理計画においては、継続、集約化、

複合化、転用、廃止の5つの取組方針が規定されていますので、現時点で照明設備の新設は考えてはおりません。現在の照明設備の更新の計画の中で、照明の配置等についても検討してまいりたいと思います。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） 高橋洋志議員の御質問にお答えいたします。

4、日南病院について。①今年度の外来患者数（1日平均）を伺うとの御質問ですが、7月末現在、外来の1日平均患者数は81人となっており、これは昨年同期の85.3人に対し4.3人の減となっております。

次に、②新規患者獲得の方針及び取組について伺うとの御質問ですが、本年4月より新病院長が着任され、これまで日南病院が展開してまいりました地域医療をさらに踏み込んだ患者のニーズに応じた医療を目指しております。

その一環として、新たな取組では、鳥取大学医学部附属病院をはじめ、西部圏域の基幹病院や急性期病院の病院長連携を強化し、新たな患者の受入れ促進を図っております。

一方では、高齢により通院が困難になる患者が増加傾向にあり、訪問診療及び訪問看護の対応に注力していくとともに、遠隔診療も視野に入れた取組の構築を図っていきたいと考えております。出かける医療の充実に努めて、信頼関係をさらに築き上げてまいります。なお、本年4月から7月までの訪問看護実績は415件で、これは対前年プラス145件、訪問診療実績は529件で、同じく対前年プラス43件となっております。

また、日野郡連携として、江尾診療所の協力を得て、内視鏡検査の医師を派遣していただいております。現在、昨年より僅かですが増加している内視鏡検査の促進にも取り組んでおります。

さらに、内科の常勤医師が小児科医師不在時でも小児科への対応ができるような体制の構築や外科医が整形外科領域の診療を可能な限り行うことなど、自治体病院としての町民の信頼向上に向けて、職員一丸となって推進してまいります。

以上、高橋洋志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） まず、移動販売についてですけど、事業としては非常に、前から言っておりますけども、異例の助成の制度だと思っております。経費その他、もう全て税金で補った上に行われとる事業だと私は認識しておりますが、その辺は行政側のほうとはまた意見が違うかもしれませんが、いかがお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういいますか、高齢化という社会の中にあります。特に後期高齢の皆さん、あるいは独り暮らしの皆さんというところで、多い地域でもあります。また、食材を確保するっていうことは当然の必要なことだというふうに思ってます。

そういった意味で、なかなかこういった、町内では当然スーパーはありますけれども、移動販売という形を取ることによって、より安全な、どうか、町内での暮らしができるってところが目的でもありますので、なかなかやっぱりとはいいいながら、販売をする行為自体の経営もそんなに簡単なものではないというふうな認識でありますので、行政側としても支援できるところは支援をしていきながら、町民の皆さんの食の安全に努めていくことがまずは優先だろうというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 私の感覚でいきますと、いろいろな考え方があると思うんですが、まず、既存のパセオの中の商店、あるいは駅前とか、コンビニ等、この売上げを食っていったというのが移動販売という私は考え方を少し持っておりますが、その辺、私の考えに対していかが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 当然数字的なところから申し上げるとそういう部分がゼロではないというふうな認識はもちろん持ってますし、パセオ自体も一定の量を買っていただくと家まで送りますよとかいうような取組も以前からしていただいているということは認識しておりますが、とはいいいながら、やはり出かけるということがなかなか、タクシー事業とか、いろんな取組はしておりますけど、こういったように移動販売車が地域に来ていただくっていうことになると、またそれなりの効果があるというふうには思っておりますので、丸かバツかというよりも、トータル的、いろんなバランスっていうところの選択肢をつくるということも一つの在り方ではないのかなというふうには思っております。当然、移動販売の皆さんも毎日来てくれるわけではないですし、それなりのできる範囲の中で今頑張っていただいているというふうに認識しておりますので、これからは継続という形がいかに取れるかということも視野に入れながら、重要な事業だというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 当然、人口も自然減ございますし、商圏としての規模も当然縮小してまいります。その中で、やっぱり主力のところを残していく努力も必要だと思うので、私は、前から申しておりますが、ショッピングモール、あるいは駅前、コンビニ等から顧客の方の要望に応じて商品を届けるというシステムを地元の業者をもって進めるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、例えばですが、以前には自宅にあるテレビから申し込みするってというような仕組みの挑戦もしてきた経過もあったりしますし、当然移動販売のほうもローソンのほうでやっておられた経過がありますが、それぞれの理由があろうかなというふうには思っておりますが、いずれにしても、まずは町内で買えるってところの基本的なところの考え方はそのとおりだというふうに思っております。

が、それができない場合については、周辺の共同化、広域化というところもすべきだろうというふうに思っております。

ですから、当然これから、今、取り組み中でありますテレビを活用した形というの、今、模索している最中でありますので、そういったところで町内での主要なスーパーの活用っていいでしょうか、そういったところも推進はしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 存続可能な町にしていくのには、やはりそこそこ企業さん、今は林業系とか、いろいろ利益出されて、景気がいいのは認識しておりますが、やはりどの事業もそこそこ稼いでいかないと、事業継承などということは毛頭ないことだと私は思っておりますので、その辺、地元の企業をいかに利益を上げていただいて、継続していただくかいうのをやっぱり行政のほうも本当に取り組んでいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的な考え方は私もそのように思っています。

○議長（山本 芳昭君） 高橋議員、発言の前に議長と発言をされて、発言要求ボタンを押してください。

2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） このカードの取扱いについても、先ほど業者のたったもカードチャージ額の取扱いについてということで、金額を示していただいたんですが、大体年間 6 6 万ぐらい。これで当分一定の数字じゃないかいうて町長も答弁いただきましたが、そのとおりで推移するんだろうなと思っております。ただ、この意味が、これも資金繰りに使えるお金であるということだけは認識していただいております。

次の質問に参りますが、議会だよりでも先般取り上げさせていただいたんですが、最近、子供さんのクラブ活動等、非常に活発にやられておりますし、非常に優秀な成績を収められております。やっぱりこれに対して、今、この瞬間に対応していただかないと、その子供たち、すぐ大きくなって、次の段階に行ってしまうので、貸手側といいますか、使用していただく側として、環境整備というのは非常に大事なことだと思います。

私が今、照明設備に関して上げさせていただいたのは、陸上クラブが今 3 0 名ぐらいで活動されておるようですが、だんだん日が短くなってまいりまして、気温も大分下がってはきておりますが、基本的に外でやるスポーツに対して、大体どのぐらいな時期までやるのが適当とお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 少々お待ちください。

高橋議員、先ほどカードのチャージの実績に対する質問の中で、資金繰りに使える金であるという認識を持ってほしいという発言がありましたが、これは間違いありません

か。

2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 間違いないと思います。

○議長（山本 芳昭君） そのチャージした金額がチャージをしてもらった店舗の資金繰りに使えるという認識ですか。

2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） チャージしていただいてから決済までの期間がありますので、当然、使おうと思えば資金繰りに使えるお金だと認識しております。

○議長（山本 芳昭君） このことについて、執行部、何か答弁ありませんでしょうか。
中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には、たったもカード自体に預金を入れるっていう考え方ですので、その金銭は当然商工会なりの全体の動きのためのお金っていう話になりますので、一般的に捉えると、どういんでしょうか、商店側の、移動販売者側の収入という考え方には一般的にはならないというふうには思ってます。ただ、実質的な話というのは、それは内部的なところはあるのかもしれませんが、私がチャージしました。1 万円チャージしました。当然カードの中にその金額が納まっているということでもありますので、そういう考え方が主流だというふうに私は思ってますので、そういった意味で、資金繰りという説明がありましたけれども、そこはあんまり表現しないというか、基本的な考え方ではないというふうに私は思っております。

○議長（山本 芳昭君） よろしいですか、高橋議員。

2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） いろいろな考え方はあると思いますので、基本的には借り受けしてから次の商工会に対して決済までの間というのは、これは自由に使えるお金。だから受け方によって、それは行政側とは違うと思います。

○議長（山本 芳昭君） すみません。一般質問の中で私がちょっと横やりを言ったような形になりましたが、このことについてはまた後ほどいろいろ調査してみたいと思っております。

青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 先ほどの御質問ですが、スポーツをする時期といえますか、いつまでできるかということの御質問ですけれども、本町でいけば、雪が降るまでは外でやってるのが現実でありますし、照明云々という部分でいえば、大体 11 月ぐらいにはもう照明を入れてやってもらっているというのが現実なところではあるというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 私もちっと無知な面もございまして、現状の照明設備において、切替えで半分とか、この部分だけ照明つけられるというのはあるんでしょう

か。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 全部つくという、6基照明器具あるんですが、6基とも全てつくというところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） これは当然使用される側の方が利用料というのはお支払いになるべき照明設備ということでよろしいのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） 全て町のほうで負担をしております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） 負担があるかと思っております、私の認識がちょっと、調査も含めて勉強不足でございました。申し訳ございません。

10月いっぱい大体5時12分ぐらいが日没の時間だそうです。この辺の平均が。クラブチームというのが、活動の時間というのが5時から7時というふうに伺っておりまして、当然そうすると10月中にはもう薄暗いというか、もう暗い中でクラブ活動をしていただくということになりますので、無料で使えるものであればどんどん使って、環境をいい状態で、子供さんたちには伸び伸びと使っていただければよろしいかと思いますが。

○議長（山本 芳昭君） 青戸教育長。

○教育長（青戸 晶彦君） そのつもりで我々も取り組んでいるところであります。ですが、遠慮もあってという部分があるのか、暗くなってからでも見える範囲でといいますか、照明つけずに練習もしておられたり、あるいは外、道路のほうを走っておられたりするという場面は見受けられますけれども、我々教育委員会としては、大いに照明を使って練習はしていただきたいという部分はあります。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） そうしますと、環境というのは非常に大事だと思いますので、よろしくお願いします。

次の質問でございます。JR伯備線沿線の倒木対策ということで御質問を上げさせていただきますが、最近、ナラ枯れによりまして、特に生山駅の下手ですね、隣町にまたがって結構枯れた樹木が見れるようになっておりますが、事前に協力方々のやりますよというのは、こちらからはやっぱりアピールはされないということでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 所有権あたりがちょっと今、頭にはないのですが、基本的にはそういうナラ枯れになると思われる、あるいは、あるのかないのか分かりませんが、松のほうというところだってあるのかもしれませんが、基本的には、どういんでしょうか、そういうところも地検をしながらJRのほうで調査的なところはされてるというふうに

思ってますし、また、そこが所有者というところはそれぞれあるというふうに思ってますので、そういった環境を調査していただきながら、また、どういんでしょうか、相談等がありましたら、丁寧な対応はしていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 最近、J R さんの特に運行、やくもあたりもあれですけど、計画運行、雨の場合はそうですけど、倒木によって運休というのが結構な頻度で起きてきております。そういう観点でいくと、やっぱり伯備線、岡山からこっちへずっと米子、出雲まで沿線の自治体の方が協力いただいて、事業主体ですから J R が当然動くべきなんでしょうけど、やっぱり連絡取り合って、できるだけ運行を守っていただくような協力体制も必要だと思いますが。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 確かに例えば遅延しましたとかっていうところの理由の一つとして、倒木が見つかりましたみたいなところの情報は時には入ってくるというふうには、そういう理由があって少し遅延しましたということはあるというふうに思ってます、実態的に。ですけども、そういうことがないように、やっぱり私たち乗客側としてもそうですし、できるだけないほうがいいというふうには、当然のことだろうというふうに思っていますので、その辺の実態はやはり J R のほうもしっかり確認されるだろうというふうに思っておりますので、その段階で町として協力ができることがあれば、相談も含めてやっていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） J R さんもやっぱり民間企業であって、伯備線、やくもが通つとるから便数、普通の電車も在来線は減らしますというのは出てはこないんですけど、実態は結構はたから見とったら乗ってないですから、利用される方は非常に少ないので、やめられるって言われたらまた困りますので、逆に、協力、自治体としてやっていってるっていう姿勢も大事だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういんでしょうか、J R 側からそういう要望が本当にあるのかっていうか、そこまで必要性を J R が感じているのかと、ちょっとそこら辺は何となく分かりませんので、今後やっぱり J R の皆さんとお話する機会があれば、その辺の議題は取り上げてもいいのかなとは思いますが、現時点におきましては、そういう御要望なりも受けておりませんのでという状況であります。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 次に、日南病院さんに質問させていただきました今年度の外来者数、当然減ってきているということで、今、新しい病院も検討されておまして、病院の規模にもかなりなところで外来というのは維持していかないといけない数字になると思うんですが、この対策として、病院間の連携等、内視鏡検査等ということで御回答

いただきましたが、新規顧客、顧客という言い方はちょっとおかしいかもしれませんが、日南病院、新たに利用していただくに際して、病院だより等、いろいろ最近広報されておりまして、私も実際に日南病院へ行かせていただいて、スタッフの方も非常に優秀になってこれとるとは思うんですが、高齢者だけじゃなくて、協会けんぽでの健診のところをもって、日南病院に最初に来ていただくような、やっぱり地元の企業に対してのアピールといいますか、営業活動といいますか、そこら辺も重要になってくると思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 福家病院事業管理者。

○病院事業管理者（福家 寿樹君） 御指摘の件でございますが、先ほどの答弁の中にもありましたように、しっかりと患者さんのニーズに応えるということがやっぱり全面的に我々がやっていかなければならないというふうに思っております。特に専門外来が今、週に1回、2回というような形でかなり御不便をかけておるところでございますが、やはりそういった隙間のところを、治療が可能な疾患あるいは傷病に対しては当然日南病院で、その曜日で、専門の外来の曜日でなくても御連絡いただいて、しっかり医師が対応し、専門的な治療がどうしても必要な疾病の場合は迅速に適切な診療へつなげることが、まずをもってそういった行動がやがて皆さんにやはり受け入れられると、新規の患者さんはもちろんそうですが、つながるものというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） ぜひとも町内の企業を回っていただいて、新規のお客さん、最初にやっぱり日南病院で受けないと、最初に要検診というのが出た場合に、ほかの病院にかかったら、ほかの病院でも日南病院に帰ってくるというのはほぼないと思うので、そこら辺、上手に取り組んでいただきたいと思います。

最近、高齢の方に対して役場、福祉保健課のほうから非常に、日南病院で受診してくださいじゃなくて、ターゲットを広げた御案内が来ておりますが、そこら辺も、やっぱり日南病院、新しいのを建てられるに際して、新しい患者さんをやっぱり日南病院にいかにつけてくるかということも全体として取り組んでいくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

すみません。具体的に、年齢が来ますと、歯科の健診であるとか、まず肺炎球菌の分で私もいただいたですけど、非常に広範囲の西部地区の医療機関が利用できるというふうに案内をいただいておりますが、そうじゃなくて、日南町の人間は日南病院でやっぱり使えるいうか、特に日南病院を利用してくださいという案内のほうよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には日南病院を受診をしてくださいというところが基軸にはなっているというふうに思っていますが、ただ、内容によりけりというか、例えば歯科あたりの話があると、当然、入沢医院がありますけど、そこでなかなかというか、

その辺の内容を整理して、かつ町民の皆さんにもやっぱり幅広く利用してもらうということが一つは目的でありますので、その辺は、どういんでしょうか、内容によりけりだろうというふうには思っておりますが、町民側の目線からいくと、いろんな例えば今までの経過もありますのでということもあつたりしますので、ただ、日南病院のほうで受診が可能というところがあるならば、そっちを優先してもらうという考え方は私のほうとしてもお願いを申し上げたいというふうに思っております。

ちょっと個別的な話になると、担当課長のほうから述べさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 先ほど高橋議員からありました肺炎球菌につきましては、今年度から65歳のみということになりまして、昨年までは日南病院、オンリーではありませんでした、優先ということの御案内もしておりますが、1回ということになりましたので、幅広い御案内もさせていただいております。

また、ありました5歳刻みの歯科健診につきましても、今年度からスタートしておりますが、西部地区、先ほど町長の答弁にもありましたけれど、やはりその年に、5年に1回ですので、必ず受診いただいてということで、町内のほうの受診のほうも伸びているというふうには聞いております。

また、今後スタートいたします予防接種ですね、インフルエンザやコロナのワクチンにつきましても、日南病院と連携して、住民の方が受けやすい体制のほうを御案内できるように準備しておりますので、申し添えておきます。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 2番、高橋洋志議員。

○議員（2番 高橋 洋志君） より身近な存在で日南病院はあってほしいと思いますので、よろしくお願いします。

次の再生エネルギーについてということで質問させていただいております。稼働状況、売電収入について御回答いただいておりますが、前回のときも御質問というか、学校のグラウンド等を発電所にいかがとかいうような提案もさせていただきましたが、やはり町民に、個人に、景気が悪くても、なかなか還付といいますか、助成といいますか、形ではなかなか難しい面があるとは思いますので、できるだけ行政でも自然エネルギーで収入を得られる手段、やっぱりもうちょっと取り組んでいただきたいと思います。具体的に今使用されております病院の補填であるとか、水道料に関しては、もう将来上げないよというようなところまでやっぱり売電によって収入を得て、それを充てるとか、教育問題にしても、給食の問題にしてもそうだと思うんですけど、できるだけ交付金等、税金の件とか、国の還付だけじゃなくて、この自然を生かして収入を得られるのであれば、そういう取組を大いにやるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には再生エネルギーの利活用って、あるいは推進というのはその考え方を持っておるところでありますし、町内の公共施設でも支援センターだと

かというところも太陽光を設置をさせていただいているというふうに考えております。今後につきましてということですが、いろんな種類の再生エネルギーがあるというふうに思っておりますが、やはり当初資金的なところが当然ありますし、それを例えば過疎債でというわけにもならないというのが状態でありますので、極端に言えば、独自資金というところからスタートっていう話でありますので、そういったところを考えていくと、考え方がゼロではもちろんありませんけれども、どこかでそういうところの形を構築できればというふうには思っておりますけれども、現時点で大がかりなところろは、どういんでしょうか、場所的なところも含めて模索が要るかなというふうには思っております。

重ねてになりますが、今後の再生エネルギーというところは進めていきたいというふうな考え方をしております。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 最後の質問になります。森林環境譲与税についてということで質問させていただきましたが、ちょっと私の勘違いもありまして、最近、森林に対する、そもそもはどうも日本の首相が替わりそうだということから、方向変換あり得るのかなと思って、間伐を促進されていろいろな助成が手厚く施されてきた経緯があると思うんですけども、実際に間伐より今取り組まれているのが、日南町の場合、皆伐で、新植というようなことをよく聞いております。実際のところ、ちょっと質問の趣旨が変わるかしらんですけれども、日南町全体の森林の間伐に対する進捗率というのは、やめたほうがいいですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その辺の具体的な数字はちょっと持っておりませんので、後からってということになるのかなというふうには思っておりますが、ただ、どういんでしょうか、戦後植えてきたというところはありますので、当然現時点では、それこそ全国的な流れではありますけど、間伐をやってきて、その後に皆伐っていうところが本町においては流れだというふうに思っております。要は、間伐でも 1 回、山によっては、人によっては違うかもしれませんが、基本的には間伐を 2 回なり 3 回をしながら、その後に皆伐をするという流れというのが本町での取組だろうというふうに思っております。ですから、極端に言えば、地域においては、その間伐が正しく言やあおかしいけど、されてないケースの中で皆伐をするというところも地域によってはあるのかもしれないと思っておりますので、森林組合等を中心にしながら、やっぱり現場を見ながら間伐というのは適切なときにすべきだろうというふうに思っておりますし、多分、森林組合のほうも循環型というところも、そういった林業を目指しておりますし、そういった指導もしてきてるというふうに思っておりますので、一定の期間がなれば、当然皆伐というところがあります。現在、民間でもそうですし、本町においてもやっぱり皆伐というところの取組を、少しずつですが、やってるというのが現状であります。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 御回答いただきましたが、まず日野川水系において、やっぱり森林保全を、この日南町、日野町もそう、大山町も、溝口あたりもそうかもしれないですけど、やっぱり日野川の水量確保といいますか、日南町、日野町、隣町も含めて保水力を高めていって、豊かな水を守る施策を連携して取るべきだと思いますが、森林譲与税あたりも、例えば境港市に日南町に投資していただいて、その保有された山もございしますが、いっときだけで、その後、継続性どうなのかなというところがあって、やっぱり日野川水系守っていくのには連携して取り組んでいただきたいと思います、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 御案内のように、境港市は日南町のほうで市民の山というのを保有していただいておりますし、ちょっと何年か前かではありますが、間伐をして市内の中学校の学校づくりの中の一部に使用されてるとかいうところもあります。現在境港市のほうも環境税あたりを利用しながら作業道の維持管理だとか、あるいは市民の森のウォーキングなどのこういった交流事業も展開をされとるというふうに聞いておりますので、連携をしながらこれからもということと併せて、そういう活動することによって、あるいは間伐もそうですし、やはり水源涵養ということになりますので、そういった意味で水の、どういんでしょうか、体力をつくっていく言やおかしいですけど、水源涵養にこれからも寄与していきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 2 番、高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） これで私の質問終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（山本 芳昭君） 以上で高橋洋志議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） 再開を 2 時 5 分からいたします。

午後 1 時 5 3 分休憩

午後 2 時 0 5 分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き一般質問を続けます。

6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 今期定例会では、一般質問通告のとおり 3 つの項目について一般質問させていただきます。

最初の質問項目は、高齢者及び身体障がい者等の外出支援についてであります。4 点伺います。

1 点目、6 月の定例会で同僚議員がデマンドバスの小型車両によるドア・ツー・ドアの利用状況について質問された際、5 月末現在では利用がないとの答弁がありました。

その後、直近のデマンドバス小型車両の利用状況と利用が低迷している要因について伺います。

次に、障害者等外出支援事業についてです。デマンドバス小型車両によるドア・ツー・ドア化を実施してもなおバスの利用が困難な方への外出支援を目的に、障害者等外出支援事業を行っています。しかし、この事業を受託している3社の利用実績が特定の事業者偏っている状況であります。担当課から提供された資料によりますと、7月末現在の実利用人数は、日南交通有限会社が325人、社会福祉法人日南福祉会が6人、NPO法人夢太陽では利用実績がないとのこととあります。その要因について伺います。

3点目は、障がい者や要介護者の方々を対象とした福祉有償運送サービスについてです。このサービスは、公共交通機関の利用が困難な方々にとって日常生活の重要な移動手段となっております。特に通院や買物といった日常的な外出を支援し、生活の質を向上させる役割を果たしています。町内での福祉有償運送サービスの具体的なニーズと現状の提供状況についてお伺いいたします。

最後に、福祉有償運送事業者に対する行政支援についてであります。福祉有償運送の運賃は一般的にタクシーの上限運賃の半額程度であり、この対価だけで事業を維持することは非常に難しい状況です。さらに登録ドライバーの高齢化が進んでおり、担い手不足となっております。福祉有償運送事業の継続には事業者に対する行政支援が必要だと考えます。そこで鳥取県及び日南町の助成事業について、どのような支援があるのかをお伺いします。

続いて、2項目めは、日南町公共交通総合計画について伺います。

現在の公共交通総合計画の計画期間は令和7年3月までとなっております。これまでにデマンドバスのドア・ツー・ドア化やタクシー助成制度の見直しなどが行われ、計画に基づき一定の効果が見られました。さらに令和4年度には日南町地域公共交通事業調査が実施され、デマンド運行の検証と運営、運行の一体化に向けた検討が進められていると思います。そこで次期日南町公共交通総合計画の策定に向けた体制とその進捗状況について伺います。

最後の質問項目として、サウンディング調査についてお伺いします。

令和6年度の新規事業として、町有の遊休不動産を有効活用するために民間事業者からの提案を募るサウンディング調査を実施しております。この調査は、地域資源の最大限の活用を図るために重要な取組と考えております。

そこで次の2点について質問いたします。

まず、1点目として、現在のサウンディング調査の具体的な期間や方法などの実施状況と、これまでに寄せられた企画提案の件数と内容について伺います。

次に、2点目として、提出された企画提案に基づく不動産の利活用を決定するプロセスについて伺います。

以上で最初の質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 岩崎昭男議員の御質問にお答えします。

まず高齢者及び身体障がい者等の外出支援についてということで、デマンドバス小型車両によりますドア・ツー・ドアの利用が低迷しているが、直近の利用状況と利用低迷の要因について伺うという御質問でございます。

デマンドバスの小型車両によります運行ですけれども、令和6年3月以降にデマンドバスの運行を委託しております3社へ1台ずつ配備し、7月から新型車両に入れ替え、運行をしております。おおむね2か月間の運行状況ではありますが、延べ59人の方に対し35回、新型車両で運行しております。このうち大型のデマンドバスで家まで行けない登録者の方の御利用ですが、1名、6回となっており、全登録者1,216名中の利用率は3%となっております。

現在の利用率ですが、こういうことが低いということではありますが、冬期間の利用は多くなると見込んでおりますので、引き続きPRに努めるとともに、利用者や登録者からの声をくみ上げ、よりよい事業となるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

次に、2つ目の障害者等外出支援事業を受託している事業者（3社）の利用実績が特定の事業者に偏っている。その要因について伺うという御質問でございます。

令和6年度から利用事業者の選択制を廃止して、受託事業者である3社のどの事業者でも利用できることとしております。7月末までの4か月間の実績ではありますが、日南交通が実利用人数382人、日南福祉会が実利用人数が6人、夢太陽は運転手の追加登録が7月末に完了し、参画が8月からとなり、7月末までの実績はありません。

利用が特定の事業者に偏っている要因につきましては、日南福祉会や夢太陽が行う福祉有償運送事業は一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障がい者や要介護者等に運送を行うもので、利用には会員登録が必要である上、事業者の運転手の人数や保有台数も異なっていることから、利用に偏りもあると認識しております。また、福祉有償運送サービスへの理解が浸透してないことも要因と考えます。

今後、町民の皆さんへの事業広報と利用方法等の説明に努め、広い面積の日南町において障がい者や高齢者の外出の支援となるよう取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、町内での福祉有償運送サービスのニーズと提供状況を伺うという御質問でございます。

町内の福祉有償運送サービス事業者は2社であり、うち1社は介護事業所が運営しており、通院に限定して対応し、令和5年度実績ですが、年間58件となっております。残りのもう1社ですが、町内交通の便益の一助を目的に特定非営利活動、NPO法人が町内外を問わず通院でありますとか外出支援を行っており、令和5年度の実績ですが、年

間 5 3 件となっております。

次に、福祉有償運送事業者に対する鳥取県及び町の助成事業を伺うという御質問でございます。

現在ですが、福祉有償運送事業者に対する鳥取県及び町の助成事業はありませんというのが現状でございます。

続きまして、2 つ目ですが、次期日南町公共交通総合計画についてということの最初の計画の策定体制と進捗状況について伺うという御質問でございます。

次期日南町公共交通総合計画につきましては、計画期間を令和 7 年 4 月から令和 12 年 3 月までの 5 か年とし、各集落と中心地域を結ぶ強固な公共交通と共助交通を基本方針に策定することを考えております。

策定体制につきましては、運行事業者、利用者、町等で構成します日南町公共交通確保対策協議会で議論を行うこととしており、過去 5 年間、特にドア・ツー・ドア型のデマンドバス運行を始めた令和 4 年 10 月以降の現状分析を行っているところでございます。

10 月に第 1 回の協議会を開催し、3 回程度の議論を深めながら 3 月末の策定を目指しております。各協議会の開催結果につきましては、適宜議会のほうにも報告をさせていただきたいと思っております。

続きまして、3 つ目の町有遊休不動産サウンディング調査についてということで、実施状況と企画提案のあった事業について伺うという御質問でございます。

本年度初めてであります、こうしたサウンディング調査につきましては、去る 7 月 27 日に石見地域内の 5 か所の施設、石見の東小学校花口分校、三本松の農場、フラワーセンター、石見西小学校のグラウンド及び上石見駅の待合室でありますけど、この 5 つの施設を 6 事業者が現地視察をしていただきました。地元自治会の方を交えて意見交換を行ったところです。その後、参加事業者から 2 か所の遊休不動産について新たな活用提案を 3 件いただき、現在ですが、事業者からの提案書を町のホームページと石見地域振興センターのほうで公表し、意見募集を行っているところでございます。

なお、提案内容につきましては、三本松農場がバイオマス発電事業が 1 件、フラワーセンターが同じくバイオマス発電事業が 1 件、地域振興の拠点づくり事業ということで 1 件いただいております。

次に、当該の不動産の利活用を決定するプロセスについて伺うという御質問でございます。

現在、各提案書に対する意見募集を行っております。寄せられた意見につきましては、今月、いわゆる 9 月末ですが、この日にちを目途に各提案事業者へフィードバックする予定でございます。各事業者につきましては、地域の要望や意見を踏まえた詳細な事業提案を求め、年内には再度地元へ説明会を開催する予定としております。関係者と一定の議論が終わりましたら事業決定する予定ですが、地域の方や関係者の十分な理解を得た上で事業化に進みたいというふうに考えております。したがって、提案された事業を

必ず実施するのではなくて、計画の安定性、継続性と、あるいは地域振興に資する活用方策があるかなど十分協議検討した上で決定し、進めていくことから、事業開始時期や予算化については現時点では未定であります。

以上、岩崎昭男議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） まず、デマンドバスの小型車両のことについて伺います。

この小型車両の導入というのは、道路が狭いなどの理由によりまして御自宅まで送迎が、での乗降ができないという方が対象で、3 2 世帯 5 2 人の方がその該当であったということで、先ほど町長のほうの答弁で、実際に 3 5 回運転したんだけど、そのうちの 6 回、人数にしたら 1 人がこれまで自宅前で乗降できなかったが、できるようになったということでお答えがあったんですけれども、ちなみに、昨年の 6 月頃ですかね、デマンドバスの利用者登録者数というのを伺いました。そのときには 1, 1 1 5 人が登録をされとるということでありましたけれども、現在、現時点でのデマンドバスの利用者登録というのは何人いらっしゃいますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 現在は全ての登録者数は 1, 2 1 6 人でございます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） この 1, 2 1 6 人の中に、道路が狭い御家庭の 5 3 人というのはもう登録がその中に入っております、その方でしょうか。ちょっと確認だけお願いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） そのように考えていただいていいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 1 人で 6 回これまで利用があったということなんですけれども、ちなみにその 5 3 人の方、該当のですね、この方々には御自宅前で、小型の車が入ったので、お迎え、乗降ができますよということをお伝えのほうはしっかりとされてますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には大型のデマンドバスというところを主体的に今まで稼働してきたというところの中で、新しく小型車も、どういんでしょうか、保有することができましたということでもありますので、運転手の方ですと大抵この方はここのおうちですみたいなところのイメージはできてるといふふうに思ってるので、そういった提案というか、紹介というか、お知らせというか、それはできてるといふふうに思ってますし、今後、人が替わったりしますのでということの中でいくとそういう利便性の話というのは提案、提供できるというふうに思ってますし、していただきたいというふうに

思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 利用者登録のときに、申請するときに町のほうに出します、申請書をですね。そしたらあなたの乗り場はここですよという文書が利用者側に返ってくるという、たしか流れだったと思います。そのときに恐らくその 53 人の方は自宅前を登録したいんだけども出したんだけども、実際には 100 メートル離れたバス停まで来てくださいねというような指示が、文書が行ってると思うんですけども、その方々にお迎えに、家の前で乗降できますよというのは、やはり担当課からしっかりと御本人に伝えないと、このことが、小型車が入ったこと自体も分からない、まだ使えるかどうか分からないというような状況じゃないでしょうか。しっかり伝えられましたでしょうか、担当課から。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっとその辺の詳細な動きにつきましては、担当課長のほうから述べさせます。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） そういった事業を開始するということは、こういった議会等でも、それから今度 3 チャンネルのほうでも周知するようにはしとるんですけども、実際にここまで入る、入らないというのを現地のほうで確認させていただいたりしますんで、また改めて申請書もらうかどうかということになるんですけども、その際にはやはり受付されたときに、ここまで行けますよとか、冬の場合、もしかしたら行けない場合もあるかもしれません。そういったことの案内も含めて、やはりオペレーターの方にその辺はきちんと周知していきたいなというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 何にしても目的が自宅の前で乗降できない、それを解消するんだということだから、解消できるような体制ができたなので、それはしっかり伝えて当たり前だと思いますんで、早急にお伝えいただきたいと思います。

ちなみに 35 回の運行ですけども、受託事業者別の回数のほうも教えていただきたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 今手元に持つとる受託事業者別の利用者人数でよろしいですかね。（発言する者あり）

今集計しておりました路線ごとになっちゃいますけれども、それで報告させていただこうと思います。多里線ですけども、これは NPO 多里が行っております。4 月から 8 月の 31 日までの間で累計でございますけども、1,449 人。続いて、大宮線、これ日南交通さんですけども、423 人。それから次、山上線、これも日南交通さんが運行されております。1,037 人。それから石見線、これ共立メンテナンスさんが運行されて

おります。５２９人。次に、福栄線、これも共立メンテナンスさんが運行されております。８５３人。合計で４，２９１人の方が利用されております。

○議長（山本 芳昭君） ６番、岩崎昭男議員。

○議員（６番 岩崎 昭男君） すみません。ちょっと聞き方が悪かったかもしれません。小型車両の回数、要はデマンドバス全体じゃなくて、このたび導入したデマンドバス、その３５回ですね、これの内訳。要はどの地域のどの事業者が運行したかどうかというのが分かりましたら。ざくっとでいいです。多い少ないがあるんだと思いますので。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 多里線が３４人。失礼しました。それから、多里線といいますか、ＮＰＯの多里が３４名。共立メンテナンスさんが１名ですね。以上です。

○議長（山本 芳昭君） ６番、岩崎昭男議員。

○議員（６番 岩崎 昭男君） 実はお願いをしまして、担当課からデマンドバス小型車両の走行距離のデータのほうを提出していただいております。その距離数、ちなみに７月２日から８月２９日までの数値ということで、共立メンテナンスが１０６キロ、ＮＰＯ多里さんが１，１８８キロ、日南交通さんが６２キロということであります。実際ＮＰＯ多里さん以外はほとんど小型車両は実際使ってないということでありますが、このような状況になるというのは想定されておった数値なんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 基本的に運行事業者の方には、３名以下の利用のときにはできるだけ小型車を使ってくださいというお願いはしとります。ただ、それ以上になったときには、物理的にちょっと中が狭くなりますので、運行できませんので、そういったような運行してくださいというお願いはしておりますけれども、今のところ家の近く、そういった細い道までの依頼がございませんので、ハイエースのタイプの運行されてる事業者等も今もあるということでございますけれども、町長答弁しましたように冬の幅員が狭くなった際等にはもっとこの小型車の稼働が増えていくものというふうに予想しております。

○議長（山本 芳昭君） ６番、岩崎昭男議員。

○議員（６番 岩崎 昭男君） 結局私がちょっと申し上げたいことは、せっかく導入した小型車両は、やはり恐らく燃費もいいし、運行経費もかからないということで、課長のほうから答弁があったんだけど、３名以下の場合には小型車を使ってくださいねという指示があるという中におきまして、そういう中においても結局共立メンテナンスさんと日南交通さんは現状ほとんど使ってないのがありますよね。

ということは、そのルートにおいては３名以下ということはほとんどないというふうに捉えていいんでしょうか、乗客の方が。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） これは言い訳といたしますか、あれになるかもしれませんが、ハイエースのタイプは乗り降りがしやすいステップが出てくるタイプになりますので、高齢者の方には非常に乗り降りはしやすいタイプの車になっております。そちらを優先するのか、燃費とかそちらを優先するのかというまた問題は、やはりこれは運行事業者さんにお任せするしかないのかなというふうにはこちらのほうでは思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） ちょっと答えがすり替えられたような気がするんですけども、いろんな理由があって小型車があんまり使われてないと、2 社についてはですね、いうことですので、いずれにしても自宅まで、自宅での乗降ができないという方を中心に小型車を入れたということなので、やはりそこら辺の利用の P R、情報をお伝えしながら、かつやはりこの小型車を導入したというのは公共交通の事業自体の経費節減ということもあると思います。やはりそこら辺りのことも考えながら委託事業者にしっかりと指示のほうしていただきたいと思います。

それと、ちょっとあれなんですけども、デマンドバスの乗降で結局自宅を登録しておるんだけど、実際乗ったら、利用したら自宅以外のところで乗降させられたという意見をちょこちょこ住民の方から伺います。残念ながらそういう意見があると。そういう情報というのは役場のほうには入っておりますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） そういった本当にちょっとこっち、当方、運行のミスというようなタイプの苦情というのは実際にはこちらのほうにはなかなか入っておりませんけれども、運行事業者には入っと思しますので、その辺はちょっと確認させていただこうと思います。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 利用者の立場に立った町営バスの運行ということを考えたときに、本当にやっぱりそういうような小さな苦情というのをしっかり運行に反映させていくと、いわゆる行政の立場からしたら委託事業者に指示をする、指導する、そういうことをしっかりしていただいて、町民の交通確保に努めていただきたいと思います。

続きまして、障害者等外出支援事業についてですけれども、私は、この質問したときに、実は、7 月の 18 日ですね、経済福祉の常任委員会でこの支援事業についての実績を中途まで資料として提出していただきました。その中で、日南交通さんと夢太陽さんと福祉会という 3 社の事業者がいらっちゃって、もうほとんどが日南交通の利用になるということで、福祉会さんにつきましては施設入所の方が病院までという明確な制限がありますので、人数的には少ないというのは分かっておったんですけども、日南交通さんと夢太陽さん、何でこんなに違うのかということでありました。

ちなみに、この事業の在り方として、今年度から、昨年度まで障がい者の方、それから要支援、要介護の方、そういう方、かつ住民税非課税の世帯という条件が入っておった。住民税非課税はもう全員なかったんですね。失礼しました。そういうような状況だったんですけども、このたびから８０歳以上の方、それぞれの区分に該当しない方も含めて幅を広げたということでありました。

そういう中におきまして、この選択制をなくしたとおっしゃいますけれども、実際にはタクシーを利用する場合であれば誰でも乗れます。ところが、夢太陽さんのほう利用するためには障害者手帳お持ちか、あるいは要支援、要介護のような認定を受けてる方でないと分からないと、でしか乗れないという条件があるかと思います。障害者手帳お持ちの方と要支援、要介護以外の方、要はこれまで対象でなかった、昨年度までは対象でなかった方の人数というのは何人、今年新たに８０歳まで枠が広がったことによって増えた方というのは何人いらっしゃいますでしょうか。ちなみに対象見込み者数というのが７４５人でありますよね。予算上ですね。７４５人のうち何人の方が、純然たる健康者の方で８０歳以上ということになろうかと思うんですけども、何人でしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっと私のほうでは掌握しておりませんので、担当課のほうから答弁をさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 昨年から障がい者等の外出支援事業につきましては、要介護、要支援認定のある方、そして障害者手帳の交付者の方プラス運転免許証のない方ということになります。手帳の所有者の方についての数は把握ができるのですが、運転免許のない方というのをうちで全員を把握することができません。これまでの事業を利用いただいて、既に免許がない方というのを把握している方についてはプッシュ型で交付をさせていただいております。今年度要介護・要支援認定者、障害者手帳、そして８０歳以上の方で全体で７４５人というところを見込んでおります。ちょっとその詳細のところですけど、要介護、要支援のところで大体５３０人ぐらいですね。障害者手帳のところで、ただ、これも重複しております。４００人程度いらっしゃいます。それに８０歳以上の方で、そこちょっとかぶっている方を除きまして、全体で７４５人というような形の数字をさせていただいております。

○議長（山本 芳昭君） ６番、岩崎昭男議員。

○議員（６番 岩崎 昭男君） そうしますと、８０歳以上の方も含めたというとはいっても、ほとんどの方が要支援、要介護とかいうような対象者だというふうに捉えていいもんなんですか。ちょっと今の答弁でそう聞こえたんですけど、どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 今回８０歳以上の方をプラス、加えさせていただいた中でも介護認定のある方が８０歳以上の方でおよそ８５％ぐらいの方はもうお持ちとい

うことですので、ほぼほぼ皆さん何かしらの支援が要る方というふうに認識をしております。イコールではないと思いますけれど、80歳以上の方ではほぼ福祉有償運送のほうは使っていただけるような対象になるというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） そうしますと、今の日南交通さんと夢太陽さん、まさにほとんどの方が両方選択、どちらかでも利用できるというような支援事業だと思います。

先ほちょっと申し上げましたけども、町長のほうがお言葉があったんだけど、夢太陽さんにおいては8月からでないといわゆる運行ができないような体制だからということでした、実際7月までの実績はゼロだということだと思いますが、こういうのをちょっと今回初めて伺いまして、実は前回の経済福祉の中でそういうような説明が多分なかったんじゃないかなと思ひまして、これだけ数値が5年度と6年度違うというのになぜかなという疑念があったもので、このような質問させていただいたんですけども、夢太陽さんが事業ができなかったというのを初めて伺いました。

今後、じゃあ、そういう意味でおきますと昨年度並みに両事業者を活用してこの事業が進められるというふうに考えてよろしいのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 説明が不足していて、すみません。

夢太陽さんにつきましては、春より手続を進めておられましたけれど、完了したのが7月になったというふうに聞いております。

3人の方の登録ができたということですので、運転手さんのほうも追加がされまして、また台数のほうも3台プラスということですので、また新たな利用者さんのほうの使用、広報のほうも力を入れるということですので、また利用のほうが増えていくのではないかとこのように思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） 事業に参画しておられます2社の方がどちらかと平等の形での利用者とすれば選択肢があるということになろうかと思うんですけども、ちょっと具体的な利用方法について伺いたいことがございます。1回につき5,000円を上限に補助していくという考え方なんですけども、乗車地、降車地というのがいずれかが町内であればよろしいということで、例えば日南町から米子の病院に通って利用するということも可能なわけですから、そのときにタクシー事業者と福祉有償運送の事業者さんは運賃が違いますよね。ですから、5,000円以上かかった場合には利用者負担というのが大きく差が出ると思うんですけども、そういう考え方でよろしいでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 岩崎議員がおっしゃられましたとおり、もともとの運賃設定がおおむねこの福祉有償運送ではタクシー運賃の半額ということになっておりま

す。ですので、日南町の助成額のほう5,000円上限にしておりますので、福祉有償運送でいきますと2,500円ということが上限になっております。

利用方法については同じ利用方法となっておりますし、町外の医療機関であっても利用可能の方でありましたら夢太陽のほうで利用いただくような形となっております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） 町内ぐらの距離であれば両事業者を使っても利用者負担というのは同じだと思うんですけども、ある程度の一定の距離を超えたところで利用者負担、いわゆる料金として5,000円を超えてしまうと利用者負担が増えるんだよというようなことも実際あるわけですし、この事業を使われて実際に5,000円以上の距離を使われる例というのはどのくらいあるものなのでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 個別の件数まで、すみません、持ち上げておりませんが、一月に大体四、五人は5,000円超えた形での請求を今現在ではいただいております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） 利用者側の立場とすれば、長距離になれば福祉有償運送のほうの利用者負担が低いんだよということは、やはりそういうようなことというのは利用券を発行するとき何か説明とかもされるわけですか。

○議長（山本 芳昭君） 出口福祉保健課長。

○福祉保健課長（出口 真理君） 利用券発行の際に細かくそういった形では広報はしてありません。

ただ、こういった形で何キロになればということのお話はさせていただいてるようになっております。

また、それぞれの事業者さんのほうで利用者さんへの説明はされていらっしゃるということで、今回夢太陽さんのほうも体制のほうも拡充されたということで、そこの辺りの広報もされると聞いております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） この事業自体が足腰の弱い方々とか、そういう方々には非常に利用しやすいサービスだと思います。何とか、今の答弁聞きますと、受託事業者、手を挙げられた事業者にちょっと任せてるんだよというような思いが伝わってきたんですけども、やはりこのような支援をする町としてもそこら辺りのどうぞ御活用くださいと。要はせっかくのこの事業をやっぱり有効活用していただく。こういうサービスだったらこちらの事業者がいい、これだったらこっちのほうがいいよとか、そういうところまで丁寧な説明をしてあげないといけないんじゃないのかなと思います。

いろいろな町営バスのデマンドバスもあります。この事業もあります。いずれにしても若い方から高齢者の方々まで買物とか病院とか行くための手段として一番いい方法は

何だろうかということをご丁寧に説明していただきたいと思いますが、どうでしょうか、町長。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） この制度をつくった目的というところにやっぱり原点に戻るべきかなというふうに思っておりますので、そういった意味でできるだけ外出をしていただくという、目的がそれぞれ医療であったり、買物であったりというところはあろうかなというふうに、そういうところが中心に、今までの実績も含めてあるというふうに認識しておりますので、そういったところに生活するのに不便でならない、不便に感じないというところをやはり、小型のタクシーというか、自家用車を購入したのもそれが趣旨でありますので、様々な地域の実態、家屋実態も調査させていただきながら必要度を考えて購入したものでありますので、そういった意味も含めて利用をしていただくことを私どもとしても思っておりますということでもありますので、その辺を町もそうですし、受託の事業体も含めて同じ目線の中で進めていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） そういうようないろんな事業に N P O さんも関わっているということで、福祉有償運送事業者に対する行政の支援策ということで伺いましたら、県も町もないんだよというふうにすっぱりと言われましたけれども、繰り返しになりますけども、今申し上げましたようにいろんな事業も、福祉有償サービスの事業者さんも関わられております。そういう中において、その事業者さんは運賃はタクシーの半額という基準であり、ドライバーの不足というようなこともあります。やはりその事業の継続というのが非常に難しくなるじゃないかと想定できるわけなんですけども、そこら辺りの状況というのは、町長、御理解されてますでしょうか、再度伺います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 福祉有償運送というところと普通のタクシー会社の皆さんの営まれる内容というのはやっぱり若干違うというところがありまして、そういった意味で特に、どういんでしょうか、障がいを持たれてる方だとかの皆さんの外出支援というところになると福祉有償というところがメインになってもいいんじゃないのかなというふうには思ってます。

料金の 2 分の 1 というのは、基本的には通常のタクシーの皆さんよりも様々な車両的なことだとか、運転の資格だとか、そういったところが、軽減される言やちょっと語弊がありますけど、緩和された位置にありますので、ある程度やむを得ないというふうには思っております。

車両購入につきましては、基本的には先ほど申し上げましたように県にしても町にしてもございませんが、財団だとかそういったところでの車両提供といえましょうか、支援といえましょうか、そういったところがあるというふうに認識しておりますし、福祉会のほうで立ち上げたのも私がしましたので、そういったときも財団のほうで支援をい

ただいたというところであります。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） ちょっと表現悪かったんですけども、最初の答弁のときに県、町は支援がないんだけど、そういうような財団から支援はあるんだよということをちょっと言っていたら丁寧だったかなと思います。

いわゆるやはり車を買うとなると、その収益がなく、そういう中で経営というのは厳しくなっていくのは目に見えとりますし、そういうところでの支援というのは行政が行ってもいいんじゃないかと思っております。実際、今、町としては一つもない中、県、町ないとした中で、やはりこのような福祉有償運送の事業者支援する体制というのは全国の自治体の中で結構あります。というのが具体的に申しますと、やはり運転者講習会を受けたりしなければなりませんよね。そういうときの経費の関係とか、あるいは事務的な経費がかかりますけども、そこら辺りの一定額の支援、そういうようなところもやっているとあります。交通を利用する方というのは、いろんな立場の方がいらっしゃるんだけど、その方々をしっかりサポートするためには、この福祉有償運送というのも重要なポジションだという認識をお持ちであったら、やはり幾らかの支援をして、町内のそういうような事業者の支援と、あるいはそれに伴いまして利用する住民へのサービスの向上ということが図っていけるんじゃないかと私は思うんですけども、その辺のお考えはどうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 福祉有償運送が始まったのは、かなり前から制度的にはありますし、日南福祉会がこういった活動をするというのは、当然社会福祉法人ですので、どういんでしょうか、その法人としての目的を達成するがためという認識のほうが高かったというところがありますので、財政的、経営的なところからいくとそんなに利益が生まれるものではないという認識は持った中での取組でした。

その後、町としてもこういう外出支援事業というのは、あるいはタクシー支援事業というところが昨今の流れでありまして、それにたまたまそういう事業やってたところだというつながりが、関連性が出てきているというのが現状だろうというふうに思っております。

確かにちょっと詳細に検討しておるわけではないですけど、他の市町村というところがやってるということであるならば、ちょっとその辺も含めてですが、ただ、基本的にはこういったうちの事業を推進するというよりも、という側面と本来福祉有償運送するというところの考え方、趣旨というところの整合性をつくっていかないといけないのかなというふうには思っておりますので、今日の段階でのちょっと方向性は控えさせていただきたいというふうに思っておりますが、ちょっと全体的なところの勉強というところは進めてみたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） すみません。私が申しておりますのは、日南福祉会もそうなんだけど、もう一つのNPOの夢太陽のほうの話。先ほど福祉会というお話があったんですけども、福祉会というのはほかの事業も併せて持っておられて、もちろんメインがあって、その一部でしかないわけなんで、福祉有償の部分は、そうではなくって、もう1社のほうのそういうような事業者が今後また町内で新たに発足するということがあるわけですね。それに対してのやっぱり支援策というのは町として行うべきだと私は思うんですけど、再度どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういんでしょうか、他の公共交通というか、町内ですけど、そういう動きの中で検討もされてる地域もありますので、そういったところも含めてという話だというふうに理解しますので、そういった意味での支援はあっていいかなというふうに思っておりますので、ちょっとその辺の全体計画というか、今後の、それこそ公共交通総合計画というところも今年度中の方向性もありますので、そういったところの中で協議会の委員の皆さん方の御意見も賜りながらというところではないかなというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） もう1点ちょっと伺いたいんですけども、以前、町で車椅子でそのまま乗降できる車を所有しておりまして、そのものを町民の方に、家族の方に貸し出してあげて、家族がちょっと車椅子でないと動けない方々を病院まで連れていくというときに利用していた事業があります。たしかそのときにはNPO法人の方にも同じような形でその車を貸してあげたというような実績があったかと思うんですけども、いつの間にかその車もなくなってしまっと思うんですけども、やっぱりそういうふうに運送事業者さんに頼まなければいけない方もいらっしゃるかと思うんですけども、もう自ら自分の家族なんだけども、やっぱり普通の車では車椅子は載りませんので、そういうような車椅子の乗降つきの車を1台町で保有して、それを貸し出すような事業というのを再度考えてみられる気はありませんでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 議員御指摘いただいた内容は、ちょっと改めて、ああ、そうだったなというふうに認識に、振り返ったところでありますけれども、県境サミットの関係の中でできた事業の一つだろうというふうに再確認したところでありますので、あのちょっと需要的なところも踏まえて、どういんでしょうか、検討の余地はあるかなというふうに思ってますし、当時の利用率がどうだったかというのはちょっと私、今記憶にありませんけれども、その辺も踏まえながら一つの在り方かなとは思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） また今度これは検討もしていただきたいと思います。
続きまして、公共交通の総合計画についてであります。

今の今年度までの計画書、こういうのがあるわけなんですけれども、この計画書の最後のページに、この現在の計画期間、5年間のやるべきことが政策として明確に書かれてあって、非常に分かりやすい、最後の本当ページの表になるんですけども、あります。この中で実際にはドア・ツー・ドアの運行の充実とか、タクシー助成制度を見直すとか、全部で7項目あります。多くのこの事業、政策が実施できておるように私は思います。そういう中でおきましてですね。なかなかこういう計画立っても計画倒れになるという事業が正直多い中、珍しくと、皆さん非常に努力されてやっていたらという姿が見えるわけでありますが、こういうようなふうに私は評価いたしますけども、町長はこの現在の計画に対しての実施状況についてどのような評価をお持ちでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 5か年計画の中で、ちょうど今度は更新の時期というところではありますけれども、どういんでしょうか、基本的には、先ほどのお話ではないですが、様々な事業展開をしてるという現状下にあると、100%じゃないのはもちろんそうですけれども、それなりの動きができてるのかなという総合的な認識を持っております。ですから今回、これからですが、先ほど冒頭言いましたように、さらなる協議会の中で次期5か年の計画を進めていくという話でもありますので、様々な中心地のこれから動きも、計画も加わるという話の中でいくと、また少し見直しというところも想定されますので、そういったところもかみ合わせながら、より公共交通が充実することを願いたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） ありがとうございます。

ただ、この中で、一つだけほとんどできてないだろうなと思うのがあります。地域住民による交通確保促進の推進という項目であります。いわゆるこの中には地域、先ほどありましたNPOさんの事業者さんのような、住民による移動の確保という言葉になってますけども、その推進というのができてないんじゃないかなと思います。

このことにつきましては、令和4年度の日南町地域公共交通事業調査、この中でもうたわれておるわけなんですけれども、この調査があったのは令和4年度で、5年の3月にはこの調査報告書出てはおりまして、そういう中においてこの最後のできなかった地域住民による交通確保の推進、これにつきましては5年度中、6年度中動きがあったものかどうか、それについて伺います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 全てではないというふうにはもちろん思っておりますけど、特定の地域の中でそれを検討したいというようなお話があって、条件的な話を協議させていただいてる場というのはあるというふうに思ってます。以前からそういうところがあればよりいいよねというようなイメージでこちらのほうは思っておりますけど、なかなかやっぱり様々な課題もあるということを思っておりますので、地域の皆さんとこれから

も連携を深めていきたいというふうには思っております。

あわせて、余談にはなるのかもしれませんが、今ライドシェアというような取組の動きというのが全国的に、あるいは県内においても動きがあるというふうに思っておりますので、そういったところもこれから、多分今の条件ではなかなか難しい側面もあるというふうに思っておりますが、将来的にはそういったところも視野に入れながら公共交通というものの充実を図っていければというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 次期計画に向けていろいろと、公共交通確保対策協議会ですか、こういうようなところに諮りながら検討していくと、計画を練っていくということですが、この計画を練るに当たって、立てるに当たって、この対策協議会ですね、協議会のメンバーというのが要綱の中で定められております。実は公共交通のこの計画の中でやはり、どういうんでしょうかね、公共交通という位置づけの中において福祉有償サービス、要は福祉の分野というのはいかなる、いろんなもう資料とか見るんですけども、もちろん町の予算もそうなんだけれども、別な枠組みの中で動いてるような位置づけになっておると思います。なってるんですよ、どうもね。

この協議会のメンバーの中に、実は自家用車の有償サービスの事業者というのがメンバーに入っていない。いわゆる交通空白地もそうですけれども、過疎地有償の事業者というのがこの構成メンバーに入っていないんですよ。確かに町長が指名する者も含めることができるというような表現にはなっておるんだけど、今度の公共交通の計画立てるに当たって福祉有償の部分も含めていって、全体としての本当の町の交通、公共交通という言葉自体が誰でも乗れるんですという位置づけの中での公共交通なもので、特定の人を限定した人というのをうたっていないんかもしれませんが、そういうところまで含んで本当の計画を立てるようであれば、ぜひここにメンバーとして自家用車有償運送の事業者さんも含めるべきだと私は思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的なたてりとするれば、今まではそれこそ道路交通運送法的なところが基軸にしながら、あるいは利用者である町民が加わったりというのが構成の今までの在り方だというふうに認識しております。

福祉有償運送につきましては、基本的には西部圏域の中で事業申請をして、そこで承認を得てというところが流れがありますので、若干やっぱり本来の自家用運送だとかいろんな、バスの関係も含めてですが、運輸省が管轄する、あるいは申請許可するというようなところの流れと若干、どういいますか、二通りがあるというふうに、制度上の話ですけども、そういう流れがあるというふうに思ってますので、確かに町内で申し上げると、今までが福祉の部分が度外視されてるというか、そういう感覚はもちろんないというふうに思ってますし、住民の代表の方も加わってるというふうに思っております。

ただ、現状として町内の事業の在り方として、こういったタクシー助成、外出支援というところの取組もやってるわけですので、御指摘の内容というのも含ってるのかなというふうに思ってます。

ですから、現行の協議会としての役員構成というところでもありますので、その辺はちょっと、どういんでしょうか、規則自体の中で定員がどうなのかとか、いろんな側面がありますので、その辺をちょっと整理させていただきながら、可能であればそのような方向で加わっていただくことはあるというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 計画を立てるに当たっては、協議会のほう設置して、そこで進められていくんですけども、実はもう一つ似たような名前のもんがあるんですよね。日南町有償運送運営協議会設置要綱という中で、やはりこの中で、いわゆる交通空白地帯かね、これまでは過疎地運送という表現もしてたんですけど、要綱のほうは直ってないんだけど、過疎地または福祉の有償運送を行ってる特定NPOの関係の事業者等の協議する場のようなんですけども、この辺りも実は日南町の中にその協議会が設置してあるわけなんで、こういうところも含めながらしっかりと日南町の交通計画のほうを練っていただきたいなと思います。

この会自体が原則公開とするという表現が書いてあります。ここでいう公開というのは、傍聴を許すというレベルのものなのか、あるいは会で発言のあった内容、特定の個人的なものは削除しても、その議事録的なものも公開するのか、どちらなのでしょう。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 何回か私もその協議会に参加した、従前ですけども、ありますが、ちょっと具体的な内容につきましては、また担当のほうから回答をさせます。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 有償運送運営協議会、これにつきましては先ほど言われました夢太陽とかの、例えばそういった福祉有償運送の事業者が参画したいという場合にはそこにお諮りしたりしとります。その内容につきましては、金額を幾らにするとか、どこまでの範囲をすとかいうところのそういったもしデリケートな話になれば、いわゆるシャットアウトといいますか、閉鎖してするかもしれませんが、基本的には公開するということにしとりますので、公開での開催にしたいという、しなきゃいけないというふうには思っています。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） いわゆる民間の事業者への経営圧迫という一面もあるわけなんですよ。公共料金を定める中においてですね。そういうところで非常にシビアな会なのかもしれませんけれども、やはり本来はもう民間で全てが完結するのであれば何ら問題がない。しかし、そうになってないからこそ、公共交通とか、福祉有償とか、そういうような事業が次々と出てきとる状況であります。やはりその部分について、しっ

かりと情報公開できれば議事録あたりも、議事録なくてもいいけど、こういうような内容で協議して、こういう結果になりましたというようなものも公表していただきたいなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 浅田地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（浅田 雅史君） 例年、日南町の公共交通確保対策協議会とその有償運送の協議会は、同日にこれまでもしとります。ですので、内容については、また適宜公表したいなというふうには思っています。

○議長（山本 芳昭君） 6番、岩崎昭男議員。

○議員（6番 岩崎 昭男君） いろいろと申し上げましたけれども、本当にしっかりとした公共交通の総合計画練っていただきたいと思います。

最後になります。サウンディング調査についてということで伺ってきたいと思います。このたびはこのような形、遊休地、遊休施設の有効活用に必要なルールがこのたびできたのかなと、私は非常に評価をします。これまではなかなかこの遊休地を活用する手段、仕組みというのがない中で、ぽんぽんと単発的な話が出てきたというのが現状でありますけども、こうやって行政自らがこういうところがあるんで、いかがでしょうかという売り込みをしながら、それに対して民間の事業者さんが手を挙げていただくという非常に公平なかつ透明な事業の進め方ではないかと私は評価いたします。

ということで、今回サウンディング調査を実施するに当たり、この調査業務を委託されております。委託業者の、予算的には310万程度の委託料でありますけれども、今回のサウンディング調査を行う中において、この事業者さんはどういう事業者さんなのか、実績がある事業者さんなのか、どういう内容でその業務を委託しておるのか、業務内容について伺います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょっとその辺の、事務的なところですので、担当のほうから、課長のほうから説明をさせます。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） お尋ねのございました委託業務内容でございます。若干お時間頂戴しまして御説明申し上げますと、本事業の委託を受けた業者につきましては、既に先進的にと申し上げますか、鳥取県内でも、具体名申し上げますと琴浦町さんであるとかいうところで実績があった会社でございました。そういった情報を参考に、本町でも本年度初めて実施したところでございます。

改めまして、本サウンディング調査の目的でございます。目的は、もう重複するところは多分でございますが、公共施設の遊休財産の利活用を推進するに資するところでございます。先ほど公平公正とおっしゃっていただきましたが、まさに施設につきましては行政がこの施設を活用いかがでしょうかということを投げかけまして、それに対して、このたびは6事業者でございましたが、応募いただく。そして地元の皆様にも御都合し

ていただき、参画いただいたような流れでございました。

業務委託の内容でございますけども、本サウンディング調査に係ります企画から実施、そして今後になりますが、この取りまとめ、民間が提案した内容の制度設計を支援する、そして成果品として町に納めていただくというような、大ざっぱでございますが、内容としてございます。以上です。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 分かりました。期待をしとるところです。

今回ホームページのほうでPRして、各企業さん、どうぞ、こういう物件があるんで、提案いただけませんかということで、答弁のとりの応募があったという状況ですけども、そのPRというのはホームページだけでしたんでしょうか。例えばいろいろと町の関係して、いろんな町と今企業、銀行などと連携事業的なものを協力をし合いながらやったりするわけですけども、そういうような人脈を使つてのPRというのは行ってない。ホームページだけで行われたのかどうか、それについて伺います。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） 町のホームページはもとより、委託先である事業者を通じまして様々なところへ声かけはしていただきました。そういったつてを使いながら行いました。

ただ、町から指定金さんはじめ市銀さんあたりに個別はこういったことをやりますというPRは行いましたが、大々的にお願いまではしてないところでございます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 恐らく銀行さんとかいうのは、いろんな人脈もありの、情報もお持ちなんで、そういうところも声をかけていただけて、具体的な企業からの提案というのを設けてもよかったんじゃないかなと思います。特にもういろんなところでふるさと納税とかお世話になりつつ、やはり企業さんのほうの情報とかいうのはよく御存じだと思うんですね。ぜひそういうようなところでもうちょっと幅を持たせていただきたいなと思います。

今回対象物件が全て石見地域の物件であります。今後は他の地域、要はどういうふう

に物件を公開して募集するのか、そのやり方について伺います。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） このたびのツアーは、1 日の内容で行いました。午前中に 5 施設を回り、午後から意見交換なり提案をいただいたという日程で行いました。企業の皆様や地元の皆様の御負担なりを考えますと、やはり 1 日というのが行程としては適当かなというふうに感じた次第でございます。

石見地域に限定をしましたので比較的距離もほどよく回れたわけでございますが、今後、全町範囲にするのか、それとも例えば北部、あるいは多里とか、日野上という形においては、若干遊休不動産、利活用いただきたい不動産等については町でピックアップ

する中で、その行程で、その辺りを業者とまた検討しながら決めてまいりたいと思いますが、いずれにしても来年度予算編成あたりで詰めていくことになるかと思いますが、また議員の皆様のご意見も頂戴できればと考えてございます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） どうも今の表現では7年度以降も続けていくというような雰囲気、いや、予算要求の中ですね、そういうふうな話で、いや、それは当たり前、そうだと私も思います。

今回手挙げのなかった施設がありますけれども、この施設というのはもうこれで打ちりなのか、あるいはもう情報も出てますんで、公開もされてますんで、ああ、この施設だったらうちやってみたいよなという業者さんもいらっしゃるかも、企業はあるかもしれません。この辺の扱いというのはどうなるのかということ教えてください。

○議長（山本 芳昭君） 實延総務課長。

○総務課長（實延 太郎君） 具体名を申し上げますと、旧石見西小学校グラウンド、それから上石見駅の待合室、また旧花口分校が手挙げがなかったわけでございます。

旧石見西小学校グラウンド及び体育館につきましては、現在緊急の際に避難場所として指定というか、活用してございます。また、上石見の待合室も使用してございます。この2か所につきましては、当面現状維持を考えてございます。また何かしらいの御提案でも頂戴すれば、個別に検討もしてまいりたいと考えてます。

また、旧花口分校につきましては、来年度以降解体撤去も視野に検討を進めてまいりたいと考えてございます。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） この物件なんですけども、ちょっといろいろと調べたら、5年度の行革の実施計画の中の個別推進項目管理表というのがありまして、その中に旧木下家をサウンディング調査の対象とすることというような表現があったりもしました。ぜひこの辺が、今の地元との活用というのは優先すべきことなんですけれども、ここら辺りもやっぱり本当に調査するんであれば旧木下家というのも、ましてやいろいろと、どうでしょうか、活用方法についてコンペ的なこともやったりして幅広く情報、提案もいただいた。もうそれっきりで、金かけて、何もそこはできとらんというのがありますんで、ぜひこういうようなところも活用、このサウンディング調査ということで進めていただけたらなと思います。そういう物件もあるということをお知らせしたいと思います。

もう1点、今回バイオマス発電の事業者さんが2社手を挙げられたというようなことなんですけども、それ以前に町では例の第2木材団地でバイオマス発電の企業立地があるんじゃないかというところまでいいところまで行ったんだけど、最終的には白紙になってしまったという経過がある。例えば今回手挙げをされた2社、バイオマス発電ですね、あの第2団地の提案というのを受けてもいいんじゃないかと私は思うんですけれ

ども、どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今回の場合は地域指定というところの動きの中で手挙げをいただいたというところでありますので、まずはそちらのほうというところを基軸に検討してもらうのではないのかなというふうに思っております。多分これから再生エネルギーのほうの申請といいましょうか、その段階でやっぱり地域の同意的なところというのがバイオマスにおいても必要になってくるというふうに思っておりますので、そういった意味で現行の中ではその事業体の規模というところはもちろんありますので、そういったところかみ合わせながら、主体的には今回の、どういいましょうか、マッチングツアーの内容というところで一切りは整理をしていかないといけないというふうには思っております。

将来的な在り方については、そういった場所もありますということはそのとおりだというふうに思っておりますので、その辺の情報を年次的に出してきたらいいのか、一括でするのか、ピックアップするののかというのをいろんな方法論はあろうかなというふうに思っておりますが、今回初めてこういったサウンディングという調査の在り方をしましたので、その辺の知見を継続的な流れとしていきたいというふうには思っております。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 私も気になるところはそこなんです。いろんな場所、施設がある。1 回目の募集では、このエリアだったと。手挙げをした。ところが、翌年度もっといい場所があった。公募があった。まだ事業は途中であって、のっかってるわけじゃないんだけど、いや、こっちのほう絶対いいよねという話が必ず出てくと思うんですよ。だからある程度、そこら辺のどういうふうに扱っていくかというのは一概には言えないとは思いますが、そこら辺のやっぱり企業側に立った考え方というのもこのサウンディング調査のやり方も考えないといけないんじゃないかなと思います。ですから、本当に恐らくこのバイオマス発電の話で、立地場所は違っても今の 2 社が来年度第 2 団地ができたなら、いや、絶対こっちがええよとなりゃせんかと気になるところであります。そういうようなことも配慮して今後サウンディング調査のほうを進めていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 様々な捉え方があるというふうに思っておりますが、基本的には町の財産というところを民間活用していただくというのが、その在り方の一つとしてこういうサウンディングがあります。確かに言われるようなケースというのは当然生まれてくる、大なり小なり似たようなことも出てくるというふうに思っておりますが、やっぱり主体的には、町としてのこの取組というところを主体的に考えていただきたい。あるいは例えば事業協議の中で本当はもうちょっと倍ぐらいの施設にしたいみたいなことがあるなら、例えばの話ですけど、決定ではないけどという話は、情報の共有という

か、交換はできるのかなというふうに思っておりますので、ですから事業提案の中でその辺のほうは御提案をいただければというふうには考えとります。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） こういうような形で公募の中で手挙げをしてこられる企業、やはり町内で成功していただきたいという思いがございますので、ぜひ、そのような若干の融通的なやり方というのはあるかもしれませんが、そういうのも使いながら進めていただきたいと思います。

最後に、やはり利活用するためのそういった決定するためのプロセスの中で、途中まで意見を募集し、それから、そうですね、地域の方々から意見を募集して、この事業どうですか、そのものを今度提案のあった事業者意見にフィードバックして、もうちょっと詳しい企画書を作っていただくというようなお話をされたんですが、その後、実際に評価の基準ですね、それは地域でそういうような、地域、あるいはほかの方々もそうかもしれませんが、意見が出てきます。提案者がまたフィードバックして、新たなものが出てくる。それを評価するための基準というのは、やっぱり町が持たないといけないと思うんですね。それは例えば事業収支の安定性であったりとか、雇用の話とかあるかもしれません。そういうようなものはやっぱり何をもって選定するのか、じゃあ、それを誰が選定の委員になるのか、そういうようなところというのは決まったことがありますでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 最終的には、町有地というか、町の建物というか、土地でもありますしということですので、地元の御意見はいただきながら、おっしゃられるように継続性だとか、安定性だとか、そういったところも含めて、冒頭申し上げましたように地域振興だとか、そういった活用方策的な内容も含めてですが、町としての条件というところの審査はもちろんしていかないといけないというふうには、最終的にはその段階にはなるというふうに思っております。現時点でその内容あるいは構成メンバーを決めてるわけではありませんけれども、今後の中で整理をしていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 最後に、これ押さえておきたいんですけども、進出してこられる事業者さん、町として土地の提供、あるいは建物提供ということだけではなくて、やはり産業としての国、県、町、いろんな支援策ございます。ちょこっと言われましたけど、制度設計というもの、支援の制度設計、そういうようなものが必要だと思います。やっぱりそれは進出してこられる事業者によって、その分野によってまた支援策も変わるとは思うんですけども、そういうところまでしっかりと加えた形での企画提案というものになっていくわけでしょうか、ちょっとそれについて伺います。これ最後の質問にしたいんですけども。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には民間事業者の提案の中身というところのやっぱり、どういんでしょうか、必ず入れてほしいというところはこちらからも注文していかないといけないというふうに思ってます。それプラス独自性の提案というのは当然あっていいというふうに思っておりますので、町としてもやっぱりしっかりした事業体に長く継続した形の事業をしていただきたいという思いがありますので、それとやっぱり地域の皆さんとの連携といいましょうか、そういったところも加味しながら最終的の有無と言やおかしいですが、契約というところにはつなげていければというふうに思っておるところであります。いろんな他の自治体もこういった調査をしながら動きがあります。先ほどの琴浦とかと話もありましたけど、そういったところの情報も仕入れながら、より堅実な審査ということも含めてやっていきたいというふうに思います。

○議長（山本 芳昭君） 6 番、岩崎昭男議員。

○議員（6 番 岩崎 昭男君） 3つの大きな項目に対して質問いたしました。御答弁のほうありがとうございます。

以上をもちまして私の一般質問終わります。

○議長（山本 芳昭君） 以上で岩崎昭男議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） ここで暫時休憩といたします。再開を3時40分からといたします。

午後3時29分休憩

午後3時40分再開

○議長（山本 芳昭君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

ここで高橋洋志議員から発言を求められていますので、これを許します。

高橋洋志議員。

○議員（2 番 高橋 洋志君） 先ほどの私の一般質問の中で移動販売についての項目で業者のたったもカードチャージ金額についての確認をさせていただきましたが、全て仮受金というふうに認識しております。おわびして訂正させていただきたいと思ひます。すみません。

○議長（山本 芳昭君） 資金繰りに使えるという発言を訂正されるということでございます。

○議長（山本 芳昭君） そうしますと、一般質問を続けます。

9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 9月議会に当たり、一般質問をさせていただきます。

このたびは3点について質問させていただきますが、まず最初に、消滅可能性のある

自治体公表についてであります。

1 番目に、人口戦略会議が4月24日のシンポジウムにおいて、日南町を含む744市町村を消滅可能性のある自治体として一覧を公表されました。日南町の当事者としての見解を町長より伺いたいと思います。

次に、この消滅可能自治体の根拠を若い女性の減少率を用いたものであり、持続可能性を分析されたものでありますが、その対策の必要性和その内容について町長のお考えをお伺いします。

2 番目に、地域づくりの推進についてであります。

中心地域整備検討委員会が発足し、町長から計画の策定を諮問されましたが、現時点では新日南病院に関する協議が先行しております。今後検討されるコンパクトビレッジ全体構想に町長が期待される内容をお伺いいたします。

次に、中心地域整備検討委員会発足に当たり開催されました明治大学、小田切教授が推奨されているにぎやかな過疎について町長の感想をお伺いいたします。

3 番目に、農業・農村振興についてであります。

天井知らずの資材、農薬、肥料の高騰。耕作委託希望者の増加による畦畔、水路管理。イノシシ被害対策等々、収入を伴わない負担は増える一方であります。農業及び農村の窮状打破のため単町での支援策の検討及び食料・農業・農村基本法を根拠にした国、県への要望活動を強化する必要があると考えますが、見解をお伺いします。

2 番目として、日南米のブランド力アップの取組が急務と考えますが、町長の見解を伺います。

最後に、生産地域、日南町であります。と消費地域の交流事業の推進を図る必要があると考えますが、町長の見解をお伺いします。よろしく願います。

○議長（山本 芳昭君） 執行部の答弁を求めます。

中村町長。

○町長（中村 英明君） 近藤仁志議員の御質問にお答えします。

最初に、消滅の可能性のある自治体公表について、人口戦略会議が4月24日のシンポジウムにおいて、日南町を含む744市町村を消滅可能性のある自治体として一覧を公表したが、当事者としての見解を伺うという御質問であります。

2050年に20代から30歳代の女性人口が半減をする自治体を消滅可能性自治体として定義し、本町もそれに該当すると公表されましたが、町民一丸となって持続可能なまちづくりに立ち向かう中、消滅可能性自治体というレッテルを貼られることには私自身怒りを感じておりますし、この町のことはそこに暮らす町民が決めるものだという地方自治の本旨からは町民が選択しない限り消滅はないというふうに思っております。一方で、データと問題提起が示されたとき、それに対してどういうふうにしていくか自分たちなりに考えることが大切であるというふうに思っております。現実をしっかり受け止めつつ将来に向けてどうしていけばいいか、しっかりとデータに基づいた形で地域づく

りを進めてまいりたいというふうに思っております。

次に、若い女性の減少率を根拠に持続可能性を分析されたものだが、対策の必要性和その内容について町長の考えを伺うという御質問でございます。

本町では、公表を受け、まち未来創造課に数値分析を指示し、その分析結果を課長の連絡会議のほうで共有をしました。今回の公表では、2020年から2050年までの30年間で若年の女性の人口、いわゆる20歳、30歳代の女性ですが、50%以下となる自治体を、先ほど申し上げましたが、消滅可能性自治体として、本町の場合であります。2020年の若年女性人口が193人です。2050年には60人ということで、68.9%が減少するということの推計をされております。本町が2050年に消滅可能性都市から脱却するためには、若年女性人口が100人以上、推定値であります。60人からさらに40人増やす必要があります、自然の減対策と社会減対策の両方に取り組む必要があります。

自然減対策につきましては、本年度から実施しとります日南町の子育て応援パッケージによる出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を行うことにより安心して日南町で子育てしていただける環境整備を整えてまいります。

また、社会減対策につきましては、若者のUターン対策や定住対策に力を入れることとしており、県外で生活されている本町出身の若者世代をターゲットに雇用情報や子育て支援策、町のイベントや明るい話題など本町の魅力的な情報を発信するための公式LINEを本年度開設しました。また、異業種の若い世代が交流を深め、地域を盛り上げる活動を行う青年団的な緩やかな組織づくりを現在進めているところであります。さらに女性にとって魅力的な働く場づくりに向けて今後、商工会などとも意見交換を行っていきたいと考えておりますし、若者の住まい環境づくりについても中心地域整備計画などとも連動しながら検討していきたいというふうに考えとります。

続きまして、地域づくりの推進についてということで、今後検討されるコンパクトビレッジ全体構想に期待される内容を伺うという御質問でございます。

コンパクトビレッジ全体構想につきましては、6月に地域ワークショップを行いまして、町民の皆さんが描く未来の中心地域の在り方について意見を出していただきました。いただいた意見の内容は、中心地域4つのエリアそれぞれの特徴を捉えていただいております、事業ごとにまとめ、整理をしているところであります。整理の方法ですが、ハード事業でありますとかソフト事業、それぞれ優先順位をつけまして、事業費、財源などを整理しております。整理した内容とメタバース空間で描いた町の姿を基に10月の第3回中心地整備検討委員会で議論をするとともに、町民の皆さんにも披露し、御意見をいただくこと等の予定をしております。

御質問のコンパクトビレッジ全体構想への期待もありますが、本町のコンパクトビレッジは、これまでの住むのは地域、生活機能は中心地域という基本的な考え方の下、今回病院の建て替えを契機にさらに各集落を支える中心地域として機能を高めたいと考え

とります。そして町民の皆さんに生山、霞を中心としたエリア内に自然と出向いていただくことができ、求めるべき生活に必要なサービスを受けていただくことのできる、そして時間を忘れて過ごしてもらえる場所、町民の皆さんにとって誇れるまちづくりの場所を示した構想となることを期待しております。

具体的には、生山、霞エリアの中には地域と中心地域と結び公共交通を充実させ、病院の受診あるいは通勤、買物をしても困らない交通網の確立をさせていただきたいと考えております。

医療につきましては、現在日南病院の建設だけが議論の中心となっておりますが、日南町民にとって必要な医療サービスは何なのかを町民の皆さんからお聞きし、医療体制の再編を図っていきたいと考えております。

そのほかにも買物環境の確保、あるいは小さなお子さんから高齢者までが集える公園などのコミュニティーの場づくり、歩いて楽しいまちづくりなどそれぞれの視点からのコンパクトビレッジ構想になることを考えております。

次に、にぎやかな過疎についての感想を伺うという御質問でございます。

明治大学の小田切教授が推奨されていますにぎやかな過疎は、日南町がこれから生き残りをかけて挑戦していくモデルであり、住民に移住者の若者や女性、NPOや学生など多様な人たちが加わり、わいわいがやがやのごちゃ混ぜの町をつくっていくことは人口減社会を豊かに生きるためのまちづくりに重要であると考えております。

また、公園の中にあった新たな動きの一つとして、田園回帰という言葉がございました。その田園回帰の流れの一つが若者による仕事をつくる動きも人材を増やしていくことだというふうに考えております。

よく日南町には働く場所がない、企業誘致をという声を聞く場面があります。確かに企業誘致し、日南町で働く場所を確保することも大事な施策でありますけれども、起業化、継業化、異業化、他業化といった、こういった新しい動きに敏感になり、政策として取り組んでいくことが日南町の未来を築いていく上で重要だというふうに思っております。

なお、本年4月の小田切教授の講演には多くの町民の皆さんに御参加いただき、大変意義があり、一人一人が考えるよいきっかけになったものというふうに感じております。

現在、2回目の開催に向けて調整を行っているところでありますので、決まり次第お知らせをし、多くの皆さんに御参加いただき、一緒に考えていきたいというふうに思っております。

続きまして、3つ目の、3点目、農業・農村振興についてでございます。

最初に、窮状打破のため単町での支援策の検討及び食料・農業・農村基本法を根拠にした国、県への要望活動を強化する必要があると考えるが、見解を伺うという御質問でございます。

まず窮状打破のための単町の支援策についてでございますが、小手先の補助程度で窮

状打破は困難であるというふうに考えます。改正された基本法の枠組みの中ではありますが、構築していくべきものと考えとります。

具体的な取組としましては、現在、令和7年度の概算要求がされているところであります。また、先日、JAから令和6年産の米の概算金が発表され、日野郡産コシヒカリは8,900円、プラスの2,400円であります。ヒメノモチが9,000円、プラスの2,000円であります。こうした大幅なアップとなりました。これは過去20年のうちでも最高の価格であり、近年の急激な肥料高騰などにより生産現場は逼迫しているため、1円でも高くと価格交渉された結果だと感謝いたします。

ただ、この金額に満足することなく、適正価格の実現に向けて、生産者は品質の確保、向上を、JAは資材、流通等のコスト低減を、消費者のほうは国産農産物の必要性、重要性を理解していただくことが重要と考えます。大きな変革の時期であり、国、県の動向をしっかりと捉えながらと考えますので、現段階では単町の支援の具体案は考えてないところであります。

また、国、県への要望についての見解でございますが、本町の農地を守り、町民が水田農業を今後も続けていくには資材高騰分の価格転嫁はもとより、畦畔の管理でありますとか、鳥獣被害対策等にかかる費用も含めた適正価格で米を買っていただく必要性があることは言うまでもありません。

今回の同法の改正において、食料安全保障を基本理念に中心づけ、第23条、食料の持続的な供給に要する費用の考慮という形でそのことが明記されました。つきましては、合理的な費用を考慮した価格イコール適正価格での買取りを早期に実現するため、県と連携し、国に具体的な施策を迅速に展開してもらえるよう要望していきたいというふうに思っております。

次に、日南米ブランド力アップの取組というテーマでございます。

米の消費減少、低価格など米農家を取り巻く環境は厳しい中、安定的な稲作経営、そして本町の農地、農業を守り、維持していくためには日南米のブランドを強化していくことは重要であるというふうに認識しております。

また、安定供給からも個々の農家ではなく、各農家が協力して地域一体で取り組んでいくことも大事であるというふうに考えとります。

町とすれば関係者の方が集まって、ブランドに向けた共通理解、機運醸成を図るとともに、例えばであります、町単独の認証制度の導入など、一定のルールづくりについて話し合う場を設定していきたいというふうに考えとります。

なお、話合いにありましては、奥出雲町の仁多米や新庄村のヒメノモチのような成功例だけではなく、失敗した事例なども含めて関係者の皆さんと一緒に勉強しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

次に、生産地域と消費地域の交流事業の推進ができないかという御質問であります。

消費者に来ていただき、本町の美しい田園風景の中で農業体験を通じて農家さんと交

流し、おいしい米や野菜を食べていただくことによって日南町のファンを増やし、お米や野菜等の購入につなげていくような活動は大変重要であると認識しております。このような活動は、個別の生産者や地域が自主的に行っておりますし、町のほうでも農泊事業でありますとか、とっとり共生の里事業の中で消費者や消費地域と交流を行ってきました。平成29年度からは令和元年度までの国による事業を活用しまして、観光協会が取り組んだ農泊事業ではありますが、国内外から1,035人が体験ツアーに参加していただいております。また、近年のとっとり共生の里事業におきましては、多里地域と米子市の啓成地区、宮田集落と損保ジャパンの交流を行いまして、農業体験活動を行っております。

国が今後進めていく適正価格、これを実現するためには何よりも消費者の理解が必要と考えます。そのためには消費者の皆さん自らが農業を体験することはもちろん、交流の中で農家の皆さんの苦労やこだわりなどを知ることによって適正価格の理解につながるものと考えております。近くの都市部の皆さんが町内で実作、あるいは体験、そういった仕組みづくりを生産者や地域観光事業者などで小さなスタートで切れるように町も一緒になって推進してまいります。安全でおいしい食料生産への思いは、皆同じであります。消費者の行動が世の中を変える原動力となり、これからの農業の確立と農業安全保障につながるというふうに考えます。

以上、近藤仁志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（山本 芳昭君） 再質問がありますか。

9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） まず最初に、この消滅可能性のある自治体の公表についてであります。

町長は、この発表後、朝礼で、今後30年後に100人の女性を確保する必要があるので、40人クリアしましょうということを訓示されたようにお伺いします。

前回、6月議会において同僚議員が同じことを質問されたわけですが、若い女性の人口防止に対してこれまでの施策を検証し、町民の声を反映した効果的な施策に取り組んでいきたいとおっしゃっておられました。

この分析といいますかな、数値を分析することを指示するとありましたが、その作業はもう既に始まっておられるのか、どういったことを特に狙いとして考えておられるのか、お伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 具体的な項目で申し上げますと、鳥取県外から日南町のほうに移住した方の推移だとか、それが令和元年から5年度までの数値分析をしていただいておりますし、内容もそれぞれの考え方に基づいた年齢別だとか、地域だとか、Iターンの、Uターンの別だとか、そういったところで分析をしておるところでありますし、また今回の発表で前回の消滅可能性自治体からそうでなくなった自治体というところも幾つかあ

ります。そういったところの事例といいたいまいしょうか、取組といいたいまいしょうか、そういったところも分析をしていただきましたということでもあります。ですから、今回の御案内のように、若い女性人口というところを基軸にした発表でありますので、具体的にはやっぱり若者、子育て支援、あるいは教育だとか、そういったところを含めてを中心としたような取組というのが、どういたいまいしょうか、大きな主体的なところかなというふうに思っております。それぞれの地域で、どういたいまいしょうか、特徴的なところはもちろんありますけど、大方の内容というか、大まかな分析結果からするとそういった取組をされてる自治体というところのほうの方がウエートは高かったかなというふうに思っております。

ですから、それを受けて本町としても、今回当初予算にも上げさせていただきとりますけれども、そういったこと取組だとか、どういたいまいしょうか、教育も含めてですが、さらなるこれを進めていきたいというふうに思ってますし、PRも含めてですが、情報発信のほうもしていきながらということと、あわせて、住んでる皆さん方のこれからの若い人たちの考え方というところの相談というか、協議といいたいまいしょうか、意見交換もさせていただきながら内容をさらに変化させていただくといいたいかなというふうな考え方を持っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 前回の答弁の中で今までの施策の検証をするということで、この若い女性をターゲットというかな、対象にした施策の検証というのはされたのか、今それを進めているのかという点をお伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） もともとですが、この地方創生が始まって、いろんな捉え方があるというふうに思っておりますが、国内の人の奪い合いと言やちょっと言葉が悪いですけど、そんなことにならないというか、実態的にはそうなってるのかもしれませんが、ただ、それ以外にやはり中心となるというの、30歳前後の皆さんの若い女性というところは冒頭から、制度の地方創生がスタートしたところから言われてきたというのは私自身も承知してるところでありますので、そういったところも含めながら今までもやってきたというところがありますし、また今回加速をさせた、新年度予算の中で、令和6年度予算の中でそういったところを具体化あるいは拡大化してきたというふうに思っておりますので、決して今までの取組が全然いけなかったかと言や、ということではないというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 先般、9月の1日の山陰中央の新聞のほうに地方創生の成果についてのアンケートが載っておりました。この消滅可能のある自治体というのと地方創生というのは、大変直結している部分が多く感じました。

この9月1日の新聞報道に対して、日南町のほうも回答されたのか、されていないの

か。もしされたとしたら、この中にあります地方創生取組は人口減少対策に効果があったかどうか、その点をどのように回答されたのか、ちょっとお伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今回の新聞の基軸になってるのは、共同通信社の全国自治体トップアンケートというのがありまして、その7月に照会が来ておりまして、私のほうで回答をさせていただきました。

地方創生というところのテーマが前段にあってというところや、それぞれの設問がありましたけれども、基本的には、どういんでしょうか、各自治体も、それぞれの立場ではあるけれども、試行錯誤しながら頑張ってきてるというふうに思っています。

ただ、一方では、やはり、どういんでしょうか、それだけではなくて、各自治体も限界がありますので、例えば国全体で執り行うような取組もあればより効果的ではないのかなというふうな思いで私自身は回答をさせていただいたということであります。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） この中で自分あれしたのは、この地方創生の国の取り組み方が人口減少に効果があったのか、なかったのか、どの程度効果があったと町長が考えておられるのかお伺いしたいわけですが、この人口減少の大きな要因として若い女性の地方からの流出が大きな要素を占めているというのがありました。全くそのとおりだと自分も思っておりまして、そういった意味においてなかなかこの国の地方創生の取組というのがどこか足りない点、そういった点をこの日南町が存続していくために国に向けて訴えるための一つの、何かな、項目として取り上げて検討していく必要があるんじゃないかと思うわけなんですけど、その点はどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 各自治体のいろんな御意見があるというふうに思っていますが、私自身からいくと、国の制度という観点で申し上げると、やはりもう少し企業の皆さんが地方に行ける仕組みというのがあるべきだというふうに思っております。大学等の話も出てきておりますけれども、それが分散なればよりいいのかもしれませんが、優先的にはそういう考え方を持っております。

あわせて、今回こども家庭庁とか新しい取組がスタートしておりますけれども、やはりそういったことはもう少し早い段階であるとよりよかったかなというふうに思っておりますが、現在スタートしておりますので、そういったところがなお充実していくことが望ましい姿かなというふうに思っておりますので、そういった取組も含めて各自治体がさらなる試行錯誤していくということが大事かなというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） この若い女性の減少率を根拠に消滅可能の自治体ということ来判断することは、ある程度自分としても理解できるわけではありますが、女性の流出、男女の流出比率もやはり女性のほうが高いという統計上の結果が出ております。

そういった意味で、女性の流出防止、また若い女性のＵターンの促進のために何が必要なのか、今、日南町には何が足りないのかという考えは、どのように町長はお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） ちょこちょこ若い、それこそ二十歳前後の皆さんに、例えばこの間の８月の１５日の二十歳を祝う会がありましたけれども、その中の皆さんというわけではありませんけど、個別にそんな話をするときがありまして、全てがそういう考え方というわけではないにしても、一度は出てみたいという考え方と言われる方もおられて、それも分からんことはないけれども、ただ、最終的にはおっしゃられるようにやっぱりこういう地域のよさというのを理解してもらうならそういうのもありかなとは思っています。

ただ、最終的にやはりＵターンといいましょうか、そういったところにつなげればよりいいのかなというふうに思っていますので、今回そのためにはやっぱりいろんな情報提供というか、知ってもらうということも大事ですので、今回、今年度から始めとります公式LINEあたりも登録していただくように今頑張って、募集という方も含めてですが、そういったところを登録していただきながら町の政策でありますとか、動いてる姿というところに共感をいただければいいかなというふうには思っていますので、そういった特に情報といいましょうかね、そういうところがこれからより大事になってくるというふうに認識しております。

○議長（山本 芳昭君） ９番、近藤仁志議員。

○議員（９番 近藤 仁志君） 日南町は、結構子育て支援というのは日々検討しながら、年々改善されたりして充実してきていると私も思っております。

ただ、未婚の女性に対する施策というのがまずほとんどないではないかというような感じがします。要するに未婚の女性の声が届いていないのか、なかなかそれがこの町としての政策に反映されていないのではないかと思います。先ほどおっしゃられましたけど、やはり女性がなぜ日南町に残らないか、Ｕターンしないかというので一番大きな要因とすれば、やはり多様な就業機会が足りないということ。それが魅力でもあるわけですが、そういった意味で大変厄介で、厄介なんだけど、最優先項目ではないかと思うわけなんで、その女性の雇用機会というものを、雇用場所もありますし、機会もでありますね、そういったのをやはり若い女性、要するにＵターンを促すための若い女性に発信する準備というものがどうしても必要になってくる。そのためにはやはり企業誘致というののかつて力を入れて町ぐるみで取り組んでいたわけですけど、なかなか成功しなかったわけなんですけど、もう一度、製造業が海外から回帰するというような流れもある中において、ＩＴでもいいわけですが、何らかのそういった形での企業誘致というのをトップセールスとしてやっていく必要は大変重要だと思いますが、その点、前にも聞きましたけど、もう一度伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 高校生が卒業されてということになると、大学に行かれるか、専門学校に行かれるか、あるいは就職という話でしょうけど、就職のケースというのは基本的には米子周辺の方がウエートの高いという認識持ってます。

あと専門学校、大学については、それぞれの自分たちの目的のためにというところではウエートが高いので、特定の地域ということではないのかな。ないというふうに認識をしております。

ですから、その後のやはり、どういんでしょうか、Uターンにしてもらうためにはということが大きく基軸になるのかなというふうに思ってます。一般的に言われてるのは、やっぱりその大学あるいは専門学校の地域、あるいは実習だとか、様々なつながりの中で就職をされるケースというのが一般的に言われるのは多いのかなという認識しとりますので、ただ、私考えているのは、その後、何年か社会人としてされた後の段階というのがやっぱりキーワードになるのかなというふうに思っておりますので、そういったキーワードになる情報をお伝えできる形というのがまずは大事かなというふうに思っております。

議員おっしゃられるように、企業誘致というところももちろんないがしろにしとるわけではありませんし、春先ではありましたが、鳥取県の担当の課の皆さんにそういった条件だとか、環境というものの在り方だとか、そういったところもお聞きしながら、もし県のほうに照会があれば、ぜひ日南町でのマッチングができる可能性があるようだったら情報提供してくださいとか、そういった取組はやらせてもらっておりますので、県としても、どういんでしょうか、事業の内容によっては、優先的言やおかしいですが、紹介はしていただくものというふうに認識しておりますので、そういう機会を持ちながらという取組の状況ということを報告させていただきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 大変厄介な、企業誘致というかな、職場、就業機会の創出というのは大変難しいものであるということは十分理解するわけなんですけど、でもこれはやはり避けて通れない、自治体が残っていくために大事なことだと思います。引き続きの御努力を希望するものであります。

この人口減少の大きな要因とすれば、要するに年間における婚姻数であったり、特殊出生率なども大変重要な数値として上げられるわけなんですけど、鳥取県のほうも今年婚姻数の推移に大変着目しておられまして、2019年に2,389組の婚姻があったのが2022年には1,981組、408組も減ったということが書いてありました。

日南町の婚姻数の推移というものは、近年で結構ですが、そういったものは把握されておられるのか、お伺いします。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） すみません。現時点でその資料持っておりませんが、毎月の町

報あたりでも、全員が載ってるかどうかはちょっと定かでない部分はありますが、そういうところは気にかけてるというのは、私自身もそのように思ってます。

おっしゃられるように、やっぱり最近ちょっと結婚の、婚姻の件数が減ってるなというイメージで持っとりまして、人がおらないわけではないので、その辺のマッチングというのは以前からどういう形が望ましいのかという話は考えながら、今現時点では予算化してますように、どういんでしょうか、小ぢんまり言うちゃいけない、そういった取組をしておりますので、うまくマッチングができるようにというところと、積極的にやはり登録していただいたり、参加していただくということが、そういうところまずは期待をしたいというふうに思っております。コロナの関係で年に1回とか、あるいは中止の時期もたくさんありましたけれども、去年は2回、どういいますか、マッチングのツアーみたいなところが2回してもらったりしておりますので、そういった機会を捉えてより、どういんでしょうか、婚姻件数が伸びることを期待したいと思いますし、また応援もしていきたいというふうに思ってます。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） では、町のほうも予算化をして、婚活事業のあれをやっとるわけなんですけど、近年のこの婚活事業の成果実態はどういうこと、どういう形になっておるわけですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 先般、その8月にイベントがあったというふうに思っておりますんで、ちょっとその辺の実態、数値あたりの報告は担当課のほうからさせます。

○議長（山本 芳昭君） 段塚こども若者未来課長。

○こども若者未来課長（段塚 直哉君） 婚活の事業、イベントですが、8月の終わりにも開催したところです。男女8人ずつというやなイベントしたわけですけども、その辺のカップルの成立がどうかということとはちょっとここでは控えさせていただきますけれども、そういった事業をまた本年度もう一回やる予定にしております。いろいろイベント、結婚相談所との登録というようなことでいろいろ、たしか2018年から婚活の事業のほうを行っていると思います。その中で成婚まで行かれた方は、7組実績としてあります。7組ですが、決して少ない数だとは思っていません。引き続きこういった事業を進めながら進めてまいりたいというふうに考えとります。

○議長（山本 芳昭君） 9番、近藤仁志議員。

○議員（9番 近藤 仁志君） 7組という報告ありましたが、今までもこれを数字を聞いたわけなんですけど、これは婚活事業を始めて当初の頃にばたばたばたっとたくさんの方が成婚されたという数字的な動きがあったわけで、近年ではなかなかそういった成果というのが見えてこないわけなんですけど、この取組の、今のやっとなる婚活事業の取組に対して何か見直すとか、そういった必要性が感じるとか、この点をもっと改善してみたいなというような検討などはなされておらないわけですか。

○議長（山本 芳昭君） 段塚こども若者未来課長。

○こども若者未来課長（段塚 直哉君） イベント等開催いたしまして、参加者から意見を聞きながら改善等はしております。例えば町内でイベントを行っていたものを町外で行ったりというようなこともします。といいますのが、大体に町内で行ったほうがいいとは考えとりますけども、なかなか知っておられる方がおられたりして、こういうプライベートなところに、問題にこういったイベントに参加するのが何か見られたくないというような意見もあったりして、いろいろ参加者の意見を聞きながら方法等も考えて改善をしているところです。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 先般、インターンで今、日南町のほうに来ておられる男性の、男子学生と会話した、話をしたときに、自分にとってこの日南町というのは大変魅力のある町なんだけど、女性との出会いが感じられないと、ちょっと不満というかな、何か残念な言葉を言っておられました。やはり女性が日南町の中に少ないということは、男性にとっても魅力がないというのは間違いないことだと私は思います。

あくまでやはり女性を残れる、残りたい、戻りたい、やりたいことができる、そういったような環境をどうしてもいろんな形で取り組んでいただきたいわけなんですけど、その点町長のちょっと考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 町内で住んで、働いてというのが理想だというふうに思っていますが、これからの仕事につきましても先ほど冒頭の、どういんでしょうか、答弁にも申し上げましたけど、起業するとか、サテライトオフィスで働くとか、仕事を組み合わせるとか、いろんな捉え方があるのかなというふうに思っておりますし、ですからそういうところがさらにできると、プラスアルファとしてできればいいのかなというふうな思いを持ってるところであります。

また、今年の、どういんでしょうか、8月の10日だったっけ、商工会の青年部が中心となりましたふれあい夜市というところがありまして、その中で、どういんでしょうか、店舗数がどんどん増えてきたというところがあります。商工会の青年部がもちろん中心で、主体的なところはもちろんそうなんですけど、役場の職員だとか、病院の職員さんだとか、福祉会の職員さんだとか、様々な分野の業種の皆さんがお手伝いという形を取っていただいております。そういった新たな動きというところもありますので、既存の男性と女性が出会う機会というか、そういう少しではありますけど、そんな取組につながってるのかなというふうに期待はしますし、こういう考え方を一つの縦割りで考えるのではなくて、横の展開というところもこれからそういう動きになればそれなの、どういんでしょうか、期待するところにもつながる部分ではないのかなというふうに思っておりますので、そういった取組自体をさらに若者の皆さん自体がそういう認識をしていただきながら様々な分野の中で横の動きが拡大、強化になればよりいいかなとい

うふうに思っておりますし、行政としてもそういう声を発信していきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 続いて、2 番目の項目のほうに移ります。答弁要旨のほうに、町民が楽しく集える場所となる中心地域を目指すというのを答弁要旨でいただいとります。町民が楽しく集える場所というのは、そういったものはこういった形態であったり、またこういった施設、そういったものを想定されておられるのか。先ほどは公園などとおっしゃられましたが、それ以外に本当町民が楽しく集える場所というのはどういうものなのか。また、それはこういった年代であったり、性別だったり、ターゲットを決めておられるのか、おられないのか、その点をお伺いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 回答しとりますけど、いろんな町民の皆さんからお声をいただきながらというところでありますので、最終的な結論出してるわけではないというふうに思ってますけれども、それこそ年代を区切る必要はないというふうに思ってますので、誰もが利活用できるというところのスタンスというのが、空間もそうですし、建物もそういうところができるようになればよりいいのかなというふうに思ってます。ですから高齢者だけが利用できる施設だとか、若い人だけということではなくて、それこそごちゃ混ぜみたいなどころの利用というのがやっぱりこれからの在り方ではないのかなというふうな基本的な捉え方を持っておりますので、そういった複合的な考え方というのが、建物も含めてですが、中心的な視点というふうに思っておりますので、そういうところ考えながら、町民の皆さんの御意見をいただきながらというところですり合わせをしていくことではないかなというふうに現時点では思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 町民の意見を聞くというのは大変重要なプロセスだとは思いますが、やはりそこには町長自身のこういう町にしたいという考えも大いに持って、それを訴える必要もあると思います。

町民の声として、小さなお子様連れの方が子供連れでゆっくり、のんびりくつろげる場所が日南町にはないと。今は車の明かりを頼りに子供をだっこしながら立ち話をして、お互いの困り事であったり日常生活について語り合うのが現実なんですよということを聞きました。

そういった意味において、ちょっとした気軽に立ち寄って話ができる、個人個人の管理の下で、そういったようなスペースを確保するというような方策も十分あると思うわけなんです。予算的にもあまり必要もないし、そこに行ったら同じ悩みを持ったり、同じ、そこに人がいて、そういったスペースを、空き家もたくさんあるわけですので、そういったのを提供するということはどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 議員がおっしゃられた内容のイメージというのは、どういまいしょうか、そういう空間というところがあればよりいいなというイメージは持っとりますけど、ですから、そういう形がどういう形、どこにという話はこれからの詰めかなというふうには思っとります。そういった議員のおっしゃられるような声というのは私自身も聞いておりますので、そういったところがつくれる、どういまいしょうか、肩肘張らずに自然体の中でみたいなイメージだろうというふうには思っておりますし、一方では、やっぱりアンケート等にも出てきたというふうには思っとりますが、運動機能みたいな健康的なところの視点というところも声を聞いとりますので、そういったところがうまく複合的にできるとよりいいなというふうなイメージは持っておるところであります。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） それで、期間を切って、今週は誰々さんでというような、来週は誰々さんというような、いろんな方、誰でも使えるというような空間を用意して、貸出オフィスとして、仲間であったり、個人であったりが写真であったり、絵画、手芸などを展示して、そこにみんなが寄って、関心がある人、ない人、いろんな人が寄ってもいいと思うわけなんですけど、またかつて同僚議員が言っていましたが、蔵出し骨董店など、要するに各、田舎ですんで、いろんな骨董店、価値があるのかないのか分からないけど、何か面白いものがあるなというようなのをある期間を切って、今日はどこのだれべえがどういったものしますよと言いながら、そこにカフェがあって、くつろいで話しながらするというような企画も十分考えられるわけなんです。やはりそういった手の届く施策というのが大変重要だと思うわけなんですけど、そういったのを、いろいろ町民の声を聞きながらそういった手の届くところから始めてみるというようなお考えはどうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） イメージ的にはよく理解できましたので、その視点はもちろん持っていきたいというふうには思っとります。

余談な話になるのかもしれませんが、先般、ちょっと行政視察行ったときに、若い町長さんでしたけれど、最初に造ったのが、焼き肉パーティーができる場所みたいなところがありまして、町の中心部でありますし、焼き肉だけではなくて、その隣に、どういまいしょうか、喫茶コーナー的な、コーナーだけが置いてあったというところでもありますので、要は目的は若い人たちが集まって自由に焼き肉などもするでしょうしというところがメインの内容の建物だったという話をお聞きしましたので、地域差によってはもちろん違うというふうに思いますが、基本的にはそういう誰もが気軽に入って活動ができる場というところではないのかなというふうには思っとりますので、議員がおっしゃられた内容とも連動するものというふうには思っとりますので、これからもその辺の視点は入れていきたいというふうに思っています。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（９番 近藤 仁志君） 小田切先生の講演で「「にぎやかな過疎」をつくる」という題でありました。自分がその中で感じたのは、関係人口の機会を創出するというのがポイントだというように感じたわけなんです、要するに人口は確実に減るわけで、縮む社会にあって、人々の往来であったり、訪問、それから関心度を上げていくというような、上げることでにぎやかな町であり続けることがこの持続可能な町につながるんじゃないかというような、自分とすればそういったように感じ取ったわけです。

その中で関わり方の階段というので、地域への関わりを深めるプロセスという形で紹介されておりました。スタート段階のところにふるさと納税というのがありまして、ふるさと納税をもってこの日南町に関心を持ってもらって、最終的には移住というようなことまでありましたが、ただ、ふるさと納税をすることによって関心を持ってもらって、日南町に対する往来をしてもらうというようなことでにぎやかさを創生するというような感じですが、日南町の場合、ふるさと納税が目標額が減額されました。そういった意味において、ちょっと何か本気度が見えないわけなんですよ。このふるさと納税で何をするかというような本気度が見えないんですよ。その点はどのように自分たちは感じたらいいわけですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういいますか、小田切先生の話というのは、私も興味深く聞かせていただいたり、あるいは資料も含めて何度か読み直すといいたいと思います。あの先生の言われるような地域づくりの到達点というところの中の動きとして一つの例だというふうに思っていますが、議員おっしゃられましたように、ふるさと納税から関係人口つくってという話の在り方の紹介をいただいたというふうに私も思いますが、多様な在り方があっていいのかなというふうに思っています。総じて地方創生というのは、今人口減の話がありますけれども、基本的には人材増をこれからつくっていくということだろうというお話もいただいたりしておりますし、また基本的には住んでる皆さん方が自分事として考えると、そんなお話もいただいたというふうに思っております。

様々なにぎやかな過疎をつくるというところでありますので、多様なプレーヤーであったり、仕事であったり、あるいは関係づくりであったり、そんなところがそれぞれがごちゃ混ぜになりながらというところだというふうに思っています。町としても今、協力隊だとか、大学の関係の皆さんだとか、様々な、それこそ関係づくりをさせていただいておりますので、そういった皆さんとの交流、あるいは民間の企業との交流も含めてどんどんつながりをつくっていききたいというふうに思っておりますので、それがふるさと納税につながるかどうかは別として、いずれにしても日南町という町を知っていただきながら関係づくりをどんどん高めていききたいというふうに思っておりますので、そういった取組をこれからも継続した形としてつくり上げていききたいというふうに思っておりますし、ふるさと納税のほうも様々な角度で今見直しをしておりますので、少し低迷をしてる

というのは反省点として持っとなりますけど、これから頑張っていきたいと思いますので、御協力お願いしたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 町長、大変丁寧に答えていただいておりますのでございますが、できれば簡潔な答弁をお願いしたいと思っております。

9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） ふるさと納税で、以前からおっしゃられておられる内容として特産品の開発がなかなか進んでいないというような、商品の開発が進んでいないというようなことを何度か耳にしておりますが、もしあれなら訪問機会を増やす意味において体験型であったり、訪問型のメニューのふるさと納税というのもありではないかと思うわけなんです。といいますのは、昨今、米の不足があって、ニュースになっとなるわけなんですけど、要するに自分が流した汗、自分が汗を流して生産したお米を食べるとというような経験というのは、やはりおいしい、より以上においしく感じるものだと思うわけなんです。自分が収穫した野菜、トマトなどを体験して、それを持ち帰って自分が食べたら大変恐らくおいしい、スーパーで買うものよりもおいしいと思うわけなんで、ひょっとしたら体験をしに来てもらえるかもしれませんし、その収穫風景を見るために来てもらえるかもしれん。要するに人の往来が増える。そうすることによって、ただ人材の育成ということできなし、人がたくさん行き来することで、その中で人材というのは自分はいろんな意味で生まれてくると思うわけなんですけど、そういった商品としての体験型、訪問型のメニューというのはどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今、どういいますでしょうか、ふるさと納税のほうでお世話になっての方とお話合いの中で、新しい視点といいますでしょうか、そういったところは組んでいただくことはやぶさかではない。むしろ率先してお願いしますと話をしておりますので、ただ、項目として上げるためにはいろいろな関係者の皆さんとの合意形成がもちろん要りますので、そういったところで少し待っていただくのかなというふうに思っておりますし、既存でない、今までにない形というところも模索をしていただくようお願いをしとなりますので、ちょっと具体的なところはまだ確認はしませんが、その方向で進めてるということだけはお伝えできると思います。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） それと先般、議会のほうで新庄村のほうにヒメノモチの加工についての視察に行ってきました。その中で新庄村のほうは、個人的に訪れられた芝田山親方、元横綱大乃国ですね、その方が個人的に新庄村を訪れられたのを契機に、ひめのもち大使をお願いして、それが今はその芝田山親方にひめのもち大使を受けてもらってるというような話も聞きました。

今年初めて福万来ホテル乃国に女優さんが来られたということで、蛭鑑賞に来られたわけ、家族で来られたわけなんですけど、今までで恐らく一番全国的に有名な方が来られ

てんではないかと自分たち感動したわけなんですけど、ただ、自分たちも現場では暗いので確認できなかったわけですが、発着場所の道の駅では店員の方もですし、また山里L o a dの担当者の方も分かったわけなんです。でも声もかけないし、感想も聞いてないという、大変消極的な山里L o a dの姿勢があまりにも残念でなりません。後追いでいいので、もしあれしたら感想聞いてでも、アンバサダーといきませんけど、日南町のファンとして名前を列記できるような関係が築けられたらいいなと思いますが、この山里L o a dの姿勢というのですね、そういうのをどう、委託者としてどのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その情報の話は、結果としてですが、私も多分そうだろうという話の中で、報告ではないですけど、聞いております。どういんでしょうか、もちろん仕事で来られているわけではないので、プライベートというところが基軸でありますし、実際には署名をしてるわけでは、署名しても芸能名ではないのというところの環境の中で、プライベートというところがやっぱり重点的に、視点的に考えたというところだろうというふうに思っておりますので、ただ、そういう有名な方が来られたということは何らかのこれからのP Rの中に私は入れていきたいというふうに、実名はもちろん許可を得ないと、得られないというふうに思いますけど、そういったことはこれからの中でP Rの一つの材料言やおかしいけど、結果としてそういう話は載せていっていいのかなというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 自分が言いたいのは、やはり機を逃さない、そのタイミングというのはもうそのときしかないわけですし、そのときになぜ山里L o a dが、プライベートで来られたのだからプライベートで接することは大いにあるわけなんで、もし仮に自分がその場にいたら恐らく話しかけることはできたと思いますし、話しかけたかったし、福万来の蛍の感想というのも率直な意見として聞きたかったわけなんで、やはりその機を逃すということは大変損失も大きいわけで、後からなかなか取り返しがつかないということなんで、そういった山里L o a dの姿勢というのを町長のほうから、注意というか、ただすというかな、こういったことが事案があったので、もっと積極的な、何かな、観光振興に努めてほしいというような話を持っていくような考えはどのようにお考えですか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） これからの先の中で山里の皆さんとお話ししたりする機会がもちろんあるというふうに思ってますし、場合によっては直に話をするという話はもちろんあるというふうには思っておりますけれども、その中でやはり偶然にしてもということだというふうに思ってますが、どういんでしょうか、議員おっしゃられるような意欲的なというところは当然必要なことだろうというふうに思っておりますので、多分どち

らかいとうびっくりというような状況ではなかったのかなという想像はしますが、とはいいいながらこういう観光地域で観光のためのということと併せて魅力的な地域だということはもちろんそうだと思いますので、できれば感想というところをこれからの在り方として一言いただけるといいのかなというふうに思っておりますので、直接的でなくても間接的にそういった言葉を獲得できればよりいいかなというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 3 番目のほうに移らせていただきますが、町のほうでは米の、あれですね、単独の支援の考えはなかなか難しいというような答弁だったように感じますが、これも先般の新庄村のほうの事例として言いますと、日南町の場合はかつて検査料の助成をしていただいて、大変農家の方は喜んだわけですが、それは今廃止になっておりますし、そういった意味で単町の助成というのがなかなかないということですが、新庄村のほうではヒメノモチに対して、大体ヒメノモチの作付が耕作面積、水稻の作付面積の7割を占めとるそうでした、大変広範囲でヒメノモチを栽培されているというようなことでありました。その中で農業公社というのが、JAが撤退するに当たって、それを受皿として農業公社というのをつくって、そこに農業公社に一元出荷をするのを条件で農業公社の買入れ価格が1俵1万6,800円に町が2,000円の上乗せをして、なおかつ1等米には1,000円、2等米に500円ということで支援をするというような話を聞きました。大変そのヒメノモチをもってまちをつくるという覚悟を強く感じたわけなんです、日南町でも、そのまねをしろというわけじゃないですが、農業生産におけるある一部分を何か手助けをするというような考えを検討してみるというようなお考えはないでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） どういいますか、農業全体からいくと日南町という町は結構支援してるというふうな、トータル的です、お米だけということではなくて、そういう認識をしておるところであります。

ただ、それだからしないということではないというふうに思っておりますが、今回基本法の改正もあつたりするので、それに向けて今、国のほうでは基本法、基本計画をというか、そういう取組をしてる最中でありまして。ですから、中山間地の交付金であるとか、多面的であるとか、そういった取組も柔軟な形に今検討されてるという状況というところもありますので、そういった状況を見ながらこれから、今回米の値段が上がりましたけれども、とはいいいながら不十分だというふうに認識持っておりますので、そういった取組は今後継続できる形というののためには何があればいいかということをやはりJAさんとも意見交換しながらつくっていききたいなというふうに思っておりますので、出す、出さんというところは、現時点ではありますが、煮詰まってないというのが現状であります。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 食料・農業・農村基本法の 5 条、6 条のほうに農業の持続的な発展と農村の振興というような項目で国の方向性を、方針をうたってあるわけなんです。そういった意味において合理的な価格の、持続的な食料供給をする上で合理的な価格が必要だというようなことが書いてあるわけでありましたが、昨今の米価及び肥料、資材の価格の変動は大変農家を苦しめてきております。

そういった意味で、やはり町も国のほうにあれしていただきたいと思いますし、先ほど町長がおっしゃいましたけど、今年度は農協が頑張って米価を 1 袋当たり 2,400 円の値上げをされたということですが、町長のほうにも資料を提供しましたが、ただ、平成 2 年から平成 5 年まで、昨年までですね、大変生産資材が上がってきますし、肥料が大変上がってきます。5 割アップというような数字が、自分たちの会社の数字であります、出ってきますし、米価のほうは、91%ですね、92%ですね。平成 3 年にはもう 8 割切って、78%の価格、平成 2 年と比べてですよ、そういったことを経緯をしてきた上で、本年度、たまたま高い金額が出たということで、この今年の価格は決して値上がりして特別なものではないと私は考えるわけなんです。来年以降もこの価格が当たり前として展開するべきだと思っているわけですし、これを維持するためにやはり国のほうにもどんどん働きかけをしていってほしいわけなんです。

今度議会のほうでも国家要望という形をお願いする機会を設けております。私のほうとしてこういった点をぜひ議会として取り上げてほしいという提案をしていきたいと思いますが、町のほうでも横並び、よその市町村、県と歩調合わせて、こういったのをもう適正価格というのが、今年の価格が特別でなくて、これが最低線であるんだよというのを訴えていってほしいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 単価的なお話しすると、私も同感の考え方を持っております。

どういんでしょうか、特にこういう地域、中山間地という地域でもありますし、土地の形成もやっぱりある程度制限がある地域でありますので、より、どういんでしょうか、じゃあ、収入というか、米の価格は中山間地だから特別高いというわけではないというふうに思ってますので、それとやはり流通も含めて構造的なところもあろうかなというふうに思っております。

いずれにしても国のほうでやっぱり合理的な価格形成のためにはどうしたらいいかということを今特に議論をされておりますし、これから法案提出みたいな形の目標数値、目標的なスケジュール感も持ってもらえるようでありますので、ぜひそういったところの中にいろんな議員さんのことも含めて、どういんでしょうか、地元出身の方も含めてやっぱりそういったことを声を上げていくということはこれから大事ではないのかなというふうに思っております。将来的にやっぱり食料の安全保障をどう考えていくかということにもつながるんじゃないのかなというふうには思っておりますので、そういった視点

を踏まえながら、お米に対する、主食米でありますので、その辺の在り方というところは、どうか、大切なことだろうというふうな考え方の中で私どもも進めていきたいというふうに思ってますし、活動のほうにもそういう声を上げ、県にもそういう声は上げていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 現在の価格の設定の仕組みというのが、自分が考えるに、第1に、特に米ですが、米がちょっと上がったならマスコミがぼんとたたくという、特に農産物をですね、野菜が高い、米が高い。自分たち、そのニュースを見るたびに大変憤慨するわけなんです。そういった意味において消費者の値頃感が一番優先されていると思うわけなんです。そこから、それによって決まった価格に対して、農薬、肥料、生産資材、運送費などの値上げが優先されて、その上にイノシシや生活環境整備などの費用を引いて、その後がやっと農家の手取りとして残るという大変矛盾したような構造になっておるわけで、やはりこれをあれするには、解決するには消費者の理解というのは必須だと私も考えとります。

そういった意味において、やはり消費者と生産者の交流というのを推し進めてもらって、先ほど言いましたけど、体験型のふるさと納税でも結構ですし、やはり農業というのはこういった苦勞ありながら、イノシシ被害場所を見てもらってもいいですし、そういった現状を理解してもらおうというような取組が必要になってくると思うわけなんです。そういった機会というのを町のほうで企画する、お互いに農業法人であったり、そういった組織と協議しながら進めていく方法もあろうと思いますが、その点の考えを、どのようにお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 最後の項目の交流事業にも重なる部分ということだというふうに思っておりますけれども、基本的には価格形成をより消費者の皆さんに理解をしてもらうということがこれから大切だろうというふうに思っておりますので、そういった目的のためには実体験というのはしていただくとより理解度が高まるんじゃないかというふうに思ってますし、それぞれの地域の交流にもつながるしということではないかなというふうに思っておりますので、ぜひ法人、あるいは地域でももちろんいいでしょうし、そういった取組を進めていただくことを私どもも歓迎をしていきたいというふうに思っております。

○議長（山本 芳昭君） 5 時になりましたが、会議を続けます。

9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） やはりこういった農村との、生産者と消費者の交流というのは今後この日南町が生き残っていくに大変重要なことだと思います。人材の確保であったり、それからお互いの知識というかな、情報、それから日南町の資源の発掘、そういった意味で大変重要なと思いますが、町のほうで事業として計画というのはお考え

はないでしょうか、どうでしょうか。検討されるというような考えはどうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 今後の展開として、この在り方、考え方というのは多分御理解いただけるというふうに思っておりますので、手挙げ方式みたいな形になるというふうに思っておりますので、そういった企画といいたしましょうか、そういうことも検討しながら、ぜひ多くの皆さんに、多くのというか、まず1つずつつくっていくということの在り方、それを拡大していくというところの流れというのができそうなのか、現実味のある活動ではないのかなというふうに思っておりますので、ぜひ役場の中でも検討してみたいというふうに思います。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 最後の項目になりますが、日南米のブランド力アップですね。日南町のお米はおいしいと大変、特に米子近辺、鳥取県の西部地方では名が通って、米子でも米子の飲食店のほうで日南町産米使用というので集客力に貢献しとるという実態が見てとれるわけなんです。

ただ、ちょっと東部の方に話を聞いたら、流通するのが日野郡コシであって、それからもう一つ、日野特裁米。日南という名前が出ん。日南、だけ、日野町の米だと思っていたというような、何かな、ちょっと話を聞いたんですよ。えっ、日南町の米はおいしいんですかと言われたもんで、鳥取県東部ですよ、残念ながらそういったことがあること自体がちょっとびっくりしたもんで、これはちょっとおかしいではないかと。日野郡コシ、日野特裁というのは日野町の米ではないというのを、日南町の米がおいしいんだというのをやはりもっと本当消費者の立場にも話を聞きながら展開するべきだと思いますが、その点どうでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） その、といいたしましょうか、J Aからの流通なのでというパターンではないのかなというふうに思っておりますので、そういうことはあり得る話なのかなというふうに思ってますし、概算金でも区分的にはそういう日野郡というところの中のコシヒカリで区分化されとりますのでということかなというふうに思っております。

おっしゃられるように、日南米というのは、またちょっと違う言やおかしいけど、これからのブランド力をつけるにしても、どういうやり方がブランド力がつく、構成できるかという話だろうと思いますので、今いろんな、今日の冒頭のお話も一部させていただきましたけれども、そういったブランド力をつけるための在り方というところの議論は私はしてもいいのかなというふうに思っておりますので、例えば一つは、やはりいろんな、品評会じゃないですけど、そういうところに出ていただいている方もおられますので、そういったところを重ねていくなりということだとか、特定の、とはいいいながらある程度ブランド力つくるにも数量的なことだとか規格も当然必要になってくるというふうに思っておりますので、そういった細かいところも検討していきながらブランド力のつ

け方の在り方を議論を内部的にはしていきたいというふうに思いますし、関係者も含めてですが、ということかなというふうに今思ってるところであります。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 先ほどおっしゃられましたけど、農協に出荷することによって日南町の米というのが埋没してしまうという実態があるということを御存じなら、それに対する何かを考えるというのはやはり町長の責任だと思います。私たち各農家もまさかこういった日野郡コシ、日野特裁が日野町だという感じ取りをされていたというのがちょっとショックでありましたんで、特にあれします。

各法人で法人ブランドで販売されてるお方もおられるわけなんですけど、この法人ブランド、その生産者にとって大事なものでありますので、それを生かしつつ、やはり日南町の米はおいしいんだというブランド名、また日南町の米がなぜおいしいかというようなパンフレットであったり、何らかの形で情報発信をしていくということが大いに必要だと思うわけなんですけど、その辺の取組についてどのように町長はお考えでしょうか。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 基本的には日南米を作るとのことだというふうに、トータル的にはそういうことだというふうに思っておりますので、それを作るためには町内でなくて町外の皆さんに知っていただくための在り方だろうというふうに思いますので、その辺は皆さんと共に、あるいは協力を得ながら、それぞれの皆さんの協力も得ながら、対策といえましょうか、やり方を検討してみたいというふうに思っております。ぜひまた様々な御意見をいただければと思います。

○議長（山本 芳昭君） 9 番、近藤仁志議員。

○議員（9 番 近藤 仁志君） 農家にとって一生懸命汗水流して作ったお米が本当自分たちが作ったというのを消費者にアピールできる最後の機会ですので、出荷して消費者に食べてもらうというのは、それがなぜおいしいかというような訳も説明できるような形で販売したいというのは強く思っております。

最後になりますが、特に新庄村に行って感じたわけなんですけど、ヒメノモチをさばって、昭和 58 年から本格栽培、56 年、5 年だったかな、には試験、検証栽培をされて、58 年から本格栽培して、本日まで至っているということで、そんな中には覚悟と誇りを持った取組を続けてこられているんだなというのを大変強く感じました。

そういった意味において、若干日南町の施策には覚悟が足りないではないかというような気がしました。いろんなことを、事業されますが、これをもって日南町を今後、何かイメージアップしたり、ブランド力を上げていこうというようなことを若干感じないというのが残念に思っておりますし、やはり覚悟を持った施策、事業は皆が応援したくなりますし、そうすることによって継続性が生まれ、魅力へと変わっていくのではないかと私は考えます。そういった意味において、どういう、何をもってこの日南町というふるさとを振興させるのか、中途半端でない覚悟を持った取組をやっていただきたいと思

いますが、その点をお伺いして自分の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（山本 芳昭君） 中村町長。

○町長（中村 英明君） 冒頭にも申し上げましたが、やっぱりブランド力つくるということは、最終的には消費者というか、食べていただいて答えが出るものだというふうに思っております。ですから、そのためにはどういう展開をしたほうが一番いいのかということをやっぱり議論するべきだというふうに思ってます。ですから、日南米はおいしいというところは、冒頭おっしゃられましたように西部地区管内、あるいは私からいえば中国管内の米卸の皆さんは知ってるというふうな認識を持っております。

ですから、私たちが町内で作れる量というのも3,350万袋か、キロか、それぐらいのある程度一定の条件がありますので、その中のやっぱりより高く買っていただく、あるいはおいしく頂くというところをテーマにしながら議論をしていく必要性があるかなというふうに思っておりますので、様々な機関の皆さんとの御協力いただきながらけんけんがくがく協議をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（山本 芳昭君） 以上で近藤仁志議員の一般質問を終わります。

○議長（山本 芳昭君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会にしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本 芳昭君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定しました。

ついては、明日9月4日の本会議は別に通知をしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いします。

本日はこれで散会します。長時間お疲れさまでした。

午後5時12分散会
